化ノ點ニ於テモ、決シテ良好ナルモノニアラズ。

九、 飲食物ノ溫度ハ大ニ消化ノ進行ニ影響ス、コレ消化器官ノ粘膜ニ對シ影響スル所甚タ大ナルヲ以テナリ、故ニ血溫ヲ標準トシ、決シテ極熱酷冷ニ過グベカラズ、來人ニ於テ消化不良ノ患者多キハ、一ハ急卒ナル喫食ト、一ハ妄リニ冷水ヲ飲用シ、若シクハ之レヲ飲用シツヽ喫食スル者多キニ歸因スルモノナリ。

十、 食後直チニ運動セシムルハ有害ナリヤ、若シクハマタ睡眠セシムルモ敢テ差支ナキヤハ、一考ヲ要スベキモノニシテ、或學者ハムシロ食後ハ睡眠セシムベシト云ヒ、或者ハムシロ散策セシムベシト云フ、然レドモ一般ニ之ヲ論ズル時ハ種々ノ點ニ就テ講究セザルベカラズ、即チ吾人ノ習慣、年齡若シクハ日常ノ經驗ニヨリ、殊ニ又疾病ノ種類ニ應ジテ決定セザルベカラズ、例令或胃病者ハ食後直チニ就眠シテ一二時間後ニ醒覺シ頭重、頭痛ヲ訴ヒ、同時ニ口中不快ノ感ヲ覺ユル者アリ、殊ニ神經性消化不良ノ者ニ多ク見ル所ナリ、故ニカヽル場合ニ於テハ吾人ハムシロ患者ヲシテ食後小散策ヲ行ハシメ、然ル後身心ノ安靜ヲ保タシムルカ、若シクハ又食前一二時間ノ睡眠

ヲ貪ラシムルヲ可トス然レドモ機質的障害若シクハ榮養障害ヲ伴フ患者ニ於テハ、食直後ノ安靜ハ勿論、尙ホ引續キ暫時間靜穩ノ位置ニアラシムルヲ要ス、然ル時ハ消化ノ機能ヲシテ益其作用ヲ進捗セシムルコトヲ得ベシ、メーリング氏等ノ實驗ニ徵スレバ、食後右側位ヲ攝ル時ハ食糜ノ胃ヲ辭スルコト速カニシテ、速カナル步行モ亦然リト云ヘリ、起立、跪坐及ビ緩徐タル步行ハ、何レモ其結果同一ニシテ而カモ此等ハ胃ヲ速カニ空虛ナラシメンニハ不適當ノ位置ナリト云ヘリ、腹位及ビ仰臥ノ位置ニアリテハ、胃ノ運動力ハ殆ント中庸ヲ得ルガ如シトセリ、故ニ吾人ハ是等ノ諸點ニ注意シ、習慣及ビ經驗ニヨリ適當ノ法ヲ講ズベキモノトス、余ハ何レノ患者ニ對スルモ常ニ食後二乃至三時間安靜ナラシヽ、然ル後初メテ各自ノ職業、若シクハ運動ニ移ラシムルヲ常トス、

十一、 喫煙ハ消化作用及ビ神經系統ニ影響スルモノニシテクラウデ、ベルナルド氏ハ喫煙ハ唾液ノ分泌ヲ亢進シ、同時ニ胃ノ消化液分泌ヲ增進シ、從テ消化ヲ進捗スト云ヒ、ウォルフ氏ハ喫煙ハ初メハ分泌神經ヲ亢奮シテ其量ヲ增進セシムルモ、後ニ至リ「ニコチン」毒ニヨリテ鹽酸ノ分泌ヲ鈍麻セシム

ト云ヘリ、要之喫煙ハ其少量ヲ用フルハ決シテ咎ムベキニアラザルモ多量ヲ用フルハ禁ズベキコトヽス何トナレバ慢性「ニコチン」中毒症ノ多クハ皆消化不良ヲ來スヲ以テ見ルモ分泌若シクハ運動力ニ對シテ一定ノ障害ヲ與フルコト大ナルヲ知ルベキナリ、而シテ喫煙ハ空腹時ニ於テハ最モ禁ズベキコトニシテ、攝食後直チニ其少量ヲ服用スルハ決シテ咎ムベキコトニアラズ、其他喫煙ハ神經系統ニ一定ノ影響ヲ與ヘ、少量ヲ用フルニ當リテハ、精神ノ爽快若シクハ食思ノ亢進ヲ促ガス等ノ利アリ、然レドモ過喫スレバ却テ之ヲ鈍麻シ、所謂中毒症狀ヲ來スヲ以テ注意スベキコトヽス。

十二、 飲酒モ亦喫煙ト殆ント同樣ノ關係ヲ有スルモノニシテ、或學者ハ食養上缺クベカラザルモノトシ、或學者ハ又之ヲ以テ一種ノ毒物ナリト稱ス、然レドモ吾人ノ見ヲ以テスレバ決シテ排斥スベキモノナラズトス、實ニ酒精飲料ノ善用ハ食思ヲ亢進シ、消化ヲ補助シ、實ニマタ胃ノ運動官能ヲシテ其力ヲ增サシムルモノナリ、故ニ適當量ヲ適當ナル條件ニ於テ與フル時ハ時ニ良好ノ食品若シクハ藥品トシテ用フルヲ得ベシ、例令神經衰弱ノ患者ニ之ヲ投與シ、其元氣ヲ奮起セシメ、生活ノ愉快ヲ知ラシムルガ如キ、若シクハ突然現ハレタル心臟ノ衰弱ニ於テ、有効ナル藥品トシテ奏効顯著ナルガ如キ、實ニ酒精飲料ハ或場合ニ於テハ榮養ノ節約トナリ、同時ニ其刺戟トナルモノナリ、然レドモ其量ヲ過ゴス時ハ害コレヨリ大ナルモノナキニ至ル（前章酒精飲料ノ部參照）。

十三、 重症患者ニシテ縱令絕食ノ必要アリトスルモ、永時日間全ク食品ノ供給ナキ能ハザルヲ以テ、一定ノ時日後ニ於テハ、出來得ル限リ充分ノ榮養ヲ與ヘザルベカラズ、故ニ口腔ヨリ與フルヲ得ザレバ、コレヲ直腸ヨリシ若シクハ皮下ヨリスベキモノトス。

十四、 疾病ノ回復期ニ當リ、殊ニ注意スベキハ窒扶斯患者ノ回復期食養ニシテ、他疾患ノ回復期ニ比スレバ液性若シクハ粥狀食品ヲシテ出來得ル限リ、永時日ニ亙ラシメザルベカラズ、少ナクトモ全ク下熱シテヨリ十日乃至二週日後ニアラザレバ固形品ヲ與フベカラズ。

十五、 アル種ノ患者ハ疾病治癒ヲ計ランガタメ、全ク食養ヲ給セズ唯生活シ得ル狀態ニ放置セザルベカラザルコトアリ、コレ他ナシカヽル場合ニ於テ食養ヲ供給シ、却テ他疾患ノ合併ヲ來スコト之レアルヲ以テナリ、故ニ饑

餓モ亦時トシテ食養ノ一療法タリ。

十六、 エルスヲル氏ノ實驗ニ徵スレバ、月經時ニ於ケル婦人ノ胃液中ノ酸度ハ全ク不規則ナリト云ヘリ、要スルニ此期ニ於テハ多ク皆消化機能ノ減退ヲ來スコト常ナルヲ以テ、力メテ其奮起ヲ企圖セザルベカラズ、產褥ニ於テモ多クハ酸度ヲ減少スルヲ以テ、コレマタ食養ノ注意ヲ忘ルベカラズ。

十七、 排便ハ常ニ整然タラシムルヲ要ス、故ニ日常ノ生活ヲシテ規律アラシメ、運動靜止其度ニ適ヒ、飲食起臥造次モ忽ニスベカラズ、從テ便通ハ少ナクトモ一日一回ノ運ビニ至ラシムルヲ要ス、然レドモ此際藥品等ヲ用ヒテ便通ヲ强行スルハ賞スベキニアラザルヲ以テ、灌腸又ハ食養ニヨルヲ可トス(後章便秘療法參照)。

十八、 體重ヲ秤量スルハ食養療法ノ効果ヲ決定スルニ當リ、最良ノ標準ナルヲ以テ、體重ハ一週一回若シクハ十日ニ一回必ズコレヲ秤量シ、一々記錄ニ留メ以テ他日ニ備ヒ奏効ノ有無大小ヲ比較スベキモノトス。

第壹篇　消化機疾患

Erkrankungen des Verdauungstractus.

第一章　食道疾患ノ食養總論

Allgemeine Diätbehandlung der Oesophaguserkrankungen.

食道疾患ハ大別シテ二綱トス　一、機質的疾患　二、神經性疾患コレナリ、殊ニ機質的疾患ハ大多數ヲ占メ、神經性疾患ハ極メテ稀有ノ例ニ屬ス。

吾人ハ今重ニ機質的疾患ニ就テ其食養ヲ論ジ、次テ神經性疾患ニ及バントス而シテ機質的疾患ハ大別シテ左ノ三種トス。

一、急性及ビ慢性食道炎。

二、食道潰瘍。

三、器械的障礙ヲ有スル食道疾患。

甲、良性狹窄

乙、壓迫性狹窄

丙、腫、瘍性、狹、窄
丁、廣、汎性、擴、張、

コレナリ、然レドモ各種ノ機質的疾患ハ各相通ジテ食養ノ一致スル點アリ即チ一、力メテ滋養價ノ豐富ナル食品ヲ撰定スルコト、二、罹病ノ器官ヲ愛惜スルコト、三、液狀若シクハ粥狀食品ヲ供給スルコト、四、過熱酷冷ノ食品若シクハ化學的及ビ器械的刺戟ノ極メテ少ナキモノヲ攝取セシムルコト等ハ最モ必要ナル條件トス。

滋養價ノ豐富ナルモノヲ索メント欲セバ、先ツ溫量ノ充分ナルモノヲ撰出スベシ、即チ脂肪食品之ナリ、脂肪ハ食油トシテ攝取シ、若シクハ固形ノ脂肪品ヲ用フ、故ニ阿列布油、扁桃油、肝油、若シクハ此等ノ混合物ヲ以テシ、或ハマタ扁桃乳劑、又ハ「クリーム」等ヲ用フルヲ可トス、其他尙ホ卵黃ト油脂ヲ攪拌シテ乳劑ヲ作ルモ亦可ナリ、牛酪及ビ乾酪モ亦ヨク應用セラルヽモノトス、然レドモ油脂類ハ多數ノ患者ニ於テ僅カニ少時日ノ間連用スルヲ得ルノミニシテ、半數ハコレヲ倦忌スルニ至ルコト多シトス、故ニ他ノ食品ト交代シテ投與スルノ必要ヲ生ズルニ至ルベシ、且ツ油脂類ハ口腔內ニ於テ一種

脂肪食品

ノ臭氣ヲ留ムルヲ例トスルヲ以テ欲用若シクハ食用セル後ニ於テハ、薄荷水等ヲ以テ口內ノ含嗽ヲ施行セシムルヲ可トス。

牛乳及ビ乳酪ハ最モ適當ナル食品ニシテ、或ハ鷄卵若シクハ他ノ食品ト和シテ用フ、其他欠クベカラザルモノハ卵白及ビ卵黃ナリトス、鷄卵ハコレヲ半熟ニシ、若シクハ生ノマヽ用フ、其他尙ホ粥樣調理ヲ施スヲ可トス。

砂糖モ亦往々用ヒラルヽモノニシテ、其効脂肪若シクハ牛乳等ニ劣レリトス雖モ、尙ヨク重症ノ患者ニシテ器械的障害ノ著シキモノニアリテモ、比較的容易ニ通過シ得ルモノトス、砂糖ハ多クハ蔗糖ヲ用ヒ、晩茶、珈琲、「チョコレート」等ニ伍シテ與フ、其他尙ホ乳糖若シクハ蜂蜜ヲ應用ス。

膠質モ亦ヨク應用セラルヽモノニシテ、牛乳凝膠、魚肉凝膠若シクハ肉凝膠トシ、或ハ林檎凝膠トシ、又ハ苺凝膠トシ、諸種ノ味ヲ有スルモノヲ製出シテ食用ニ充ツ、

其他植物性食品ハ種々ノモノヲ應用スルヲ得ベシ、例令米ヲ以テ粥トシ、穀粉ヲ糊泥狀トナスガ如キ種々ノ方法アリ、或ハマタ馬鈴薯其他ノ野菜類モ亦疾病ノ度ニ應ジ、調理ノ法ヲ巧ニスル時ハヨク其應用ヲ見ルヲ得ベシ、尙

蛋白
含水炭素
膠質

ホ其詳細ハ各疾患ニ亘リテ論述スベシ。

人工榮養品モ亦ヨク應用セラルヽモノナレドモ、該品ハ常ニ水ニ溶解スルノ性質ヲ有スルモノヲ最良トス、且ツ其粉末樣ノモノハ常ニ肉羹汁ト共ニ飲用セシムルヲ可トス、例令ブラスモン「ヒギアマ」「ブーロー」「サナトーゲン」ノ如キ然リトス。

神經性食道疾患ニ關スル食養療法ノ大略ハ玆ニ述ブル能ハザルモノトス、コレ其療法宜シキヲ得バ決シテ重篤ニ陷ルコトナク、且ツ持續的ニ消化障害ヲ來スモノニアラザレバナリ、加之其種類ニヨリ若シクハ官能障害ノ時期ニヨリ食養ノ法ハ一々異ナルヲ以テナリ。

尙ホ食道疾患ニ關シ、殊ニ機質的障礙ノ存スル場合ニ於テハ、食品ノ通過ヲ許サヾルニ至ルコトアリ、然ル時ハ常ニ之ヲ直腸榮養法即チ滋養灌腸ニ依賴シ若シクハ皮下榮養ヲナシ、又アル場合ニ於テ食品ノ通過極メテ少量ナル場合ハ、極細ナル消息子ヲ以テ液性食品ノ通過ヲ謀ルコトアリトス。

食道疾患ノ食養各論

Specielle Diättherapie bei den einzelnen Formen der Oesphagusekrankungen.

一　食道炎及ビ食道潰瘍

Oesophagitis und Oesophagusgeschwüre

食道炎ハ急性及ビ慢性ノ二種ニ區別シ得ベク、殊ニ吾人ノ食養上重キヲ措クハ前者ニシテ慢性ノモノハニ於テハ大ナル顧慮ヲ拂フノ要ナキモノトス。

急性食道炎ニ於テハ或ハ特發的ニ來リ、若シクハ外傷ニ因シテ來ル、殊ニ硬固ナル食物嚥下ニヨリ、或ハ異物ノ誤嚥ニ因ルガ如シ、其他往々痘瘡、實扶垤里亞ニ因シテ來ルコアリ、此ノ如キ場合ニ於テハ須ラク該器官ノ炎症粘膜ヲシテ刺戟ヲ避ケシムルニ力メザルベカラズ、故ニ先ヅ二三日若シクハ數日ニ亘リ全ク液性食品ヲ與ヘ、同時ニ微溫ノ調品ヲ奬ムルヲ可トス、或ハ其度ニ應ジテハ粥狀若シクハ半流動體ノ食品ヲ與フベク、日ヲ追フテ炎

漸ハ減退スルニ從ヒ漸次凝膠若シクハ固形食ニ移行セシムルモノトス、食品ノ撰擇ハ化學的、器械的ノ刺戟ヲ與フル物、若シクハ過熱酷冷ノモノニアラザル限リハ、其種類ニ就テハ甚ダ大ナル顧慮ヲ拂フノ要ナシ。

慢性食道炎 ニ於ケル食養ハ急性症ニ比スレバ注意スベキ點少ナキモノトス、該疾患ハ多クハ急性ヨリ移行シ、若シクハ煙草又ハ酒精飲料ヲ多用シ、若シクハ續發的ニ狹窄部或ハ憩室ノ上部ニ於テ現ハレ、又ハ肺臓、心臓又ハ肝臓疾患ニ際シ、食道ノ鬱血狀態ニ因シテ來ルモノナリ、然レドモ多クハ疼痛若シクハ嚥下ノ困難ヲ來スコト少ナシ、唯稀ニコノ症狀ヲ呈スル時ハ、尙ホ器械的、化學的若シクハ溫的刺戟ヲ避クルニ力ムベキモノナレドモ、然ラザル場合ニ於テハ大ナル顧慮ヲ拂フノ要ナシ、唯酒精飲料及ビ煙草ハコレヲ嚴禁セシムルヲ可トス。

食道潰瘍 ハ多ク皆消化性潰瘍トシテ現ハルヽモノニシテ診定頗ル困難ナリトス、殊ニ其下方ニ生ジタル場合ハ胃潰瘍ト區別スルハ容易ノ業ニアラズ、而シテ出血狀態ニ陷ル場合ノ如キハ多ク皆胃潰瘍ノ食養(後揭)ニ準據スレバ即チ可ナリ。

二 食道狹窄 Stenosen des Oesophagus.

食道狹窄症ハ病因ノ如何ニヨリ、若シクハ其經過中ノ時期ニヨリテ、食養ノ法モ亦大ニ異ナルモノトス、從テ今左ニ狹窄ノ輕重ニヨリ大體ヲ論述スベシ。

甲 狹窄ノ輕度ナル場合、

狹窄症狀輕度ニシテ液性食品ハ勿論、而カモ粥狀食品ノ通過容易ナル場合ニ於テハ、食養ニヨリ充分ナル榮養ヲ保タシムルヲ得ベシ、故ニ牛乳ハ勿論、其他牛乳調製品、鷄卵、牛酪、油劑、諸種ノ肉羹、汁、肉汁、馬鈴薯、果實、若シクハ脫皮セル豆類等ノ糊泥狀ニ調製セルモノ、及ビ極メテ柔軟ナル魚肉及ビ粥等ハ好ンデ投與スベキモノトス、此等ノモノハマタ日々之レヲ交代ニ與ヘ、若シクハ諸種相混淆調理スルヲ可トス、唯茲ニ注意スベキハ肉類ナリトス、殊ニ牛肉、豚肉、鳥肉、ハヨク細挫シテ與フト雖モ、稍モスレバ容易ニ一團トナリ易ク、相堆積シテ食道ニ到リ、茲ニ楔狀ノ食塊トナリ、時トシテ狹窄ヲ甚シカラシメ、該部閉塞ヲ來スニ至ルコトアルヲ以テナリ、其他尙ホ皮殼アル食品ハ

ヨク此ノ如キ虞ヲ來スヲ以テ生果等ハ可成コレヲ避ケ脫皮シテ後ヨクコレヲ煮糊泥狀トシテ與フルヲ可トス其他葉菜ノ如キモ嚴重ニ避クルヲ可トス、モシ狹窄ニシテ尙ホ著シク輕少ナル場合ハ、上述セル食品以外ニ諸種ノモノヲ攝取スルヲ得ベク、敢テ一々醫ノ力ヲ藉ラザルモノトス。

牛乳ハ最モ適當ナル食品ナリ

乙　狹窄ノ重篤ナル場合

狹窄症狀重篤ニ趣キ、僅カニ液性食品ノ通過ノミヲ許スニ當リテハ、口腔ヨリ液性榮養品ヲ送致シ得ト雖モ、而カモ榮養ノ佳良ヲ望ムハ至難ノ事ニ屬ス、且ツ液性食品ト雖モ、極メテ緻密ナル撰擇ヲ要スルモノトス。

此際牛乳ヲ飲用スルハ極メテ至當ナル食養ナリトス。且ツ大多數ノ患者ハ之ガ飲用ニ堪ユルモノナリ、然レドモ牛乳ヲ以テ充分ナル榮養ヲ保持セント欲セバ、常ニ三リーテル以上ノ量ヲ要スルモノトス、此ノ如キハ到底至難ニシテ且ツ胃ヲシテ徒ラニ重荷ヲ負ハシメ、次テ來ルベキ同一食品ニ對シテ益其患ヲ大ナラシム、且ツ大人ニ於テハ小兒ニ比スレバ吸收マタ遲鈍ナリ、故ニ之レニ加フルニ少量ノ乾酪若シクハ牛酪ヲ入レ、或ハ卵白、卵黃ノ少量ヲ入レ、以テコレヲ與フルニ力ムベシ、其他肉羹汁、肉汁或ハ人工榮養品ヲ

以テ液性食品ニ投ジテ與フベシ、我邦ニ於テハ「ところろ」ヲ與フル時ハヨク通過スルコトアルヲ以テ、千篇一律ニ終ラントスル液性食品中ニハ、又以テコレヲ試ムルヲ可トス、然レドモ狹窄尙ホ進ムニ當リテハ牛乳ノ嚥下モ尙ホ支障ヲ來スニ至ルコトアリ、然ル時ハ牛乳ヲ稀釋シテ飲用セシメ、尙ホ不充分ナル時ハ、砂糖溶液、肉羹汁若シクハ「アルブモーゼ」溶液等ヲ以テ其欠陷ヲ補フニ力ムベシ、然レドモ此ノ如キハ到底患者ノ新陳代謝ヲ滑澤ナラシムル能ハザルモノトス、故ニ己ムナク一日三四回ノ滋養注腸ヲ施シ、以テ榮養補給ニ力メザルベカラズ、然レドモ終局ノ目的ハ到底達シ得ベキモノニアラザルヤ明ケシ。

ボアス氏ハ食道注射器若シクハ一端ニ漏斗ヲ固定セル短カキ護謨管、或ハ胃管ヲ以テ「オイカイン」ヲ狹窄部位ニ注入シ、一時的嚥下ヲ來サシムルヲ得タリト云フ。ローゼンハイム氏ハ重篤ナル狹窄ニ際シ莫兒比涅ノ皮下注射ヲ施シ、一時性ニ狹窄部ノ容易ナル通過ヲ僥倖セシムルコトアルヲ忘ルベカラズ。

丙、閉塞狀態ニ陷リシ場合

狹窄症狀增惡シテ腔內全ク閉塞スルニ至レバ、コレニ施スベキ食養療法ハ、外科的手術ニ依賴シ、胃瘻ニヨリテ食品ヲ供給スルカ、若シクハ滋養注腸或ハ皮下榮養ニ依賴スルモノトス、然レドモ此ノ如キ場合ハ唯患者ノ榮養ヲ一時的支持スルニ止マリ、極メテ姑息的方法ナリトス、唯全不通ヲ來スニ至リシ原因ニヨリテハ頗ル必要ナルモノトス、例令急性閉塞(例令異物ノ介在、藥品等ノ腐蝕ニ因スル腫脹)若シクハ炎症性浸潤ノ減退ヲ圖ラントスル場合ノ如キコレナリ、然レドモ慢性ノ經過ヲ取リシ後漸々閉塞ニ陷リシ者ニ於テハ榮養保持ノ點ニ於テ遙カニ前者ニ劣リ、殊ニ豫後ニ於テ頗ル疑ハシキモノトス。

三　食道擴張及食道憩室

Erweiterungen und Divertikel der Speiseröhre.

食道擴張ハ先天性若シクハ後天性ニ來ルモノニシテ、先天性ノモノハ多クハ筋肉ノ發育不充分ナルガタメニ來ル、後天性ニ於テハ該部ニ於ケル麻痺性擴張、若シクハ狹窄部ノ上方ニ當リ續發性ニ來ルコト多シ、麻痺性ノ場

合ニ於テハ食養療法ハ多クハ皆消息子榮養ニ據ルノ外ナキモノニシテ、後者ノ場合ニ於テハ原發疾患ニ於ケル食養ヲ施スニ過ギズ。

食道憩室ハ別チテ脫出性憩室 Pulsionsdivertikel. 及ビ牽引性憩室 Tractions-divertikel トス、而シテ後者ノ場合ニ於テハ臨床的ニ診定ヲ下シ得ルコト甚少ナキモノトス、要スル本病ハ咽頭ノ部ニ近ク生ズル場合多クシテ、下部即チ食道ノ深部ニ生成セラルヽコト甚ダ少ナキモノトス。

憩室ノ食養療法ハ必要ナルモノニシテ、スタルク氏ノ說クガ如ク患者ノ攝食ニ當リテハ常ニ憩室ヲ充滿セシムルヲ避ケシムベキモノニシテ、食物ハ極メテ徐々ニ且ツ粥狀ニシテ滑澤ナルモノヲ撰ブヲ要ス、故ニ脂肪品ハ恰當ノ食品タルヲ得ベキモノナリ、其他乳汁、鷄卵等ハ最モ賞用スベキモノトス、食道ノ深部ニ存スル場合ニ於テモ、亦同樣ノ食養ヲ用ヒテ可ナリ、唯此場合ニ於テハ時々憩室ノ洗滌ヲ施行シ、停滯セル食品ノ殘渣ヲ一掃シ、若シクハ內部ヨリ下方ニ壓出スルノ要アリトス、何レニセヨ兩者共ニ消息子榮養ノ必要ハ極メテ稀ニシテ、胃瘻ニヨリテ榮養ヲナサシムルコトモ亦甚少ナク、唯極メテ高度ノ場合ニ於テノミ其用ヲ見ルコトアルノミ。

四　食道神經症 Oesophagusneurosen.

患者モシ疼痛ヲ恐レ攝食ヲ肯ゼザル場合ハ、已ムナク消息子榮養ニヨリ、食品供給ニ力メザルベカラズ。食道痙攣ニ於テハ殊ニ食品ノ多量ヲ供給スルヲ要ス、該症狀輕度ノ場合ハ敢テ消息子應用ニ依ラズシテ可ナルモ、甚シク頑固ニシテ患者日ニ饑餓狀態ニ陷ラントスル傾アル時ハ、已ムナク消息子ヲ以テ該部ヨリ榮養ヲ補給スルヲ可トス、然レドモ大多數ノ場合ニ於テ、滋養灌腸若シクハ持續性套管 Dauercanüle ヲ用フルノ要ナキモノトス、且ツコノ際太キ英國消息子ヲ挿入シ痙攣ヲ去ラシムルニ力ムルヲ可トス、通常細キ消息子ハ却テ其度ヲ增進セシムルコトアリ。

要スルニ食道神經症ニアリテハ、極メテ永時間食品ヲ咀嚼セシメ、唾液トヨク混和セシメ以テ食道通過ニ際シテ刺戟ヲ少ナカラシムルヲ要ス、其他香料ノ多クヲ含ムモノ、若シクハ酒精飲料ハ絶對ニ之ヲ避ケシムルヲ可トス、且ツ食品ノ溫度モ亦充分ニ注意シ決シテ過熱酷冷ニ過グルナク、適當ノ溫度ニ於テ與フルヲ可トス。

第二章　胃疾患ノ食養療法

Diätbehandlung der Magenerkrankungen.

胃疾患ノ食養總論

Allgemeine Diätbehandlung der Magenkrankheiten

胃疾患ニ陷ル場合ニ於テハ常ニ左ノ諸點ニ注意シ、各種ノ疾病ニ應ジテ其食養ヲ撰定セザルベカラズ。

病狀ノ許ス限リ多クノ榮養品ヲ供給スベシ

胃疾患ノ際ハ常ニ腸消化ヲシテ充分ナラシムルニ力ムベシ

一　ノールデン氏ノ言ノ如ク「慢性胃疾患ニ因スル病者ノ痩削ハ多クハ該病毒ニ因シテ來ルモノニアラズシテ、而カモ其大多數ハ食物攝取ノ量少ナキニ歸因スルモノナリ」トノ事實ハ今日大多數ノ認知スル所ニシテ、故ナクシテ食量ヲ減少スルハ、決シテ食養ノ本旨ニ添フモノニアラズ、故ニ病狀ノ許ス限リ多量ノ榮養ヲ供給スルヲ忘ルベカラズ。

二　胃疾患ニ陷リタル場合ニ於テハ、全身ノ榮養狀態ニ影響スルコト決シテ少ナシトセザルモ、而カモ腸消化ニシテ障害セラレザル以上ハ尙ホ胃消化ノ不充分ナル點ヲ補フニ足ルヲ以テ榮養狀態ニ大ナル害ヲ來スモノニ

胃疾患ニ對シテ異常ノ食品ヲ供給スルノミナラズ

食品ハ時ニ不消化物ヲ攝定スルコトアリ

從ユル樣食品ノ調理ヲナスベシ

アラズ、故ニ常ニ腸管ノ健全ヲ企圖シツヽ、胃疾患ニ對スル食養ヲ撰定スベキモノトス。

三 健康時ニ食用セルモノト全然異ナル食品ヲ供給シ、若シクハ不必要ナル調理ヲノミナスガ如キハ、古來ヨリ醫俗共ニ怪シマザルコト多カリシモ、一二ノ場合ヲ除クノ外ハ、尙ホ健康時ニ常用シ得ル食品ヲ用ヒテ可ナリ、唯疾患ノ種類ニヨリ、全然調理ノ法ヲ變ジ、若シクハ其形ヲ換ユルニ過ギザルモノトス。

四 食品ハ常ニ柔軟ニシテ消化シ易キモノヽミヲ撰擇スルノ要ナシ、コレ不消化物ノ往々衰弱セル粘膜ヲ興奮シ、筋肉ヲ强健ナラシムルノ利アルコトアルヲ以テナリ、故ニ胃筋弛緩症ノ如キ場合ニ於テハ、往々强靭ナル食品ヲ供給シ、以テ其緊縮ヲ促ガサシムルコトアリトス。

五 疾病ニ對シ單ニ機質的變化ニノミ注意シ、患者ノ精神的動機ニ及バズンバ却テ榮養ノ本旨ニ背クコトアルヲ以テ、食品ノ調理ニ際シテハ可成其味ヲ快美ナラシメ、力メテ精神ノ爽快ヲ期セシメ、反射的ニ消化機轉ノ滑澤ヲ圖ラザルベカラズ。

食品ト患者ノ特異質トヲ念頭ニ措クベシ

食思ト精神作用トニ注意スベシ

食品調理法ト全身榮養トニ注意スベシ

六 患者ノ特異質モ亦顧ミザルベカラズ、即チ或者ハ一定ノ食品ニ對シテ直チニ下痢ヲ來シ、若シクハマタ腹痛ヲ訴フルコトアリ、例令大多數ノ患者ハ牛乳飲用ニヨリ多少軟痢ニ傾キ易キカ如キコレナリ、故ニ胃疾患ノ食養ニ於テハ腸管固有ノ特異質モ亦顧ミザルベカラズ、

七 疾患ノ種類ニヨリテハ敢テ食思ヲ覺エザル者アリ、若シクハ食思充分ナリト雖モ攝食スルヲ肯ゼザル者アリ、是等ハ多ク重篤ナル器質的變化ヲ有スルカ、若シクハ精神的作用(例令潰瘍患者ノ食思充分ナル者モ疼痛ヲ恐レテ攝食セザルカ如キ)ニ因シテ來ルモノナルヲ以テ、時ニ患者ヲ慰撫シ、若シクハ食品調理ノ法ヲ變ジ、是等ノ疾患ニ適應セル食品ヲ與フベキモノトス、

八 食品ハ可成其種類ヲ多クシ、且ツ其調理ノ法モ亦常ニ千篇一律ナラザルヲ要ス、加之徒ラニ胃疾患ノ治療ニノミ想ヲ寄セ、全身榮養ノ如何ヲ顧ミザル時ハ縱令疾病ノ進捗ヲ防グヲ得ベシトスルモ、不知不識ノ裡ニ全身榮養ノ衰退ヲ招ギ遂バザルノ悔ヲ貽スニ至ルコトアルヲ以テ、此點ニ關シテハ特ニ注意スルヲ要ス。

胃運動官能障害ニ對スル食養要旨

胃疾患ニ對シテ食品ヲ撰擇セント欲セバ先ツ其官能障害ニ注意シ、殊ニ運動力障害ニ對シテハ最モ留意ヲ要スベク、次テ分泌機能モ亦決シテ忽ニスベカラズ、然レド吸收作用ノ如キハ敢テ甚シキ價値ヲ拂フノ要ナシ。

甲 吾人ハ胃ノ運動力障害ヲ論ズルニ際シ、通常コレヲ二樣ニ區別ス、即チ、一ハ運動力ノ亢進ヲ來ス場合ニシテ、一ハ其減退ヲ起ス場合コレナリ、故ニ其ノ食養ニ關シテモ亦二樣ノ場合ヲ生ズルモノトス。

一 運動力亢進ヲ來セシ際ニ應ズル食養。

元來運動力ノ亢進スル場合ハ、單ニ純粹ナル神經障害トシテ現ハルヽカ、若シクハ慢性胃加答兒ト併發シテ來ル場合ヲ多シトス、コノ際胃消化ノ狀態ハ如何ナル程度ニ行ハルヽカト云フニ、通常ノ場合ト異リ胃中ノ食品ハ頗ル迅速ニ腸中ニ送致セラルヽヲ以テ、食糜トシテ腸ニ臨ムヤ充分吸收シ易キ形ヲ具フルヲ得ズシテ或ハ小腸ヲ刺戟シ加答兒症狀ヲ惹起シ、其結果下痢ヲ來スニ至ルガ如キ場合ニ至ル、故ニ可成過度ハ運動力ヲ來サシムルガ如キ刺戟性食品ハコレヲ避ケザルベカラズ、殊ニ酒類ノ如キハ胃粘膜ヲ刺戟シ且ツコレヲ興奮スルモノナルヲ以テヨロシクコレガ飲用ヲ愼ミ、殊ニ

酒精含有ノ量多キモノハ全然コレヲ禁セザルベカラズ、珈琲ノ如キモ亦用ヒザルヲ可トス、其他多量ノ香料モ亦コレヲ斥ケシムベシ、且ツ器械的刺戟ノ比較的多キモノ例令野菜、果實ノ類ハ攝取セザルヲ可トス、然レドモ全然コレヲ廢スルハ至難ノ事ニ屬スルヲ以テ時ニコノ撰定ニ注意シ、成ルベク木纖維ノ少ナキモノヲ撰ビ脫皮、脫核シテ必ズコレヲ煮沸シ、出來得ル限リ柔軟ナラシムベシ)コレ啻ニ器械的刺戟ヲ與フルノミナラズ、實ニマタ其質ノ强靭硬固ナルガタメ胃液ノ透竄ヲ阻害スルモノタルガ故ナリ。

二 運動力減退ヲ來セシ際ニ應スベキ食養。

胃ノ運動力減退ヲ來ス場合ニ於テハ、其攝取スル食量ヲシテ成ルベク胃中ニ充滿セシメザルヲ要ス、何トナレバ運動力ノ減退ヲ來セル胃ニアリテハ到底健康時ニ攝取スル食量ノスベテヲ完全ナル食糜トシテ腸中ニ致スヲ得ザルヲ以テナリ、故ニ吾人ハ一時ニ其大量ヲ攝取スルヲ禁ジ却テコレヲ少量宛數回ニ分食セシムルヲ可トス、例令吾人日常ノ主食ヲ三回トスレバコノ場合ニ處シテハコレヲ五回若シクハ六回ニ細分シテ攝取セシムルガ如シ、然レドモ日々其回數ヲ加減シ若シクハ其量ノ不同甚シキ如キハ注意

スベキ事トス素ヨリ疾病ノ回復ニ向フニ從ヒ其度ヲ減少スルハ當然ノ事ニ屬シ、疾患ノ增減ニ從ツテ回數ヲ左右スルモ亦將ニ醫ノ取ルベキ道ナリ、要ハ唯攝食時間ノ正規ト回數ノ整然タルトニアリ、且ツ其食品ノ撰擇ニ際シテハ可成量ノ多キヲ避ケ同時ニ分解シ易キモノハコレヲ禁ズベシ、黑「パン」餅、蒸菓子其他木纖維ニ富メル野菜殊ニ葉菜類ノ多量ハコレヲ避クベキモノトス、且ツ其分解ヲ起シ易キモノ、即么微有機體ノ含有甚シキ食品、例令乾酪「ビール」ノ如キハコレヲ禁ズベシ、加之胃液ノ滲透ヲ妨グルガ如キモノ、即脂肪含有ノ著シキモノハ全クコレヲ攝取セシメザルヲ可トス。

元來吾人ガ攝取セル食品ニ對シテ胃ノ力ムベキ責任ハ悉クコレヲ消化シ、食糜トシテ腸中ニ送リ、以テ吸收機能ノ完成ヲ致サシムルニ外ナラズ、而シテ食糜ヲシテ胃ヲ辭スルニ速カナラシメント欲セバ、胃ヲシテ食品ヲ液性化セシムルニアリ、故ニ液化ノ度愈大ナレバ食糜ノ胃ヲ辭スルモ亦愈速ナリ、然レドモ初メヨリ液性ノ食餌ヲノミ專用スルハ決シテ策ノ得タルモノニアラズ、何トナレバ胃ノ水分吸收ハ殆ントコレナシト云フテ可ナルベク、胃ハ唯其停留場ニ過ギズ、從テ攝取セル液質ハ唯徒ラニ胃ヲシテ重荷ヲ負

ハシムルニ過ギザレバナリ。

然レドモ水分モ亦體內ニ於テ缺クベカラザルモノニシテ、而カモ吾人ハコレヲ攝取セザルベカラザルモノナルガ故ニ、適度ニコレヲ飲用スベク食間一〇〇乃至一五〇瓦ノ水分攝取ハ運動不全ノ患者ニ於テモ敢テ患フル所ニアラズ、而シテ水分攝取後ニ於テコレヲ腸中ニ送ルニ當リテハ患者ノ體位ハマタ大ニ運達ノ遲速ニ關ス、例令幽門狹窄ニ於テハ直立若シクハ坐位ヲ取リテ之レヲ飲用センヨリハ、背臥ノ位置ニ於テスルヲ可トス、コレ前者ノ位置ヲ取レバ水分ノ重サヲシテ下底ニ沈マシメ水ハ其低キニ就テ上方幽門ヲ通過スルニ便少ナキヲ以テナリ。

モシ亦幽門ノ狹窄高度ニ達シ、若シクハ患者頻リニ渴ヲ訴フルモ、コレヲ口ヨリスルヲ好マザルニ際シテハ、別ニ直腸ヨリ水液灌注ヲ施スヲ可トス、通常一日三回三〇〇、〇乃至四〇〇、〇ノ微溫湯ヲ以テシ、時ニ或ハコレニ伍スルニ一乃至二茶匙ノ食鹽ヲ以テシ、場合ニヨリテハコレニ鷄卵、砂糖「アルコール」ノ如キ滋養品ヲ加入セシムルコトアリ、

乙　次ニ胃ノ分泌力障害ニ對スル食養療法ヲ論ゼントス、コレ亦運動力障

害ニ於ケルガ如ク、過剰ノ分泌ヲ來ス場合ト其減少若シクハ缺乏ヲ伴フ場合ヲ論ゼントス

一　胃酸過多及胃液分泌過多ニ應ズル食養

是等ノ疾患ハ腺實質ノ刺戟症狀ニヨリテ來リ、若シクハ又其知覺神經ノ過敏ニ因シテ來ルモノニシテ、コノ際ニ當リテハ食品ニ對シテ胃液ハ容易ニコレニ滲透シ易ク、且其軟化若シクハ液化作用ニ於テモ、比較的甚タ容易ニ行ハル、モノトス、殊ニ肉類ノ如キハヨク其消化ニ堪エ全ク溶解セラル、ニ至ル、然レドモ含水炭素ニ於テハ全クコレニ反シ溶解頗ル困難ナリトス。

通常唾液ノ作用ハ食品ノ胃ニ達セル後ニ於テモ、鹽酸ノ分泌旺盛ナラザル迄ハ其作用ヲ繼續スルモノナルヲ以テ、含水炭素殊ニ澱粉ノ糖化ハ胃ニ於テモ尚其作用ヲ持續シ「プチアリン」ノ効力アルヲ常トスレドモ、酸過多若シクハ胃液分泌過多ヲ來スニ於テハ全クコレニ反シ遊離鹽酸ノ多量ニ存在スルヲ以テ、コノ作用ハ速カニ減却セラル、ヲ例トス、故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ澱粉質含有食品ハ出來得ル限リ其量ヲ減少シテ與フルヲ可トス、然ラザレバ豫メ澱粉ヲ糖化セシメテ與フルニ力ムベシ、殊ニコレ等ノ食品ヲ

與フルニ當リテハ、スベテコレヲ焙燒シテ用ニ供スベシ、何トナレバ食「パン」ノ如キモコレヲ燒炙スル時ハ一部熱ニヨリテ糖化セラレ、且ツ其質水分ヲ失ヒ容易ニ細割セラレ唾液ノ滲透ヲ許スヲ以テナリ、其他コノ場合ニ於テハ可成神經ヲ刺戟スルモノハコレヲ避クベシ、故ニ酒精飲料若シクハ茶、珈琲ノ如キハ決シテ過量ニ與フベキモノニアラズ。

肉類ハ甚タ消化シ易キヲ以テコレヲ與フルハ頗ル適應ノ處置ナリトス、コレ肉類中ノ蛋白出テ、胃液ノ鹽酸ト結合シ、以テ其酸度ヲ減却スルガ故ナリ、且ツ脂肪ヲ供給スルモ一定ノ度迄ハコレヲ與フベキモノトス、然レドモ吾人ハ肉類ノ他ニ多少ノ含水炭素含有食品即植物性食餌ヲ攝取セザルベカラズ、何トナレバ一方ニノミ偏セル食品ヲ以テスルハ決シテ吾人ノ榮養ヲ完全ニスルヲ得ザルモノニシテ、吾人ノ榮養保全ハ常ニ混成食品ニヨリテ初メテ達シ得ベキモノナルヲ以テナリ、故ニ胡羅蔔、馬鈴薯ノ如キ纖維素ノ少ナキモノヲ與フベシ、食「パン」ノ如キモヨクコレヲ燒焦シテ與フレバ敢テ害ナキモノトス。

牛乳モ亦良好ナル食品ニシテ蛋白ノ多量ヲ有スルト同時ニ、其内ニ存在ス

ル糖分ニヨリ酸分泌ヲ減少シ鹽酸ト相結合スルノ性狀ヲ有ス。

モシコノ疾患ニ陷レル患者ガ羸削セル體格ヲ有スルモノナラバ、コレニ對シテハ脂肪ノ多量ヲ含有スル肉類ヲ與フルト同時ニ食物調理ニ際シテ多量ノ糖分ヲ入レ、次テ其病勢ヲ挫折セシムルト共ニ榮養回復ヲ計ルヲ至當トス。

二 胃酸及胃液分泌減少若シクハ其缺乏ニ應ズル食養。

是等ノ疾患ニ於テハ可成大量ノ蛋白含有食品ヲ一時ニ與ヘザルヲ可トス、何トナレバ胃ノ消化作用ハ蛋白ヲ消化スルノ機能ヲ減少シ、若シクハ缺乏スルヲ以テナリ、此ノ際モシ肉類ヲ與フルニハ可成脂肪ハ含量僅少ナル瘦肉ヲ與ヘ且其量ノ多キヲ望ムベカラズ、殊ニ肉類ハコレヲ挽肉トシテ調理スルヲ可トス。

一般ニ植物性食品ハ其消化良好ナリトス、コレ胃中ニ於ケル鹽酸ノ量減少スルカ、若シクハ又缺乏セルヲ以テ「プチアリン」ノ作用益其勢ヲ逞フスルヲ得ルヲ以テナリ、マタ木纖維ヲ除去シタル植物蛋白ハ比較的容易ニ消化セラル。

吸收官能障害ニ對スル食養要旨

其他人工蛋白調製品ハヨク用ヒラル、コレ一部已ニ人工的消化ヲ經ルコトアルヲ以テ、胃ニ於テ割合ニ速カナル消化ヲ來スニ至ルヲ以テナリ。

一般ニ是等ノ疾患ニ於テハ腺質ノ遲鈍ヲ來スモノナルヲ以テ、コレニ刺戟ヲ與ヘテ其分泌ヲ促進セシムルニ力ムベシ、故ニ肉桂、食鹽、胡椒、蕃椒ノ如キ香料ヲ攝取セシムルヲ可トス、酒精飲料ノ如キモ適度ニコレヲ飲用セシムルハ頗ル妙策トス、唯此ノ場合ニ於テハ胃液ノ稀釋ヲ恐ル、モノナルガ故ニ、凡テ此等ノ飲料ハ可成濃厚ノ度ニ於テ其少量ヲ與フルヲ可トス。

殊ニ胃酸若シクハ胃液ノ缺乏ヲ見ル際ニ當リテハ、運動力ノ障害モコレニ加ハル、コト多キヲ以テ、ヨロシク是等ノ點ニ注意シ、食品ヲ攝取スルニ於テモ可成コレヲ少量宛多數ノ度ニ於テシ、且ツ同時ニ腸管ノ狀態ヲヨク檢査シ、酸酵シ易キ食品若シクハ液性食品ノ多量ヲ避ケ決シテ極熱酷冷ノ食餌ヲ與ヘザルニ注意スベシ。

丙 吸收力障害ニ應ズル食養。

胃ニ於ケル吸收作用ハコレヲ腸管ノ吸收作用ニ比スルニ其意義極メテ狹小ニシテ、且ツ胃自身ニ於ケル運動力若シクハ分泌力障害ニ比スレバ、治療

上頗ル價値ナキモノトス、故ニ其食養療法ノ如キモ今日大ナル價値ヲ措クベキモノニアラズ。

元來胃壁ヨリ吸收セラルル食品ハ酒精ヲ以テ第一トシ次テ糖分、鹽類及ビ溶解性蛋白食品ニシテ水及ビ脂肪ノ如キハ今日殆ント吸收セラレザルモノトシテ認知セラルルモノナリ。

唯茲ニ最モ注意スベキハ酒精ノ飲用ナリ、何トナレバ酒精ハアル點ニ於テ蛋白若シクハ脂肪ヲ節約スルノ用ヲ有スルヲ以テ、殊ニコレヲ衰弱セル患者ニ用ヒテ其頽勢ヲ挽回シ、殊ニマタ熱性患者ニ應用シテ其體力衰脱ヲ防遏シ得ルヲ以テナリ、故ニ縱令吸收力減少ノ場合ト雖モ酒精ヲ飲用セシムルハ比較的其吸收ヲ早カラシメ、同時ニ他ノ液性吸收性食品ノ吸收ヲ促ガサシムルノ用ヲナスモノナリ、要スルニ吸收力障害ニ際シテハ吾人ノ知悉セル所極メテ狹少ニシテ一々コレニ對スル食養ヲ述ブル能ハズ。

胃疾患ノ食養各論

Specielle Diättherapie der Magenerkrankungen.

一　急性胃加答兒(急性胃炎)

Der acute Magenkatarrh, Gastritis acuta.

急性胃加答兒ハ主療トスル所ハ刺戟狀態ニ陷リタル胃ノ安靜ヲ計ルヲ以テ上策トス故ニ絶食療法若クハ節食療法ニヨリテコレガ回復ニ力ムルニアリ、幸ニ此場合ニ於テハ患者食慾ヲ思ハザルモノ多キヲ以テ以上ノ療法ヲ施スニ當リテハ頗ル便ナリ、且ツ此等ノ刺戟症狀ハ多クハ一兩日ニシテ消散スルヲ常トシ、然ル後胃ハ再ビ鎮靜狀態ニ復シ食思漸ク現ハルヽニ至ルベシ、コノ期ニ至リテ吾人ハ初メテ食餌ヲ患者ニ薦ムルモノトス。

要スルニ吾人ノ最モ適當ナル處置ト云フベキハ發病後二十四時間ハ全ク絶食セシメ、然ル後本來ノ療法ニ移ルヲ可トス、コノ際胃内ニ於テ尚ホ充分ナル内容ヲ有シ、强度ノ嘔氣ヲ催スガ如キコトアレバ、微温湯ヲ飲マシメ咽

頭ヲ刺戟シテ、吐出セシムルカ或ハ速カニ胃ノ洗滌ヲ施スカ、若シクハ吐劑ヲ應用シ、以テ有害ナル内容ヲ除去スルヲ可トス、此ノ如クニシテ胃ハ全ク空虛トナルモ、尙ホ嘔氣ヲ催ス時ハ、或ハ氷片ヲ嚼マシメ、若シクハ曹達水「シヤンパン」若シクハ氷水中ニ冷却セル牛乳ヲ與フベシ、此等ノ飲料ハ常ニ少量宛(一茶匙ヨリ一食匙位)間歇ヲ以テ投與スベシ、然レドモ永時間コレヲ與フルヲ止メ、暫時ニシテ微溫ノ飲料ニ移ラシメ、以テ胃粘膜ノ靜穩ヲ期スベキモノトス、此際賞用スベキモノハ良好ノ茶、若シクハ微溫ノ牛乳ヲ少量ニ與フルニアリ。

通常此機會ニ到達セル時ハ初メ液性食品ヲ攝取セシムルヲ可トス、故ニ先ツ牛乳ヲコレニ投與スベシ、殊ニ本症ニ於ケル牛乳飲用ハ比較的各人ノ堪エ得ル所トス、(日常之ヲ好マザル者モヨク飲用スルモノナリ)而シテ牛乳ハ單ニ煮沸セルモノヲノミ與フルカ、若クハ稀薄ナル茶ト混ジコレヲ少量宛數回分用セシムベシ、マタ一日一二回宛重湯若シクハ穀粉「ソップ」ヲ調製シテ之ヲ與フルヲ可トス、尙ホマタ穀粉「ソップ」中ニ肉越幾斯ノ少量ヲ混合スルカ、或ハ之ニ一個ノ卵黃ヲ投ジテ一二日持長セシメ、次デ二三日ヲ經過シテ馬鈴薯ヲ糊泥狀ニシテ投與スベシ、其他半熟卵、肉凝膠、米若シクハ麥粉ト牛乳トヲ混ゼル粥ヲ與フル等ニ注意シ、然ル後普通ノ食事ニ移ルヲ可トス、然レモ極メテ輕症ノ者ニアリテハ敢テ如此嚴密ナルヲ要セズ、唯疾病ノ一、二日間殿ニ酒精飲料ヲ禁ジ、安靜絶食スレバ足ル、コレオーゼル氏ノ所謂急性胃加答兒ハ轉倒セル食餌若シクハ誤用セル藥品ヲ以テ慢性症ニ移行セシメザル以上ハ多クハ皆治療スベキ傾向ヲ有スルモノナリト云フニ一致シ、概ネ皆治シ易キモノトス

唯茲ニ注意スベキハ小兒及ビ老人ノ急性胃加答兒ニ胃サレタレ塲合ナリ、コノ塲合ニ於テハ全身狀態ノ如何ニ關シテ常ニ細心留意セザルベカラズ、故ニ必用ニ應ジテ興奮劑ノ應用ヲ見ザルベカラズ、即チ少許ノ苞葛ヲ入レタル茶「シヤンパン」酒等ヲ與フルノ要アルモノトス加之有形食品ニ移行スル塲合ニ於テハ更ニ一層ノ注意ヲ要スルモノナリ。

二　慢性胃加答兒(慢性胃炎)

Die chronische Magenkatarrh, Gastritis chronica.

多數ノ場合ハ鹽酸ノ減少スルモ而カモナレドモ過酸性ノコトアルヲ忘ルベカラズ

食養療法ノ主トスル所ハ先ヅ炎症ニ陷リタル粘膜ヲ愛惜シ、次デ化學的現象ノ異常ヲ正常ナラシムルニ力メ、モシ又運動力ノ障害存スル場合ハ即注意ヲ茲ニ致シ、終リニ不充分ナル胃消化ニ對シ腸管ヲシテ充分其缺ヲ補ハシメ以テ消化ハ代償ヲナサシムルニ力メザルベカラズ。

通常コノ場合ニ於テハ鹽酸ノ分泌減少スルコト多キヲ以テ蛋白消化ハ決シテ良好ナラズ、故ニ先ヅ含水炭素食品ヲ撰擇スルヲ可トス、コレ鹽酸減少ノコトアル過酸性ノ場合ニ於テハ鹽酸ノ分泌ヲ過度ニ減ジテ其結果モ亦決シテ良ナラズ、故ニ「プチアリン」ノ作用割合ニ旺盛ナルヲ以テナリ、故ニ此等ノモノヲヨク調理シ、出來得ル限リ消化シ易カラシムルニアリ、且ツ鷄卵若シクハ肉類ノ攝取ニ對シテハ宜シクコレヲ制限セザルベカラズ、脂肪ハ唯良好ノ牛酪少許ヲ用フルヲ可トス、就中肉類ニアリテハ纖維ノ柔軟ナル鷄、鳩、其他ノ野禽ヲ最良トシ、赤色ノ獸肉類ヲ第二トス、魚肉ハ可成脂肪少ナキモノヲ撰擇シ、コレヲ刺身トシテ與フルカ、若シクハ煮テ食セシム、投與スベキ肉類ノ量ハ二十五匁内外ヲ程度トシ、コレヲ生肉若シクハ燻肉トシテ供給セズ、良好ナル牛酪ヲ以テコレヲ調理シ、然ル後與フベキモノトス、而シテ疾病ノ少シク重キニ達セル患者ニ對シテ給與スベキ食品ハ、初メ穀粉重湯例令

一日數回人ノ分ニ食ハ本邦人ニアリテハ實行シテ極メテ難クシテ其結果モ且決シテ大ナル利益ナキヲ以テ人ハ尚ホ三回晨ノ主食トシ晩ニ宜シキヲ以テ牛乳ノ如キ性質ノ品ヲ間接ニ與フル例トス

米ヨリ製セル重湯、大麥煎汁、小麥煎汁、葛湯等ヲ用ヒ、附加スルニ牛乳ヲ以テスルヲ可トス、コノ際牛乳ニ菖蒲ノ少許、若シクハ茶等ヲ混ジテ其味覺ヲ補ケ以テ食思ヲ增進セシムルニ力メ、若クハ醱酵現象ノ防遏ニ對シ牛乳一合ニ石灰水一食匙ヲ伍スルモ亦可ナリ、飲料トシテハ酒精含有品中「ポルト」酒ノ如キハ食前少量ニコレヲ飲用セシムル時ハ分泌ヲ催進セシムル効アルヲ以テ敢テ咎ムベキニアラズ、然レドモ强烈ナル酒精飲料ハ全ク之ヲ避クルヲ可トス、加之麥酒ノ如キハ胃内ニ於テ後發醱酵ヲ來シ、却テ胃ヲ障害スルヲ以テ全ク與フルヲ許サズ。

コノ場合ニ於テ胃ヲシテ重荷ヲ負ハシムルハ決シテ賞スベキニアラザルヲ以テ必ズシモ主食ヲ一日三回ト決定セズ宜シク其度數ヲ多クスルヲ可トス、且ツ毎食少量宛供給スルヲ要ス、故ニ一日六回乃至八回トシ一時ニ大量ヲ與ヘザル樣注意セザルベカラズ、加之コレニ與フル食品ハ常ニ千篇一律ナラシムベカラズ、故ニ同一食品ト雖モ時々其調理ヲ變換シ、若シクハ其種類ヲ代フルヲ要ス。

慢性胃加答兒ニシテ酸過剩ヲ呈スル時ハ、少シク其趣ヲ異ニシ、胃内ニ於ケ

ル糖化作用ハ速カニ阻害セラル、ヲ常トシ、蛋白消化ハ比較的良好ナリ、カ、ル場合ニ於テハ刺戟性飲料若シクハ食品ハコレヲ食箋ヨリ除去スルヲ可トス、例令酒精及ビ其飲料、食醋若シクハ辛烈ノ「ソース」ノ如キ、或ハ香料ヲ多ク加味セル獸鳥肉若シクハ魚肉ノ如キ、其他「サラード」及ビ酸味ノ果實ノ如キコレナリ、之レニ反シ良好ノ脂肪、就中牛酪、乳脂ノ如キハ最モ適當ナルモノトス、牛乳モ亦賞スベキ榮養品ナルモ、個人ニヨリ往々下痢等ノ不快ヲ來スコトアルヲ以テ、豫メ其特異質ニ就テ研究スベキモノトス。

喫煙モ亦胃加答兒ヲ增進セシムルノ傾ヲ有スルモノナリ。コレ喫煙ニヨリテ煙草中ノ成分多少唾液中ニ溶解シ、炎症性胃粘膜ヲ刺戟スルノ不利アルト、往々咽喉加答兒ヲ惹起シ從テ粘液ノ多量ヲ分泌シ、該粘液ハ進ンデ胃中ニ到達シ胃粘液ト相合シテ益其量ヲ多カラシム、殊ニ空虛胃ニ於テハ分泌愈多キヲ以テ最モ禁ズベキコトトス、食品ニ香料ヲ加フルニ當リテモ甚シキ刺戟ヲ與フルモノハコレヲ禁ズベシ、然レドモ食鹽ノ如キハ適度ニ加伍スルハ鹽酸分泌ヲ促進スルヲ以テ敢テ妨ナシトス。

疾病輕度ノ際ニ於テハ麵包粥、「プッデング」、白色肉ヲ有スル魚類等ヲ投與スルヲ可トス麵包ハ常ニ焙燒シテ與フルヲ最良トス、

輕重何レノ場合ニ於テモ榮養補給ノ一部ニ充テンガタメ人工榮養品ヲ投與スルハ決シテ咎ムベキニアラズ、例令「ソマトーゼ」、「プラスモン」、「アロイロナート」、「サナトーゲン」ノ如キ之ナリ。

三　胃「アトニー」症（胃筋弛緩症）

Die Atonie des Magens, Myasthenia gastrica.

胃「アトニー」症ハ胃消化ニ於ケル器械的作用ノ病的變態ニ陷リシガタメ筋肉ノ弛緩ヲ來セルモノナルヲ以テ胃ヲシテ其勞力ヲ少ナカラシムルニカメシムルヲ要ス、故ニ出來得ル限リ胃ノ働作ヲ輕カラシメザル可ラズ、從テ食養ノ道ヲ論ズルニ當リテモ亦食品攝取後其勞力ヲ輕カラシムルト同時ニコレヲシテ益強健ナラシメザルベカラズ、コノ目的ニ對シ、吾人ハ次ノ法則ニ據リ食養法ヲ授クルヲ適當トス、即チ每攝食ノ量ヲ少量ニシ、コレヲ一日中數回攝取セシム、加之コレニ要スル食品ハ容易ニ消化シ易ク、且ツ滋養價ニ富ムモノヲ撰用スベシ、此際口內ノ咀嚼ハ極メテ叮嚀ナルヲ要ス、而シ

禁制スベキ食品

テコレニ向ツテ供給スル食餌ハ尚ホ混成食餌トシ胃内容試驗ハ結果ニシテ酸過剩ヲ來セル時ハ肉類ヲ比較的多量ニシ酸減少ヲ來セル場合ニ於テハ植物性食品ヲ多量ニスルヲ要ス而シテ肉類ハ經驗上野獸及ビ鳥類若シクハ鱒牛肉ヲ可トシコレヲ烘燒シテ食セシム魚肉ハ脂肪ノ少ナキモノヲ撰ビコレヲ剩身トシ若シクハ煮テ食スルヲヨシトス牛豚肉ハコレヲ挽肉トシ細挫セルモノヲ攝取セシムルヲ可トス然レドモ腸詰若シクハ乾魚及ビ鹽漬ニセル肉類脂肪多キモノ例令鰻若シクハ鴛鳥ノ肉ノ如キハコレヲ禁止スルヲ可トス植物性食品中五穀類及ビ荳菜類ノ如キハ甚ダ滋養ニ富ムヲ以テ粉末狀トシ又ハ脫皮シテ與フベシ此等ノモノハ單ニ粥狀トシテ與フルカ若シクハ又ソップ中ニ入レテ與フ或ハコレヲ鷄卵ト共ニシテ與ルモ亦可ナリ時トシテハ牛乳ト共ニ糊泥狀トシテ供給スルモ亦妙ナリ香料ハ普通ノ場合ニ於テハ一定度迄コレヲ攝取スルヲ許可ス コレ即チ胃粘膜ヲ刺戟シ以テ消化機能ヲ增進スルト同時ニ運動力ヲ亢進セシムルノ利アルヲ以テナリ脂肪ハ唯「バタ」ノ中度量ヲ許可スルノミ。

液性食品ハ其量ノ多キヲ許サヾルモ尚ホ一回二〇〇・〇ノ飲用ハ經驗上比較的速カニ胃ヲ通過スルヲ以テ敢テ咎ムベキニアラズ且ツ一日中ニ攝取スル液汁例令牛乳珈琲酒精其他ノ飲料等ハ總計千五百瓦ヲ限リトスベシ、而シテ世人ハヨク牛乳ヲ以テ食養ヲ企テント欲スル者多シ然レドモタ全ク牛乳ヲ以テノミ食養トスルハ全般ノ榮養ヲ保全スル能ハザルヲ以テ尚ホ他ノ混食品ヲ要スルモノナリ酒精飲料モ亦少量ノ崑藥赤酒等ハ胃運動力ヲ亢進セシムルガタメニ供給スルヲ可トス然レドモ常ニ其量ヲ少許ニスルヲ忘ルベカラズ且ツコレヲ飲用スルハ食前又ハ食直後ニ於テ一杯ノ猪口ヲ以テスベシ。

モシマタ便秘ヲ來スコト頻繁ナル時ハコレニ對シ煮タル果實例令林檎梨子桃ノ如キモノヲ脫皮シテ、ヨクコレヲ煮然ル後投與スベシ、時トシテ蜂蜜ヲ與フルヲ可トス其他吾人ノ常ニ念頭ニ措カザルベカラザルハ「アトニー」ニシテ爾他ノ胃疾患例令胃下垂症分泌過多症若シクハ胃加答兒ニ因シテ續發的ニ來レル場合ハ尚ホ原發疾患ニ於ケル食養ト相結合シテ投與スベキモノナルコトヽ之ナリ。

上述ノ如ク食養療法ハ可成少量ヲ數回ニ攝取スルノ方法ヲ採ルヲ可トス

ト雖モ、邦人ノ如キハ何レモ皆コノ分用法ニ慣レザルヲ以テ尚ホ一日三回ノ食事トシテ可ナルモ、一回ニ要スル分量ハ可成其量ヲ少ナクシ食事間ニ於テ間食ノ少量ヲ與フルヲ可トス、而シテ吾人ハ「アトニー」ノ輕度ノ場合ニ於テハ決シテ粥ヲ與ヘズ通常ノ米飯ヲヨク咀嚼セシメテコレヲ攝取セシムルカ若シクハ煮返シトシテ與フルヲ常トス、且ツ疾病ノ經過中ニ於テ時々運動力檢査ヲ實行シ漸々回復ノ運ニ向フニ從ヒ其量ヲ增加スベシ、加之時ニ刺戟性食品ヲ與ヘテ胃ヲシテ漸々運動力ヲ回復セシメ益〻強健ナラシムルニ力ムベシ。

食後此等ノ患者ハ直ニ自己ノ職務若シクハ運動ニ移ルヲ許サズ、少ナクトモ食後二三時間ハ安靜ニシ、殊ニ此間右側臥位ヲ取ラシムルヲ可トス、然シテ後運動若シクハ職務ニ移ルベシ。

幽門狹窄ニ因スル擴張モ亦同一理由ノ下ニ胃擴張症トシテ大部分近似セル食養ヲ施シ得ベシ

四　胃擴張症

Die Magenerweiterung. Dilatatio ventriculi 胃運動力不全症 Motorische Insufficienz des Magens (Rosenbach) 或ハ第二度胃運動力不全症 Mageninsufficienz II. Grades (Boas) 或ハ食糜瀦溜症 Ischochymie (Einhorn.)

胃擴張ニ於ケル食養療法ハ胃「アトニー」ニ於ケルヨリハ一層嚴密ナル注意ヲ要スルモノニシテ大凡次ノ理ニ基キテ食品ヲ供給スルヲ要ス。

一　食事一回ノ量ハ常ニコレヲ少量宛ニ制限スベシ、何トナレバ胃ノ重荷ヲ負フニ從ヒ其症狀モ亦益〻甚シキニ至ルベケレバナリ。

二　少量宛與フルモ其度數ヲ多クスベシ、何トナレバ少量宛少度數ニ於テ與フル時ハ一般ノ榮養ヲ障害スルコト往々コレアレバナリ。

三　以上ノ二理由ニ基キ液質ノ送致ハ可成コレヲ制限スルヲ要ス、何トナレバ胃ヨリ水分ノ吸收セラルヽコト殆ンド、ナク、且ツ運動力衰退ヲ來セル場合ナルヲ以テ食品ノ停滯著シク永時ニ亘リ殊ニ吸收セラレザル物質ニ

シテ而カモ多量ニ送致セラルヽニ於テハ却ツテ胃ハ重荷ニ過ギザルヲ以テナリ故ニ宜シク液質送致ヲ制限シ之ニ代フルニ出來得ル限リ乾燥食品ヲ可成濃厚ノ度ニ與フルヲ可トス故ニ恰モ「アトニー」ニ於ケル食養ノ如クスベシ然レドモ本症ニ於テハ往々幽門狹窄ニ因シテ來ル場合多キヲ以テ幽門通過ヲシテ可成速カナラシムルニ注意スベシ故ニ食品ノ益固形ナルニ從ヒ胃ノ勞力ハ益甚シク且ツ又狹窄部ヲ通過スルモ困難ナルヲ以テ此點ニ就テモ亦タ顧ミザルベカラズ故ニ吾人ハ此等ノ凡テノ條件ヲ滿足センガ爲ニハ出來得ル限リ滋養價ニ富メル食品ヲ出來得ル丈ケ少量ニシテ且ツ出來得ル限リコレヲ粉碎細剉シ容易ニ消化シ易キ形態トナシ幾回ニモ攝取セシムルヲ可トス故ニ幽門部ヲ容易ニ通過セシメントナラバ宜シクコレヲ粥狀トナシテ與フルニ如クハナシ。

四 疾病ノ進ムニ從ヒ煩渇モ亦甚シク從ツテ尿量ノ減ズルコト夥シ如此場合ニ於テハ口腔ヨリ液體ヲ送致スルヲ避ケ直腸ヨリ榮養液ヲ送ルヲ可トス。即チ一日二三回三四百瓦ノ微溫湯ヲ灌注スルカ若シクハコレニ食鹽ヲ入レテ送ルヲ可トス殊ニ衰弱セル患者ニ於テハ更ニコレニ滋養品ヲ加

伍シテ注スルモ亦甚ダ妙ナリ、モシ亦口腔ヨリ液質ヲ送ラザルベカラザル場合ハ一日一「リーター」ヲ限リトスベク殊ニ「ソップ」茶、牛乳若シクハ肉羹汁ノ如キモノヽスベテヲ合シテ以上ノ量ヲ極度トスベシ、此ノ如クニスルモ尙ホ煩渇アルニ際シテハ胃洗滌ヲ施スモ亦治法ノ一トス、酒精飲料ハ直接胃壁ヨリ吸收セラレ、却ツテ胃腔內ニ液質ヲ出スヲ妨グルヲ以テ須クコレヲ禁ズベシ、唯時トシテ衰弱ニ加フルニ食思ノ不振ヲ以テスルガ如キ場合ニアリテハ蒟蒻若シクハ赤酒ノ少量ヲ飲マシムルコトアリ、然レドモ加答兒症狀ノ加ハル如キ場合ニ於テハ全ク禁忌トス。

固形食品ハ尙ホ「アトニー」ノ際ニ於ケルガ如クスベシ、例令肉類、鷄卵、穀粉若シクハ豆類ノ脫皮セルモノヲヨク細剉若シクハ研磨シ、コレヲ糊泥狀トシテ與フルニアリ。

一般ニ此ノ如キ場合ニ遭遇セバ、ムシロ鹽酸分泌ノ多寡ニ顧慮センヨリハ器械的ニ幽門部ヲ通過セシムルニ力ムルコト醫ノ常ニ念頭ニ措カザルベカラザル事ニ屬ス、何トナレバ胃消化ハ甚シク侵害セラルト雖モ腸消化ハ必ズシモコレト平行シテ障害セラルヽモノニアラザルヲ以テナリ、況ンヤ

胃ニノミ思ヲ焦ガシ全般ノ榮養ヲ顧ミザル時ハ往々千例ノ功ヲ一簣ニ缺クノ虞アルニ於テオヤ。

蛋白食品中鷄卵ノ如キハコレヲ牛熟トシテ與フルカ若シクハ「バタ」ノ少量ヲ以テ其儘燒キタルモノヲ投與スルカ、或ハ「オムレツト、ソフレー」トシテ與フルカ、或ハ卵黃ヲ少量ノ赤酒ニ混ジテ攝取スルモ亦可ナリ。肉類ハ牛肉ヲ細剉シヨクコレヲ燒キテ與フルカ、又ハ軟キモノヲ撰ビテ「ビフステーキ」トシテ與フルヲ可トス「尙ホ幼鷄ノ肉、鳩肉、犢、牛腦、豚股肉ヲヨク細挫シ、且ツ焙燒シテ投ズルヲ可トス、其他魚類ニアリテハ鮭、大口魚、梭魚ノ類ヲ與フベシ植物性食品トシテハ先ヅ米、飯及ビ粥ヲ初メトシ、次ニ最モ需要多キモノハ麵麭ナリトス麵麭ハ常ニコレヲ焙燒シテ與フルヲ可トス、又「ビスケット」ノ如キモモ賞用シテ可ナリ、要スルニ此ノ如キ穀粉調製品ハ一旦竈中ヲ通過セルモノ、如キハ賞用スベキモノトス、其他蒲萄草、若キ胡羅蔔ヲ軟カニ煮且ツコレヲヨク咀嚼シテ食用トシ、若シクハマタ豌豆ヲヨク研磨シテ糊泥狀トシテ與フルヲ可トス、砂糖類モ亦必要缺クベカラザルモノニシテ一方ニ於テハ運動力ヲ亢進シ且ツ時トシテ出現スル過酸ヲ減少セシムルヲ以テ一定度迄ハ良好ノ食品トス。

脂肪モ亦容易ニ消化シ易キモノヲ撰ビ其少量ヲ與ヘザルベカラズ、殊ニ乳脂ハ最モコレニ適シ、次デ「バタ」モ亦恰當ス、其他柯々阿酪ノ如キモモ亦ヨクコレニ堪ユルモノトス、柯々阿酪及ビ牛酪ノ如キハ食品調理ニ際シテコレニ伍シテ用フル可トス。

吾人ハ以上ノ如クニシテ口腔ヨリ患者ニ食養療法ヲナサシムト雖モ、病臥永キニ亘リテ體力衰ヘ、加フルニ食糜ノ瀦溜益重キニ至ラバ、從ツテ運動力及ビ吸收力ハ益〻弱キニ陷リ、殆ンド全クソノ力ヲ失ハントスルニ際シテハ食思ハ茲ニ缺乏シ身體ノ榮養ハ日ニ益〻衰フルニ至ルベシ、此時ニ當リテハ吾人ハ別ニマタ策ナカルベカラズ、即チ滋養灌腸之レナリ、然レドモ滋養灌腸ハ一時的姑息手段ニシテ饑餓食餌ニ外ナラズ從ツテ到底全身ノ榮養ヲ回復スベキモノニアラズ、唯一時コレヲ以テ罹病ノ胃腑ヲシテ其勞ヲ避ケシメ、コレヲ安靜ニシ、暫ク靜養ノ後ヲ待テ新鋭ノ氣力ヲ蓄ヘ、再ビ來ルベキ

食品ニ對シテ充分ニコレヲ消化シ、多量ノ滋養ヲ體內ニ送ラシムルニ力メ、依テ以テ榮養回復ノ運ニ到ラシムルノ希望ヲ繫グニ過ギズ、故ニ滋養灌腸ハ危險ナル衰弱狀態ヲ一時支フルカ、若シクハ外科的療法ニ際シテ器官ノ安靜ヲ計ルニ必用ナルモノニシテ初メヨリ之ヲ以テ根本的ニ榮養ノ回復ヲ計ラント欲スルハ誤リナリ、然レドモ病者漸衰ノ不幸ニ際シテハ徒ラニ袖手傍觀スベキノ秋ナラザルヲ以テ、須ク之ヲ實行スベク、而カモコレニヨリテ將ニ傾カントスル生命ヲシテ少時日ナリトモ長キニ持セシムルヲ得バ豈ニ管ニ患者ノ幸トノミ言ハンヤ、實ニ又醫ノ職責ヲ盡セリト謂フベシ。

(滋腸ニ關スル細說ハ滋養灌腸療法ノ部ニ審ナレバ茲ニ省略ス)

皮下榮養法モ亦往々實行セラルヽ者ナレドモ、其効極メテ少ナキヲ以テ今日賞用セラレズ、唯一縷ノ希望ノ存スルアルノミ。(前掲皮下榮養法參照)

五　胃潰瘍 Das ruude Magengeschwür (Ulcus ventriculi rotundum, pepticum simplex)

何レノ器官ヲ問ハズ、一朝病ニ冒サレタル場合ニアリテハ、該器官ヲシテ安

疾病治癒ノ目的ニ對シ安靜ハ一大原則ナリ

靜ナラシムベキハ治法ノ第一義ナリ、故ニ本病ニ於テハ出來得ル限リ胃腑ノ安靜ヲ企圖シ、該官能ヲシテ速カニ復舊ノ途ニ出デシメザルベカラズ、此目的ヲ達センガタメ、吾人ノ注意スベキ點ハ患者ノ身體ヲシテ如何ニ處置スベキカヲ考フルニアリ、通常急卒ニ發病セシ場合ニ於テハ少ナクトモ十日乃至三週間ハ床上ニ靜臥セシムルヲ要ス、然レドモ徐々トシテ現ハレ而カモ輕症ノモノニアリテハ唯其體動ヲシテ制限セシムルニアリ、故ニ疾病ノ輕重ニヨリ起臥宜シク靜穩ノ處置ヲ攝ラザルベカラズ、且ツ便通時ニ際シテハ出來得ル限リ腹壁ノ緊縮ヲ避ケ、努責ヲ少ナクスルヲ要ス、加之患者ノ位置ハ可成疼痛ヲ感ゼザル體位ニアラシムルヲ可トス、理論上患者ノ上體ヲ少シク高メ背臥位ニアラシムルヲ恰當ノ體位トス、何トナレバ潰瘍ノ多數ハ小彎部若シクハ胃ノ後壁ニ生ズルヲ以テ、攝取セル食餌ハ以上ノ位置ヲ攝ル時ハ患部ニ接觸スルコト極メテ少ク、タメニ刺戟ヲ與フルコト甚ダ僅少ナリ、實驗上潰瘍患者ノ大多數ハ此ノ如キ至便ノ位置ヲ取ルモノ多シ、然レドモ或ハ左側ヲ下ニシ、若シクハ右側ヲ下方ニシ、疼痛最モ緩解スル者アル、ヲ以テ、常ニ、患者ハ自覺ニヨリ、最モ疼痛ヲ感ゼザル位置ニアラシム

べシ、被服ハ常ニ緩解セシメ、談話其他ノ用件ニヨリ、精神ヲ勞スルガ如キコトハ斷ジテ不可ナリ。

吾人ハ潰瘍患者ノ輕重ニヨリ食養ノ法ヲ分チテ二トス　一、絶食療法　二、安靜食養之ナリ。

甲　絶食療法

名ツケテ絶食療法ト云フ吾人ハコレニ向ツテ如何ナル理想ト如何ナル効果ヲ收メント欲スルカト云フニ、コレ他ナシ、胃ヲシテ化學的器械的若シクハ溫的刺戟ヲ絶對ニ避ント欲スルニ外ナラズ、一言コレヲ蔽ヘバ胃腑ノ官能ヲシテ其勞ヲ忘レシムルニアリ、此際胃ノ勞タルヤ鹽酸分泌ニヨリテ以テ化學的ニ潰瘍底面ヲ刺戟シ、蠕動運動ニヨリテハ潰瘍緣ヲ器械的ニ揉動シ、タメニ益〻治療ヲ遠カラシムルヲ以テ食物ヲ與ヘテ、コレ等ノ消化機能ヲ盛ンナラシムルヲ避クルハ理ノ當ニ然ラシムル所ナリ、故ニ潰瘍治癒ニ向ツテ理想的療法トスル所ハ、胃ヲシテ常ニ空虛ナラシメ、從テ常ニ收縮狀態ニアラシムルニアリ、然レドモ實地臨床上決シテ容易ノ業ニアラズ、故ニ唯アル一定期間ニ於テ一定ノ場合ニノミコレヲ實行シ得ルノミナリ、即チ甚シキ出血ヲ來セシ場合、若シクハ疼痛ノ劇甚ナル場合、或ハ將ニ穿孔ノ吾人ヲ恐脅セントスル場合ニ於テ常ニ必要ナル條件トス、此ノ如キ場合ニ於テハ煩渴ヲ醫スルニモ尙ホ充分ノ注意ヲ以テシ、水ヲ以テ僅カニ口唇ヲ濕シ決シテ嚥下セシメザルヲ可トス、モシマタ全身狀態頗ル疑ハシキ場合ニ遭遇セバ肛門ヲ通ジテ滋養灌腸ヲ行フヲ可トス、此ノ如クニシテ全ク絶食療法ヲ施シ依テ以テ生命ノ危機ヲ救ヒ、然ル後初メテ患者ノ恢復ヲ促ガシ得ルコト吾人ノ實驗ニ徵シテ明カナリ、ウイリアム氏ハ二乃至三週間全ク絶食セシメ、唯煩渴ニ對シテ少量ノ氷片、若クハ鑛泉ヲ口腔ニ送リ、單ニ肛門食餌ニヨリテ頑固ナル潰瘍ヲ治癒セリト稱ス、アンデルソン及ビドンキン氏モ亦コレヲ賞揚シ、ボアス氏亦コノ法ニヨリテ良果ヲ收メ得ルコトヲ主張ス。

胃潰瘍ニ於ケル滋養灌腸ハ已ニコルネリウスツエルズ（ノス氏（基督時代）ニヨリテ應用セラレタリ

乙　安靜食養

コノ食養法ニ於ケル目的ハ次ノ如シ　一、胃腑ヲシテ出來得ル限リ安靜ナラシムル食養ヲ攝ラシムルコト　二、第一ノ目的ニ添ハンガタメ出來得ル限リ刺戟少ナキ食品ヲ撰用シ同時ニ速カニ胃ヲ去ル物　三、以上ノ二目的

ヲ充分ナラシムル補助療法コレナリ。

出血患者ニシテ已ニ止血セル場合ハ通常止血後二日間ハ全ク絶食セシメ甚シキ衰脱アル場合ニハミ滋養灌腸(牛乳二〇〇瓦卵一個食鹽少量)ヲ施スベシ、然シテ其三日ニ及ベバ初メテ口腔ヨリ食品ヲ攝取セシムルコトヲ許ス、コノ際應用セラル、食品ハ元ヨリ液性食品タラザルベカラズ、且ツ初メハ極メテ少量ナルヲ要ス。

液性食品中牛乳ハ最良ノ食養品ナリ

潰瘍ニ於テ最モ適當ナル液性食品ハ牛乳ナリ、コレ牛乳ハ胃粘膜ニ對シテ刺戟少ナク胃酸ヲ減却シ、且ツ其内ニ含有セラル、滋養價ノ比較的大ナルヲ以テヨク應用セラル、モノトス、而シテ其初メニ於テハ一時間毎一乃至二食匙宛與フルヲ可トス、オーゼル氏ハコノ際氷水中ニ冷藏シタルモノヲ賞用セリ、而シテ一日量大凡半「リーテル」ニ達セシムルヲ可トス、此ノ如クスル時ハ人ハ其甚ダ少量ニシテ、榮養ヲシテ衰ヘシムベキヲ疑フモ、コレ全ク一時ノ處置ニ過ギズシテ敢テ永キニ亘リテ與フルニアラザレバ、多少ノ障害ハ決シテ意トスル所ニアラズ、此ノ如クニシテ約一週日ヲ經過セシム。

止血後第二週ニ至リテハ、多クノ患者ハ便秘ヲ來タスヲ以テ、歐洲殊ニ獨逸

ノ學者ハ朝夕五乃至一〇瓦ノ加爾々斯泉鹽ヲ服用セシメ以テ便通ヲ正常ニスベシト云フ(吾人ハコレヲ與フルコトナシ、何トナレバ治療ノ結果ニ於テ差ナケレバナリ然シテ後半時間ヲ經テ牛乳ヲ與フベシ。其量一回大凡百瓦乃至二百瓦トス、然レドモ患者ニヨリ或ハコレヲ嫌忌スル者ナキニアラザルヲ以テ豫メ牛乳中ニ煆性麻倔涅矢亞、重曹若シクハ石灰水ヲ適宜ニ投ズルモ亦可ナリ、而カモ尚コレニ堪エザル時ハ極少量ノ珈琲、茶若シクハ「ソップ」ヲ調和スルモ可ナリ、フライチル氏ハ肉膠凝ヲ賞揚セリ、或ハマタロイベ、ローゼンタール氏肉溶液ヲ以テスルモ可ナリ、此ノ如クニシテ尚ホ三時ヲ經バ重湯一〇〇瓦ヲ與ヘ、正午ニ至リテ牛乳及ビ「スープ」各一〇〇瓦ヲ投與スベシ、尚ホ三時間ヲ經テ重湯一〇〇瓦乃至牛乳一〇〇瓦ヲ與ヘ、夕食ニ至リテ「スープ」一〇〇瓦牛乳一〇〇瓦ヲ與フベシ、要スルニ此ノ週ニ於ケル食養ハ尚ホ流動食トシテ未ダ固形食品ヲ與フルヲ許サス、或ハ「スープ」ニ卵ヲ投ジテ與フル等ノ事ヲナス、モノトス、且ツコノ際ニ當リテハ唯牛乳、重湯若シクハ「スープ」ハ甚ダ主要ナルヲ以テ時ニ其味ヲ變ジ、若シクハコレ等ノ食品中ニ鷄卵等ヲ投ジテ與フベキモノトス。

第三週ニ至リテ(尚ホ朝夕便通ニ對シテ加爾々斯泉鹽ヲ服用セシムルモノアリ患者ノ取ルベキ主要食ハ尚ホ牛乳ニシテ其他鷄卵、「スープ」、粥刺身(麺麭)ノ如キモノヲ與ヘテ可ナリ

第四週ニ至リテ患者益〻回復ノ運ニ向フニ從ヒ、上述ノ液性食品ノ外、初メテ固形食品、就中肉類等ハ攝取ヲ許シ、殊ニ我國人ニアリテハ粥ノ外副食物トシテ柔軟ナル鳥肉若シクハ細剉セル牛肉等ヲ與フベシ、又馬鈴薯ノ如キハ糊泥狀トシテ投與シテ可ナリ、然レドモ是等ノ食品ハ注意セズンバ往々失敗ヲ招クコトアルヲ以テ調理ノ法及ビ其量ニ就キテハ宜シク注意スベシ。

第五週ニ至レバ患者ハ益〻回復ノ運ニ向ヒ、已ニ心窩部ノ疼痛消失シ榮養亦順ニ向フニ至レバ注意ヲ拂ヒツヽ、普通食ニ移ルベシ。

今左ニ胃腸病院ニ收容セル潰瘍患者食養ノ一例ヲ示ス。

男　某　二十六年二ケ月(明治四十年七月廿二日入院)

宗族歴ニ於テ何等ノ徴スベキモノナク患者生來健ニシテ曾テ著患ヲ知ラズ、發病ノ由來スル所ハ患者青年ニ達シテ酒ヲ嗜ミ、鯨飲スルニ因リテ初マルヲ云フ、而シテ患者ハ飲酒後常ニ自ラ故意ニ嘔吐ヲ起シ、以テ一時ノ快ヲ求ムル

ヲ例トセリ、爲ニ平素自ラ消化不良ノ感ヲ抱キシト云フ、本症ノ初メハ本年四月牛飲馬食シテ偶然嘔吐ヲ起セシコトアリシモ、暫時ニシテ輕快セルヲ以テ、別ニ醫療ヲ請ハザリシニ、同月末ニ至リ偶然劇烈ナル嘔吐ヲ起シ、五月中旬ニ達シテ再ビ消化不良ノ症狀ノ下ニ嘔吐ヲ來シ、續イテ吐血スルニ至リ、茲ニ初メテ醫治ヲ請フノ已ムナキニ至レリ、然ルニ右ノ症狀ハ日ヲ追フテ輕快シ、其後甚ダシキ症狀ナカリシガ、七月十五日及ビ同二十日ニ於テ再ビ黑褐色ノ吐血ヲ來スニ至リ、爾來絶エズ心窩部ニ於テ灼熱スルガ如キ感アリト云フ。

消化器ノ自覺症狀トシテ食思全ク缺損シ食味、口渴及ビ嚥下ニハ別ニ大ナル障害ナク、唯頻リニ心窩部膨滿ノ感ヲ訴ヘ、牛乳ノ少量ヲ攝取スルモ、尚ホ胃部ニ於テ膨滿苦悶ノ感ヲ訴フ、且ツ患者ハ呑酸嘈囃ヲ訴ヘ、食道ヨリ胃部ニ亘リテ灼クガ如キ感アリ。疼痛ハ甚ダシカラザルモ、嘔吐ヲ催サントスルニ際シテ胃痛ヲ訴フルヲ常トシ、且ツ時々惡臭アル噯氣ヲ出ス、而カモ絶エズ惡心ヲ覺エ、便通ハ全ク秘結ス、然レドモ尿利平常ニ異ナラズ、他覺症狀トシテハ胃ノ下界ハ臍下二指ニ至リ、硬結ヲ認メズ、胃部ノ疼痛トシテハ輕度ナルモ一般ニ存在ス(吐血後ナルヲ以テ觸診不充分ナリ)、背痛ハ中等度ニ於テ明カニ胸椎ノ左側ニ存在ス。

以上ノ既往症及ビ自覺及他覺症狀ニヨリ容易ニ潰瘍ト診斷セリ、コレニ對ス

ル晋人ノ食餌撰擇ハ次ノ如クニセリ。

	朝食	晝食	晚食
吐血當日(七月廿日)	絶食		
止血 七月二十一日	同上		
七月二十二日	同上		
七月二十三日	牛乳五勺	牛乳五勺	葛湯一合
七月廿四日ヨリ七月廿八日迄	牛乳五勺 葛湯五勺	同上	同上
七月廿九日ヨリ七月卅一日迄	牛乳五勺 葛湯五勺 卵黄一個	牛乳五勺 葛湯五勺 卵黄一個	牛乳五勺 葛湯五勺 卵黄一個
八月一日ヨリ八月八日ニ至ル八日間	牛乳五勺 卵二個 パン二十匁	粥六十匁 デンプン少量 卵黄二個 牛乳一合	同上
八月九日ヨリ八月十五日ニ至ル七日間	牛乳一合 卵一個 粥八十五匁	粥八十五匁 刺身十一切 卵一個 牛乳一合	粥八十五匁 煮肴二十匁 卵一個 牛乳一合
八月十六日ヨリ八月十八日迄	牛乳一合 卵一個 パン四十匁	同上	同上

右吐血後三十日間ノ食養ヲ示ス

右ノ如クニシテ第四週ヲ過ギ普通食ニ移ラシメタリ、然レドモ尚ホ粥ヲ以テ主食トシ、野菜ヲ禁ジ重ニ肉食ヲ與ヘタリシニ、患者ハ昔日ノ苦惱ヲ忘レ、患部何等ノ訴フルナク、八月十八日欣然トシテ病院ヲ辭セリ、入院日數ヲ算スルコト僅カニ二十八日、入院當日ノ體量ヲ增加スルコト約五「キログラム」ナリ。

尙ホ歐洲ニ於ケル有名ナル二三學者ノ食養法ヲ掲載ス。

一　ペンツォルト氏ノ胃潰瘍ニ對スル食餌表(七十基瓦ノ體重ヲ有シ勞働セズシテ靜息セル人ニシテ蛋白百瓦、脂肪五十六瓦、含水炭素四百瓦、即チ二千三百カロリー)ヲ要スル健康人ヲ基礎トシテ算セルモノナリ)。

		午前				午後				夜	溫量
	六時ー七時	七時ー八時	九時ー十時	零時ー一時	三時ー四時	六時ー七時					
第一(十日間)	二分ノ一乃至一茶匙ノ煮沸牛乳加細々斯泉塩ヲ二百五十瓦ノ微溫湯ニ溶カシテ與フ	二百五十瓦「ソップ」及一個ノ「ケーク」	二百瓦ノ煮沸牛乳	卵一個ヲ有スル「ソップ」若シクハ肉溶液ヲ有スル「ソップ」	牛乳二百五十瓦	牛乳二百五十瓦若シクハ卵一個ヲ有スル「ソップ」及「ケーク」一個	牛乳二百五十瓦(晝間ハ粥製熱罷法ヲ施シ夜間ハ「プリー」スニツツ氏溫罷法ヲ行フ)	八〇〇			
第二(十日間)	同上	牛乳二百五十瓦「ケーク」二個	牛乳二百五十瓦「ケーク」二個少量ノ細挫セル肉	牛乳二百五十瓦ノ煮沸セル牛腦若シクハ皮脂肪ヲ去リタル鳩又ハ幼鷄ノ肉及ビ「ソップ」	牛乳二百五十瓦及「ビスケット」二個	牛乳二百五十瓦「ケーク」二個	牛乳二百五十瓦若シクハ卵一個ヲ有スル「ソップ」及「ケーク」一個	牛乳二百五十瓦(晝間ハ粥製熱罷法ヲ施シ夜間ハ「プリー」スニツツ氏溫罷法ヲ行フ)	同上	一〇八〇	
第三(十日間)	同上	牛乳三百瓦卵ヲ有スル「ソップ」及「ケーク」三個	牛腦ヲ有スル「ソップ」及「ビフスケット」二個	牛腦ヲ有スル「ソップ」及「ビフスケット」二個	牛乳二百五十瓦及「ビスケット」二個	牛乳二百五十瓦若シクハ卵一個ヲ有スル「ソップ」及「ケーク」一個	牛乳二百五十瓦(晝間ハ粥製熱罷法ヲ施シ夜間ハ「プリー」スニツツ氏溫罷法ヲ行フ)	焼炙セル鳩牛乳二百五十瓦	同上	一六〇〇	
第四(十日間)		牛乳二百五十瓦卵ヲ有スル「ソップ」及「ビフスケット」二個ノ「ミルヒブロート」	牛乳五百瓦卵ヲ有スル「ソップ」及「ビフスケット」二個ノ「ミルヒブロート」	牛乳二百五十瓦卵ヲ有スル「ソップ」及「ビフスケット」二個ノ「ミルヒブロート」	牛乳二百五十瓦焼肉、魚ノ如キ鳥類百瓦ノ「ビフスケット」三個ノ「ミルヒブロート」	牛乳二百五十瓦「ビフスケット」二個ノ「ミルヒブロート」	牛乳二百五十瓦	一九〇〇			

二　ロイベ及ビチームセン氏食養法

出血後第四日目ヨリ四週間ニ亘ル食養法ニシテ、コレト同時ニ加爾々斯泉鹽ノ服用胃部ノ熱巴布ヲ併用スルモノトス、其食養法ハ次ノ如シ。

第一週及ビ第二週

毎二時牛乳ノ少許(石灰水又ハ僅少ノ茶ヲ入レ)ヲ飲マシメ、次デコレニ加フルニ卵黄若シクハ人工榮養品(例令「サナトーゲン」「プラスモン」「ヌトローゼ」等ヲ牛乳中ニ投ジ、或ハ又肉煮汁中ニ肉越幾斯、又ハ「ペプトーン」ヲ加伍シテ與フ(最近佐々木達氏ノ研究ニヨレバ肉越幾斯分ハ却テ適應セズト云フ)マタ之ニ代フルニ小麥若シクハ燕麥粉ヲ糊泥狀ニセルモノ及ビおもゆ等ヲ入ルヽヲ可トス、且ツ時宜ニヨリ、一日一回乃至二回ノ滋養灌腸ヲ繼續ス。

第三週

尙ホ牛乳ヲ以テ主食トシコレニ人工榮養品ヲ加伍シテ與フ、或ハ「ソウーパツク」又ハ小麥麵包ヲ漬ケタル牛乳、其他煮沸セル犢牛腦、犢牛胸腺、犢牛脚等ヲ許ス、尙ホ淡泊ナル魚類例令鱈、鱸等ノ攝取ヲ許可ス。

第四週

馬鈴薯「タピオカ」及ビ米粥、細剉セル「ビーフテーキ」、細剉セル薰腿、煮タル鳥類燒キタル鷄肉、鳩肉「ロース」牛肉、犢牛肉、幼鹿肉、鳴鳩及ビ兎肉等ヲ與ヒ、之ニ副ユルニ白麵包、菠薐草、胡蘿蔔等ヲ糊泥狀ニ煮タルモノ、若シクハ之ニ少量ノ蒸果實(林檎、梨子、桃等ノ糊泥狀ニ煮タルモノ)ヲ與フ、終リニ穀粉食品及ビ少許ノ葡萄酒ヲ許可ス

飲料。トシテハ潰瘍療法ノ全經過中炭酸含有飲料ヲ許可ス、而シテ第四週ヲ經過スルニ及ンデ、酒精飲料ノ少許ヲ許可ス。

レンハルツ氏(一九〇四年)ハハンブルヒ醫學會ニ於テ胃潰瘍ノ食養療法ニ就キ多數ノ自家經驗ヲ基礎トシ、從來禁忌トセル點ニ對シ、全ク正反對ノ意見ヲ發表セリ、同氏ノ主張ニヨレバ潰瘍ノ生成ヲ促ガシ、且ツ其治癒ヲ妨害スル動機即チ貧血及ビ榮養不良ニ對シ、充分ニ之ヲ補足セザルベカラズトシ、潰瘍療法ノ初メヨリ充分ナル食養ヲ患者ニ供給シ、以テ體質保健ノ道ヲ講ゼザルベカラズトセリ、此ノ如クニシテ漸々榮養佳良ニ趣キ、血液ノ性狀舊ニ復スルニ至レバ、其結果潰瘍ノ治癒宜シキヲ得從ツテ胃官能ノ健全ヲ來スニ至ルベシト。

氏ハ潰瘍患者ニ對シ出血ノ第一日ニ於テ二百瓦乃至三百瓦ノ牛乳、及ビ一個乃至三個ノ鷄卵ヲ口腔ヨリ攝取セシメ、日ヲ追フテ其量ヲ增加シ、第六日目ニ於テハ多量ノ牛乳(一リーテル以上)ト、二三個ノ生卵、及ビ細剉セル牛肉等ヲ投與セリ、ワグナル氏亦レンハルツ氏ニ倣ヒ多數ノ潰瘍患者ニ同樣ノ食養ヲ攝ラシメシニ、多クハ皆良好ノ結果ヲ獲、而カモロイベ氏法ニ比スレバ治療期間ヲ短縮スト云ヘリ、要スルニレンハルツ氏等ノ主張ハ多量ノ蛋白食品ヲ供給スレバ全身榮養ニ對シ、大ナル稗益ヲ與フルノミナラズ、胃ニ於テハ潰瘍治癒ヲ妨害スル主因トモ云フベキ鹽酸過剩ニ對シテ其度ヲ減殺シ得ベシト云フニアリ、且ツ兩氏共ニ該食養ニ依リ、出血ノ再發若シクハ他ノ合併症ヲ由來セシヲ見ズ、加之比較的速カニ治療期間ヲ經過スト云ヘリ。

其ノ後レンハルツ氏ノ説ニ對シ多數ノ反對論現ハレ、實地上危險ナキロイベ、チームセン氏ノ療法ハ、却テ好果ヲ見ルモノナリト云フ者多キニ至レリ、且ツ一方ニ於テクリーチベルグル氏(一九〇四年)ハ床上ニ靜臥セル十三例ノ潰瘍患者ニ對シ、九日乃至二十二日間滋養灌腸ヲノミ施セシニ何レモ血液ノ性狀若シクハ心臟ニ對シ、注目スベキノ變化ヲ認メザリシト云フ、且又ツァルコー氏ハ患者ノ饑餓時ニ於テハ酸過多及ビ分泌過多ハ漸次減少スルモノナリト云ヘリ。

要スルニレンハルツ氏ノ潰瘍療法ハ決シテ危險ナシト云フ能ハズ、即チ胃出血ノ第一日ニ於テ該器官ニ食物ヲ送ルガ如キ、而カモ容量多キ牛乳若シクハ鷄卵ヲ投ズルガ如キハ、決シテ吾人ノ賞讃スベキモノニアラズ、殊ニコレガタメ胃粘膜面ノ肉芽發生若シクハ血栓形成ヲ妨害スルニ至ルハ、何人モ認ムル所ナリ、故ニ余ハ氏ノ説ニ對シテハ決シテ首肯セザルナリ。

近來ニ至リ有名ナル學者臨床上ノ知見ニヨリ、レンハルツ氏療法ヲ改良セリ、例令ノールデン、ミンコースキー、及ビセナートル氏ノ如キ、之ナリ此等學者ノ療法ヲ總括シ、其中ヲ取リテ略述スレバ次ノ如シ、

出血後廿四時間乃至四十八時間ハ口腔食事ハ之ヲ禁ジ、唯肛門食養ニヨリ次デ液性食品ヲ攝取セシムルコト恰モロイベ氏ノ第一第二週ニ於ケルガ如クス、且ツ一日二個乃至三個ノ鷄卵ヲ許可ス、第三日以後ニ至リ、初メテレンハルツ氏法ニヨリテ差支ナキモノトセリ

セナートル氏ハ尚新鮮ナル潰瘍出血ニ對シ、止血及ビ榮養ノ目的ヲ以テ膠質煎汁ヲ以テセリ即チ。

白膠煎	(一五・〇—二〇・〇)
枸櫞油糖	一五〇・〇—二〇〇・〇 五〇・〇

右混和每一時一食匙宛

此ノ如クスル時ハ「グルチン」膠質)ハ蛋白節約品トシテ作用スルニ至ルベシト、尚ホ氏ハコレニ加フルニ牛酪及ビ乳脂ノ多量ヲ以テシ、一日九百乃至一千「カロリー」ノ溫量ヲ送致スルニ力メタリ。

フォン、ノールデン氏ハ出血後八日乃至十日後ニ至リ、注意シテ多量ノ食品ヲ供給シ、三千五百乃至四千五百「カロリー」ノ溫量ヲ產出シ得ベクセリ。

慢性胃加答兒ノ食養ニ類スル點アルヲ以テ其章ヲ參照スベシ

六　胃癌 Der Magenkrebs, carcinoma ventriculi.

胃癌ノ食養療法ハ諸種ノ點ニ就テ注意ヲ拂ハザルベカラザルモ、其初メ吾人ノ注意スベキハ胃粘膜ノ狀態ニアリ、就中癌腫ノ出血ニ傾カントスル際ニ於テハ胃粘膜面ニ於ケル器械的刺戟ヲ避ケ液性食品若シクハ極メテ柔軟ナル榮養品ヲ撰定シ、充分ナル溫量ヲ產出シ得ベキモノヲ攝取セシムベシ、加之癌腫ノ特性トシテ該患者ノ大多數ハ潛在出血ヲ來スヲ以テ膠凝類ヲ撰用スルハ極メテ良好ノ處置ト云ハザルベカラズ。

其他癌腫ニアリテハ大多數減酸若シクハ無酸性內容ヲ有スルヲ以テ、減酸症若シクハ無酸症ニ於ケルガ如キ、食品撰擇ヲナシ、且ツ其調理ニ就キテモ同樣ノ範ニ出ヅルヲ可トス、然レドモ運動力ノ障害コレニ加ハルコト最モ多キヲ以テ、此點ニ關シテハ尙ホ一層ノ注意ヲ拂フヲ要ス。

本症ハ食思ノ障害ヲ來シ、食欲全ク不振ニ陷ルコト往々之アルヲ以テ時ニ食思亢進ヲ促ガスベキ食料ヲ撰定シ、且ツ其食品及ビ調理ノ法ハ決シテ干篇一律ナラシメズ、多樣ノ品目ト諸種ノ調理トニヨリ、以テ患者ノ嗜好ヲ多カラシメ榮養補給ノ完璧ヲ期スベシ。

終リニ注意スベキ點ハ癌腫發生ノ部位ニヨリ、其食養ヲ異ニセザルベカラザルコト之ナリ、何トナレバ腫瘍發生ノ部位ニヨリ、其症狀モ亦各異ナル點アルヲ以テナリ、故ニ余ハ之ヲ三項ニ分チ　一、噴門癌　二、幽門癌　三、胃自家ノ癌トシテ其食養ヲ述ブ。

一　噴門癌

患者日ニ益固形食品ヲ攝取スル能ハザル悲境ニ陷リ、終ニ全クソノ攝取ヲ敢テスル能ハザル場合ニ於テハ、吾人ハコレニ投ズルニ常ニ平等ニ混和セラレタル粥狀食品ヲ以テスルヲ可トス、而カモ尙ホ病勢ノ進捗ニ伴ヒコレニ與フルニ液性食品ヲ以テスルモノトス、而シテコノ粥狀ノ食品若シクハ液性食品ハ勿論コレヲ蛋白質、含水炭素及ビ脂肪ヨリ取ラザルベカラザルヤ論ナシ、殊ニ蛋白食品中肉類ハヨクコレヲ細剉シ細網ノ篩ヲ以テヨク濾過シ、然ル後コレニ調味シテ供給スベシ、野菜類即チ含水炭素食品ハヨク煮タル後叮嚀ニ研磨シ、以テ糊泥狀トナシテ與フベシ、鷄卵ハコレヲ生卵トシ若シクハ半熟トシテ供給スベク、液性食品ハ出來得ル限リ滋養價ニ富メル

噴門癌ニ施シタル胃腸吻合術後ニ於ケル食養

モノヲ與フルヲ可トス、就中牛乳ハ最モ其良ナルモノトス、其他粘液「ソップ」例令小麥煎汁、葛湯、おもゆノ如キモノヲ與ヘ、或ハマタ「ビーフテー」、「プラスモン」「ヒギアマ」「ストローゼ」肉、ペプトン」及ビ其他ノ粉末樣蛋白滋養品ヲ溶解シタル液汁ヲ與フルヲ可トス、就中ボアス氏ハフォン、メーリング及ビツンツ氏ニヨリテ賞用セラレタル「クラフト、チョコレート」ヲ賞用セリ、其他多少ノ刺戟食品モ亦其經過中往々用ヒザルベカラズ、例令柔和ナル葡萄酒、晩茶ノ如キ是ナリ、然レドモ患者全ク嚥下作用ヲ阻碍セラレ、噴門全ク閉塞スルニ至ル時ハ吾人ハコレニ對シテ自然ノ糧道ヲ絶タレタルヲ以テ、全ク外科的方法ニ出ヅルノ外ナキモノトス、コノ場合ニ於ケル外科的手術ノ最モ進歩シタル而カモ今日比較的奏効シツヽアル方法ハ胃腸吻合術ナリ、而シテ今此法ヲ實行シタリトセバ、吾人マタ此際ニ於ケル食養ヲ供給スルノ道ヲ講ゼザルベカラズ、コレ他ナシ手術ニヨリテ作ラレタル瘻管ヨリ榮養物ヲ供給スルニアリ、此ノ如キ場合ニ於テハ直チニ榮養品ヲ瘻管ヨリ送ルモ可ナリ、然レドモ尙ホ患者ヲシテ食品ヲ自己ノ口腔内ニ於テヨク咀嚼セシメ、唾液トヨク混淆シ、然ル後消化作用ニ向ツテ豫メヨク調理セル粥中ニ投ジテ之ヲ漏

斗ニ注ギ、若クハマタ肉汁其他ノ液性品ト共ニ瘻管ヨリコレヲ傾注スルヲ最良トス、然ル時ハ口腔消化ハ已ニ行ハルヽヲ以テナリ、其他モシ手術ヲ施サヾル以前ニ於テ榮養ノ阻碍セラルヽコト甚シキ場合ニアリテハ、腸管ヲ以テ消化作用ヲ代償セシメ、直腸ヨリ滋養灌腸ヲ施シ以テ其急ヲ救フベキモノトス、其他皮下榮養モ亦顧ミザルベカラズ。

二 胃自家及ビ幽門癌

尙ホ噴門癌腫ニ於ケルガ如ク患者ニシテ手術臺上ニ上ルヲ肯ゼズ、若クハ手術ノ期ヲ經過シ、到底刀ヲ下シ難キ場合ニ於テハ、吾人ハ尙ホ内科療法ノ至當ナル處置ヲ講ゼザルベカラズ、然レトモ惜或今日ニ於テハ到底根治的治法ノ索ムベキモノナク、唯對症療法ニ過ギザルノミ、而シテ對症療法中吾人ノ最モ注意セザルベカラザルモノハ實ニコレニ對スル食養療法ナリ。

吾人ガ今幽門及ビ胃自家ニ於ケル癌腫食養ヲ論ズルニ當リテハ、先ヅ其運動力及ビ化學的機能ノ障害ニ就テ研究セザルベカラズ、然レドモ運動力ハ兩者全ク相一致セズ、前者ニアリテハ幽門狹窄ノ症狀ヲ來シ、タメニ胃擴張ヲ後發スルニ至ルベシ、然ル時ハ前掲胃擴張ノ部ニ於テ論述シタル胃擴張

症ノ食養ノ一部ハ將ニコレニ應用シテ可ナルベク、モシ亦胃自家ニ生ジタル場合ハ其運動力ハ比較的阻害セラルヽコト少ナキヲ以テ、食養モ亦前者ト異ナルモノトス、然レドモ吾人ハ今コノ二種ノ場合ニ於テ共通ナル點ニ顧慮シテ食養法ヲ講ゼントス、コノ場合ニ於テ吾人ノ先ヅ着目スベキ點ハ胃液ノ成分ニアリ、即チ胃癌ノ大多數ニ於テハ鹽酸ノ缺乏ト、乳酸ノ增加ニアルヲ以テ、肉類ノ消化ハ比較的甚タシク障害セラレ、植物性食品即チ含水炭素ハヨク其消化ヲ營ミ得ルモノトス、況ンヤコノ患者ノ多クハ肉食ヲ倦忌スル者甚タ多キニ於テハ、尙ホ更ニ吾人ハ植物性食品ヲ以テ其榮養ヲ取ルニ力メザルベカラズ、而シテ此患者ニアリテハ胃內ニ於ケル蛋白質ノ分解ハ高度ニ達シ、而カモ其攝取スル分量ノ多少ニヨリテ增減スルモノナルハ、ミルレル及ビクレムベレル氏ノ唱フル所ニシテ吾人ハ此ノ理ヲ承認スルト同時ニ、出來得ル限リコレヲ少量ニ與フルニ力メザルベカラザルナリ、ペンツォルト氏曰ク「硬固強靭ナル動物組織及ビ木纖維ニ富メル食品ハ全然コレヲ食箋ヨリ削除スベシ」ト吾人亦以テ則トスベキヲ知ル。胃自家ノ癌腫ニシテ運動力ノ障害比較的甚シカラザル場合ニ於テハ肉類

殊ニ魚類(例令大口魚、棱魚、鮭)ノ肉苦クハ犢牛肉及ビ牛肉、羊肉及ビ其他ノ野獸ノ肉ノ如キハヨク其消化ニ堪ユ、又ヨク香料ヲ用ヒテ食味ヲ補助シ、若クハ肉類ニヨリテ誘發セラルヽ、惡心、膨滿等ヲ防グガ爲メ、柔和ナル香料ヲ許スモ亦可ナリ、其他吾人ハ往々鹽酸ヲ是等ノ肉食ト共用シ、比較的善クコレヲ消化セシムルヲ得ルコトアリ、同時ニコレニヨリテ防腐ノ作用ヲ完フセシムルヲ得ルヲ以テ、機ニ乘ジテ試ムベキコトニ屬ス、フライヂル氏ハ鹽酸ヲ以テ「ソース」ヲ作リ、コレヲ細切シタル肉類ニ注ギテ食セシムルヲ賞用セリ(即チ稀鹽酸十滴、リービッヒ氏肉越幾斯二分ノ一茶匙、及ビ微溫湯二食匙ヲ互ニ混和シテ製シタルモノナリ)一般ニ運動力ノ障害明カナル時ハ、肉類ヲシテ常ニ細剉シテ與フルヲ可トス、次ニ植物性食品ハ本症患者ニ最モ適應セルモノニシテ、一般ニ吾人ハコレヲ糊泥狀トシテ與フルモノトス、殊ニ用ヒラルヽモノハ穀粉調製品ナリトス、故ニ粥、米牛乳粥、穀粉糊泥、「プッデング」等ヲ賞用シ、コレニ伍スルニ鷄卵若クハ「ビスケット」或ハ焙燒セル白麵麭ノ如キヲ以テス、其他穀粉煎汁或ハ牛乳ノ如キハ亦ヨク應用スベキモノトス、其他脂肪食品モ亦蛋白節約作用ヲ有スル貴重ノ食品タルヲ以テ、出來得ル限リ

精製シタル牛酪ヲ用フルヲ可トス。幽門ノ癌腫ニアリテハ運動力障碍著シキヲ以テ、ヨクコノ點ニ注意スルヲ要ス、然レトモ食品撰擇ハ以上ノ如クニシテ可ナリ、尚唯特ニ茲ニ一言スベキハ後者ノ場合ニアリテハ分解現象ニ傾キ易キコト前者ノ比ニアラザルヲ以テ、馬鈴薯、黑麵麭、葉菜類若クハ麥酒ノ如ク醱酵シ易キ食品ハコレヲ嚴禁シ、胃ニ於テ直チニ吸收セラレ易キ「ペプトーン」若クハ葡萄糖溶液ノ如キモノヲ撰用スベシ。

胃自家ノ癌ト云ヒ、若クハ幽門ノ癌ト云ヒ、患者ニ向ツテ供給スル食品ハ常ニ千篇一律ナラザルヲ要ス、何トナレバ同一ナル食品ノ持長ハ健康人ト雖モ精神的已ニ堪エ得ル所ニアラザルヲ以テカクノ如ク苦惱シツヽアル患者ニ對シテハ常ニ混食ヲ賞用スベキコト勿論ナリ、故ニ同一物ト雖モ調理ハ法ニ注意シ且ツ其ノ混食ニ顧慮シ精神ハ愉快ト食品ハ混成ハ最モ人體ニ適當ナリトノ理想ヲ以テ投與スベシ、從ツテ時ニ或ハ多少ノ飲料ヲ與フルモ敢テ咎ムベキニアラズ、例令赤酒ノ如キ「シャンパン」ノ如キモ、其半盞若クハ一盞ヲ供スルハ決シテ禁ズベキニアラズ、或ハマタ疾病ノ進捗ト共ニ全ク食思ノ缺損ヲ招グガ如キ場合ニ遭遇セバ、患者自己平生ノ嗜好品ヲ求メコレニヨリテ精神上ノ小康ヲ計ラント欲シ適否ヲ醫ニ問フ者アレバ、醫ハ絶對ニコレヲ拒絶スルナク、時ニ或ハ其請ニ應ズベク、依テ以テ死ノ宣告ヲ受ケタル患者ノ喜ビヲ買フニ力ムベシ、唯吾人ハ本症ニ對シテ禁制スベキ食品ヲ豫メ患者ニ告ゲ、充分慰籍ノ下ニ指示スベキモノトス、其他マタ食品供給ハ常ニ必ズシモ一時ニ多量ヲハミ與フルノ要ナク、少量宛數回ニ與フルノ利アルコトヲ忘ルベカラズ、

七　胃下垂 Gastroptose.

胃下垂ノ食養療法トシテハ須ラク全身ハ榮養ヲ增進セザルベカラズ、故ニ肥胖療法ヲ施スハ最モ適當ナル處置ト云ハザルベカラズ、然レドモ常ニ下垂患者ノ胃液ニ注意シ、胃液ニシテモシ酸過多ナル場合ハ該療法ニ加フルニ酸過多症ニ於ケル療法ヲ以テシ、若シ亦酸減少ヲ來ス場合ニ於テハ慢性胃加答兒ノ如キ食養ヲ結合スベシ、且ツ食品ノ分量ニ就テハ常ニ注意セザルベカラズ、即チ一回ニ多量ヲ與ヘ胃ヲシテ重荷ヲ負ハシムルハ、却テ下垂ヲ增進セシムルノ傾向アルヲ以テ、コレヲ避ケザルベカラズ、況ンヤ下垂ニ

加フルニ「アトニー」狀ヲ以テシ、若クハ多少ノ擴張ヲ伴フニ於テハ特ニ注意スベシ、元來痩削セル體格ヲ有スル者一朝コレヲ患フル時ハ安靜食養法及ビ肥胖療法ハ最モ其効ヲ奏ス、コレ即チ腹腔內ニ於テ脂肪ハ沈着ヲ饒多ナラシメ一方ニ於テハ沈降セントスル胃腑ハ支障トナリ、同時ニ良好ナル榮養ニヨリ全身組織ハ緊張力ヲ增進セシムルヲ以テナリ、故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ先ツ脂肪ニ富メル食品、就中「バタ」ノ多量ヲ用フルヲ可トス、含水炭素モ亦必要ナルモノニシテ牛乳及ビ穀粉食品ヲ調理スルヲ可トス、元ヨリ上述セル如ク常ニ胃分泌ノ性質ニ顧ミ、比較的多量ノ消化シ易キ混成食品ヲ投與スルヲ可トス、其他尙ホ食養ニ依賴シテ便秘ヲ去ルニ力メ、果實ノ如キモノヲ脫皮離核シテ與ヘ、若クハ野菜等ヲ用フルヲ可トス(肥胖療法ニ就テハ後章ヲ參照スベシ

神經性胃疾患 Die Magenneurosen.

總論

神經性胃疾患ハ其症狀極メテ複雜ニシテ、各病相通ジテ甚ダ異ナル症狀ヲ

肉食ヲ過食スルハヨロシカラズ

酒精飲用ハ一二ノ場合ノ外禁忌スベキモノトス

ノミ呈スルヲ例トス、從テ共通ノ食養ヲ指定スルコト甚ダ難シ、加之同一疾患ニ於テモ亦往々同一理由ノ下ニ食養ヲ撰擇スル能ハザルコトアリ。

要スルニ本症ニ於テハ精細ナル食箋ヲ調製センヨリハ、ムシロ患者ノ食品ニ對スル特異質及ビ個人ノ嗜好ニ重キヲ措キ、然ル後食養ヲ講ズルヲ最良ノ方法トス、然レドモ調理ノ方法及ビ食品ノ撰擇ハ、常ニ榮養保全ノ原則ニ準據シ、且ツ患者日常ノ生活狀態ニ適應セシメザルベカラズ、殊ニ吾人ノ注意スベキハ過多ノ食品ヲ供給セズ(肥胖療法ヲ施サヽルベカラザル場合ハ之ヲ除ク)力メテ消化器官ヲ愛惜シ、過勞ニ陷ラザル樣注意セザルベカラズ

就中肉食ノ多量ヲ欲スルガ如キハ神經症ニ於テ決シテ賞用スベキモノニアラズ、元ヨリ肉類ノ供給ハ一日モ欠クベカラザルモノナレドモ、比較的少量ヲ與ヘ、決シテ過量ナラシメズ、宜シク制限スベキモノトス、通常本症ニ於テハ牛乳若シクハ植物性食品ニ重キヲ措キ、調理ニ注意シテ良好ノ味ヲ附シ、且ツ刺戟少ナカラシムルヲ可トス、然ラザレバ却テ症狀ヲシテ險惡ナラシムルコト往々之アレバナリ。

高度ノ榮養不良及ビ神經性食思欠乏症ヲ除クノ外、酒精飲料ハ本症患者ニ

對シテハ禁忌スベク、或ハ唯健胃ノ目的ヲ達セシメンガタメ藥品的用量ニ於テスベシ、殊ニ興奮性分泌神經症例令酸過多症、分泌過多症等ニ於テハ絶對ニ禁忌スベシ、喫煙モ亦胃神經症ニ於テハ極メテ少量ニ限ルカ、若シクハ全ク廢セシムルヲ可トス。

便通ノ正規ハ尚ホ他ノ疾患ニ於ケルガ如ク、常ニ念頭ヲ離レシムベカラズ、其他全身ノ榮養ニ對シテハ造次モ留意ヲ怠ルナク、加之爾他ノ療法ニ對シ術生上ノ注意ヲ忘ルベカラズ、即チ身體ノ運動、新鮮ナル空氣、陽光ニ浴スルコト、及ビ體操、遊戯或ハ騎馬、操舟ノ如キ、若シクハ他ノ物理的療法、殊ニ水治法、電氣療法ノ適用等ハ須臾モ忘ルベカラズ、殊ニ原病ニ對スル原因療法、特ニ神經衰弱及ビ「ヒステリー」ノ如キハ速カナル快癒ヲ得セシムルニ力ムベキモノトス。

本症ニ於テハ尚ホ他ノ疾患ニ於ケルガ如ク患者ニ對シ、一定ノ教訓、及ビ生活ノ秩序ヲ正整タラシメザルベカラズ、然レドモ此ノ如キハ到底自宅ニ於テ實行スルコト難シ、故ニ或種ノ疾患ニ於テハ專門病院、若シクハ他ノ病院內ニ於テ施治セザルベカラズ。

重症ノ神經性疾患ニ於テハ、絶對的床上ノ安靜ヲ要スルコトアリ、コレ他ナシ、日常生活ノ煩累ヲ避ケ然ル後始テ其障害ヲ除去シ得ベケレバナリ

神經性胃疾患 Magenneurose.

甲 運動神經性胃疾患 Motorische Magenneurose.

一 神經性噯氣 Nervöse Aufstoss.

食餌療法ハ此際格段ノ影響ナキモノナレトモ、食事ニ際シヨク之ヲ咀嚼シ、空氣嚥下ヲ避ケシメ、炭酸瓦斯ヲ含ムノ飲料ハ、須ラク之ヲ避ケシムベシ、且ツ患者ノ精神ヲシテ常ニ安靜ナラシメ、決シテ急卒ノ攝食ヲナサシムベカラズ、少シク執拗ノ經過ヲ取ル時ハ或ハ入院治療ノ必要ヲ見ルコアリ。

二 再嚼症及ビ反芻症

Ruminatio (Mericysmus) u. Regurgitation.

食品撰擇ハ敢テ嚴格ナル注意ヲ拂フノ要ナキモノトス、唯咀嚼ヲ充分ニシ、一時ニ多量ヲ貪食スルヲ愼マシメ、且ツ過多ノ飲料ヲ攝ラシメザルヲ可ト

スルノミ、同時ニ飲食物ノ少量ヲ幾回(二三時間毎)ニモ分食セシムルヲ可トス。近時キョルチル氏ハ食後直チニ氷片ヲ嚥下セシメ以テ奇効ヲ奏スト云ヘリ、コレ蓋シ其寒冷ナル刺戟ニヨリテ、噴門强度ノ收縮ヲ來スニ歸因スルナラン、元來再嚼症ノ如キハ、個人的習慣ノ然ラシムルコト往々之アルヲ以テ、患者ヲシテ力メテ矯正セシムルヲ要ス。

三　神經性嘔吐 Nervöses Erbrechen Nomitusnervosys.

神經性嘔吐ハ種々ノ狀態ニ於テ現ハル、例令腦及ビ脊髓疾患ノ症狀トシテ來リ、或ハ「ヒステリー」等レニ神經衰弱ノ分症トシテ現ハル、或ハ內外諸器官ノ疾病ニ因シ、反射的現象トシテ發現ス、尙ホ固有ノ神經症(迷走神經?)トシテ來ル、即チライデン氏ノ定期性嘔吐若シクハ青年嘔吐ノ如キコレナリ。

上述セル諸多ノ原因中一定器官ノ器質的變化ニヨリ、其一症狀トシテ現ハル、場合ニ於テハ、原病ノ治癒ハ最モ必要ニシテ食養療法ハ第二ニ位ス、然レドモ神經性ノ原因ヲ有スルモノニアリテハ、食養ハ常ニ周到ノ注意ヲ要スルモノトス。

一般ニ神經性嘔吐ニ對シ食養上注意ヲ要スベキ點ハ次ノ三項ニアリ。

一　患者ヲ床中ニ安臥セシメ全ク周圍ト隔離スルコト。

二　神經性嘔吐ノ甚シキ場合ニ於テハ、胃ノ一時的絕食ハ、嘔吐鎭靜ニ對シ適當ナル處置ナリ。

三　患者少シク鎭靜ニ歸シ食品ヲ攝取シ得ルニ至レバ初メヨリ少量宛幾回ニモ分食セシムルコト

以上ノ理由ニ基キ食養ヲ講ズベキモノナレドモ「ヒステリー」性嘔吐ニ於テハ容易ニ鎭壓スルヲ得ザルコトアリ、然レドモ輕症ノ場合ニ於テハ、少時日ノ絕食ニヨリ全ク治癒ニ趣カシムルヲ得ベシ、該絕食療法ヲ施行スル間ハ、患者ノ榮養ハ滋養灌腸ニ依ルヲ至當トシ、通常一日三回乃至四回之ヲ行フ。此ノ如クニシテ漸次回復ノ運ニ向ヒ、口腔ヨリ食品ヲ供給シ得ルニ至ル時ハ、常ニ細心注意シ、決シテ多量ヲ一時ニ與フベカラズ、而シテ攝取セシムベキ食品ノ種類ハ、醫ニヨリ若シクハ患者ノ嗜好ニヨリ、大ニ異ナルモノニシテ、或ル患者ハ液質ニヨリ、或患者ハ全ク固形品ニアラザレバ到底堪エザルガ如キコトアリ、通常其初メニ於テハ牛乳ヲ少量宛幾回ニモ分用スルヲ例

トスボアス氏ハ自家經驗ニヨリ液性食品ヨリモ固形食品ヲ賞用セリ、コレ他ナシ固形食ハ其容量小ナルノ故ヲ以テナリ、而シテ此ノ如キ場合ニ於テハ飲食物ハ常ニ冷却シテ攝取セシメ、且ツ第一日ハ患者自身ニ飲食セシメズ、傍ラヨリコレヲ養フベキモノトス。

口渴ニ對シテハ天然結氷若シクハ人工氷塊ヲ與フルカ、或ハ氷水中ニ冷却セル牛乳ヲ少量宛投與スベシ。

此ノ如クニシテ漸々上述ノ食品ヲ增加シ、三日毎ニ倍量トシ、十日乃至二週日ニシテ徐々ニ普通食ニ移行セシムベシ。

神經性嘔吐中頗ル困難ナルハ胃性發症及ビ定期性嘔吐ニ於ケル嘔吐ナリトス、通常此ノ場合ニ於テハ何物ヲモ受容スルコト難ク、悉ク皆吐出スルヲ例トス、然レドモ莫兒比涅ノ皮下注射ヲ施ス時ハ、時トシテ數時間其煩ヲ除クヲ得ルコトアリ、コノ機會ニ乘ゼバ直チニ氷水中ニ冷却セル牛乳ヲ少量ニ投與スルカ、若シクハコレト共ニ肉凝膠、少量ノ牛肉汁ヲ與ヘ、以テ體力增進ニ力ムベシ、而カモ尙ホ重症ニシテ且ツ持續スル場合ハ、猶豫ナク直腸榮養ヲ施スベシ、然ル時ハ一方ニ於テ榮養ノ補給ヲ來スノミナラズ、實ニ亦煩渴ヲ醫スルノ良法タレバナリ、

尙ホ必要ナルハ如何ナル時機ニ於テ、口腔ヨリ一定ノ榮養品ヲ供給シ得ルヤニアリ、通常吾人ハ患者ノ自覺ニヨリ嘔吐全ク止ミ、食欲發起ヲ來スニ至ルヲ標準トナス、此場合ニ於テハ初メ液性若シクハ粥狀食品ノ少量ヲ與ヘ、二三日ヲ經過シタル後固形品ニ移ラシム

青年嘔吐ニ於テハ須ラク其原因ヲ除去スルニ力ムベシ、殊ニ精神ノ過勞ヲ避ケシムルコト最モ必要ナリ、而カモ甚ダシク執拗ナル時ハ、兒童ノ通學ヲ禁ジ腦力ヲ費ヤサヽラシムベシ、且ツ食養ハ滋養價ニ富メルモノヽ少量ヲ二乃至三時間毎ニ投與スベシ、此ノ如クスルモ尙ホ頻繁ナル嘔吐ヲ來ス場合ハ、絕對的床中ニ安臥セシメ、周圍ト全ク相斷チ、看護婦ノ手ニヨリテ食養シムベキモノトス。

四　噴門痙攣 Cardiakrampf.

疾病ノ初メニ當リテハ液性若シクハ粥狀ノ食品ヲ用フルヲ可トス、然レドモ患者ニヨリ却ツテ固形品ノ通過宜シキヲ訴フルモノアルヲ以テ、コノ場

合ニアリテハ初メヨリ固形品ヲ攝取セシムルヲ可トス、要スルニ噴門痙攣ノ如キハ神經質ノ患者ニ來ルモノナルヲ以テ、心身ノ安靜ハ常ニ念頭ニ措カザルベカラズ。

五　蠕動不穩症 Peristaltische Unruhe.

コノ場合ニ於ケル食養ハ容易ニ消化シ易ク、且ツ滋養ニ富ミ可成速カニ胃ヲ去ルモノヲ用フルヲ可トス、ブーベレット氏ハ牛乳飲用ヲ盛ンニ賞用ス、要スルニ本症ニ於テハ液性食品若シクハ粥狀食品ヲ專用シ、固形品ハ可成避ケシムルヲ上策トス且ツ精神ノ靜養ハ最モ必要ナリ。

六　幽門閉鎖不全症 Pylorusinsufficienz.

食品ハ常ニヨク咀嚼スルヲ要シ、且ツ極メテ細剉セルモノヲ與フルカ、若シクハ粥狀ノモノヲ撰ブヲ可トス、コレ本症ニ於テハ食品ハ比較的速カニ胃ヲ辭スルヲ以テ、腸ニ達スルニ際シ微細ノ食糜トナルノ暇ナキヲ以テナリ、且ツ出來得ル限リ滋養價ニ富メルモノヲ供給シ、食後胃ノ安靜ヲ計リ身體

ノ屈曲其他腹部ノ運動ハコレヲ避ケ、以テ腸內容ノ胃內ニ逆流スルヲ防止スルヲ可トス、モシ又場合ニヨリ固形品ヲ用フトセバ、口內ニ於テ力メテ微細ニ咀嚼スルヲ可トス。

乙　分泌神經性胃疾患

Sekretorische Magenneurose.

一　胃酸過多症

Hyperaciditat, Superaziditat, Hyperchlorhydrie.

本病ハ實ニ胃酸分泌ノ過多ナルニ歸因シテ來ルモノナルヲ以テ、コレニ投ズル食品ハ力メテ分泌機能ヲ亢進セシムルガ如キモノヲ避クベキモノトス、故ニ、諸種ノ香料例令胡椒、山椒、唐からしノ如キモノハ全然之ヲ廢シ、芳香油例令枸櫞油ノ如キ、或ハマタ諸多ノ酸類例令醋酸、枸櫞酸ノ如キハコレヲ與フルヲ禁ズ、唯乳酸、牛酪酸、酸乳、牛酪乳ノ如キハ可ナリ(ボアス氏)又肉類ノ越幾斯分、若クハ「ソース」、珈琲ノ如キハコレヲ避クベキモノトス、酒精飲料モ亦胃ノ分泌機能ヲ增進セシムルヲ以テ與フベカラズ、喫烟ノ如キモ亦コレ

ヲ增進スルモノナルヲ以テ極メテ制限スルヲ可トス。

以上述ベタル諸食品ハ重ニ化學的刺戟ニ因スルモノナレドモ、物理的刺戟モ亦ヨク酸分泌ヲ亢進セシムル者ナルヲ以テ、可成的刺戟ヲシテ少ナカラシムルニ力メザル可カラズ、故ニ容易ニ細割シ難キ食品、若クハ溶解困難ニシテ消化シ難キモノハ一般ニコレヲ避クベキモノトス、殊ニ果實ノ皮殼、麵麭ノ上皮、木纖維ニ富メル野菜若クハ强靭ナル肉類等ハコレヲ愼ムヲ要ス、

(バウロー氏ハ機械的刺戟ハ胃分泌ニ影響ナシト云フモ實地上苦惱ヲ感ズルコト多キモノトス)故ニ重症ナル場合ニ於テハ時ニ或ハ液性食品ヲ與ヒ、若クハ粥狀食品ヲ投ゼザルベカラズ、其他尙ホ溫冷ノ刺戟モ亦多少其分泌ニ影響スルヲ以テ、食品ハ常ニ過熱酷冷ヲ避ケ中庸ノ溫度(血溫度)ニ於テ與フルヲ可トス、且ツコノ場合ニ於テハ含水炭素食品(澱粉含有品)ハ消化ノ遲鈍ナルヲ常トスルヲ以テ、口腔內ノ咀嚼ヲシテ充分ナラシメ、唾液トヨク混和セシメ、以テ消化ノ進捗ヲ計ルニ力ムベキモノトス。

本來ノ食養療法ハ如何ナル性質ノ食品ヲ要スルカト云フニ古來多クノ學者ニヨリ大ニ其說ヲ異ニシ、或ハ肉食ヲ主張シ、或ハ含水炭素食品ヲ賞用ス、

ヤクシ、ゾーレルン、ジユールゲンゼン、ハイエム、バルデツト及ビフライチル氏等ハ蛋白質就中肉類ハ胃液ノ分泌ヲ增進セシムルモノナルヲ以テ須ラクコレヲ食箋中ヨリ去ラザルベカラズトシ、含水炭素食品ハ却テ酸度ヲ減少スト云ヘリ、然レドモ亦他ノ學者例令ゲルマンゼー、エーワルド、ボアス、ソーポールト、ローゼンハイム、及ビリーグル氏等ハ肉類ハ胃液分泌ヲ增進スルコトアリト雖モ、而カモ亦酸類ヲ中和スルノ性質ヲ有シ、過剩ノ酸度ヲ低下セシムルノ作用ヲ有スルヲ以テコノ際動物性食品ヲ攝取スルヲ可トセリ、要スルニ吾人ハ肉ヲ以テ對症的適應 Indicatio symptomatica ハ良食品タルヲ實驗スルモノニシテ疾病ノ根治的適應 Indicatio morbi トシテハ敢テ絕對ニ肉食ヲ主張スル者ニアラズ、故ニ吾人ハ此等二說ノ中庸ヲ取リテ食養法ヲ講ズルモノトス、然レドモ尙ホ患者ノ訴フル種々ノ苦惱ヲ去リ、爽快ヲ覺エシムルガタメ、吾人ハ特ニ肉食ヲ賞用シ、植物性食品ハ極メテコレヲ制限スルノ主義ヲ採ルモノトス、故ニ左ノ主旨ヲ以テ患者ノ食養ヲ充分ナラシム。

一　刺戟性食品(化學的、物理的、溫的刺戟)ハコレヲ避ケザルベカラズ。

二　珈琲、酒精飲料及ビ喫烟ノ如キハ出來得ル限リコレヲ避ケシムルヲ

要ス。

三　肉類ノ供給ヲシテ多量ナラシメ、含水炭素食品ヲ極メテ制限スルコト。

四　脂肪ノ供給ハ一定度ニ達スル迄好ンデ攝取スルコト。

以上ノ四原則ニヨリ特發性酸過多症ヲ治療スルモノナリ、元ヨリ其他ノ疾患ニ因シテ來ル場合ハ、原病ニ顧慮セザレバ到底上述ノ理由ニ依リテノミ論ズル能ハザルモノトス。

肉類攝取ニ當リテモ神經性症狀甚シキ場合ニ於テハ多量ノ肉食ハ決シテ賞スベキニアラズ、コレ肉類中ノ越幾斯分間接ニ神經系ヲ刺戟スルヲ以テナリ、故ニ「ソープ」ノ如キ若クハ越幾斯分ノ多量ヲ含有スル褐赤色ノ肉類ハ決シテ賞用スベカラズ、却ツテ「ソープ」ヲ去リシ肉類若クハ白色ノ肉類例令鳥類、犢、牛類、魚類及ビ犢、牛、腦ノ如キ物ヲ以テ最モヨキ食品ナリトス、殊ニコレ等ノ肉類ハ生肉若シクハ焙燒セルモノヨリハ煮タルモノヲ食スレバ酸ヲ減少スルモノナリ、重症患者ニ於テハ初メヨリ固形品トシテ攝取セシムルヲ避ケ牛乳若シクハ鷄卵ヲ與ヘ、次テ膠質類ヲ與フ、如此ニシテ少シク輕

快ヲ見ルニ及ンデ魚類若シクハ鳥類ノ肉ヲ調理スベシ、然レドモ牛乳類ノ多量ヲ投與スル時ハ往々同時ニ現存スル「アトニー」ニ對シ不利ヲ來スコトアルヲ以テコノ點モ亦顧慮セザルベカラズ、植物性食品モ亦適當ニ之ガ攝取ニ力メザルベカラズ、然レドモ含水炭素食品ハ胃內ノ酸過剩ノタメ、其消化ヲ妨ゲラルヽコト甚シク、唯僅カニ消化作用ハ初期ニ於テハミ消化セラルヽヲ以テ、初メヨリアル階級迄、コレヲ糖化シテ與フルヲ必要トス、故ニヨク吾人ハ「デアスターゼ」ト伍シテコレヲ投與スルモノナリ、砂糖溶液殊ニ葡萄糖ハストラウス氏ニヨルニ頗ル酸度ヲ稀薄ナラシムト云フ、其他同時ニ現ハレタル便秘ニ對シテ乳糖(牛乳若クハ柯々阿液中ニ入レ一日三回一食匙宛)ヲ用フルモ可ナリ、蜂蜜ハ多量ヲ用フル時ハ其內ニ存スル蟻酸ノ多量ヲ出スヲ以テ唯少量ヲ許スノミ、麵麭ハコレヲ「トーストパン」トシテ與フルヲ良トス、マタ「ビスケット」ノ如キモ賞用シテ可ナリ、殊ニコノ際多量ノ「バタ」ヲ以テヲスルハ尙ホ一層妙ナリ、野菜類ハ常ニコレヲ糊泥狀トシ、馬鈴薯ノ如キモノヲ賞用シ、且ツ又脫皮セル豆類ノ如キヲ用ヒ、綠色ノ葉菜類等ハコレヲ避クルヲ可トス、其他穀粉類ヲ調理シテ糊泥狀トシ、葛湯、小麥煎汁等ヲ用

フルモ亦可ナリ、邦人ニアリテハ米飯ハ可成煮返シトシテ與フルヲ可トシ、中等度若シクハ重症ノモノニアリテハ粥トシテ與フベシ。

脂肪ハ本症患者ニアリテ賞用スベク、殊ニ溶解點ノ低キモノヲ以テスルヲ最モヨシトス、コレ酸分泌ヲ減却セシムルニ最モ適當ナルガ故ナリ、加之虚弱ナル患者ニ對シテハ同時ニ榮養保全ノ道ヲ補助スル所以ナレバナリ、就中乳脂及ビ牛酪ノ如キハ最モ適當ナル脂肪食品ニシテ頗ル多量ヲ與フルモ敢テ妨ゲナキモノトス、ウェゲレー氏ノ實驗ニ徵スルニ氏ハ一回ニ乳脂五十瓦乃至六十瓦ヲ與ヘ、以テ酸過剩ヲ減弱シ、同時ニ羸瘦セル患者ヲシテ肥胖セシムルニ至ルト云ヘリ、氏ハ一日量五百瓦迄ヲ限リトナシ、牛酪ノ如キハ四分ノ一「ポンド」ヲ用フルヲ常トセリ、其他必要ナル食品トシテハ牛乳ナリ、然レドモ牛乳ハ個人ノ性質ニヨリテ飲用後下痢ヲ來ス等ノ不快アルヲ以テヨク注意スベシ、此ノ如キ場合ニ於テハ之ヲ石灰水ト混ジテ用フルモノトス、石灰水ハ通常牛乳量ノ三分ノ一、乃至四分ノ一ヲ注加シテ用フルニアリ、然ル時ハ容易ニコレガ飲用ニ堪エルモノトス、牛乳ハ發作時ニ當リテ胃内容ノ空虚ナル場合ニ其一盞ヲ傾ケシムル時ハ容易ニ疼痛ヲ消退セシムルモノナリ、ペンツォルト氏ハ常ニ胃ノ空虚ナラシムルヲ避ケ頻回ニ牛乳ヲ與フルヲ例トセリ、就中夜中ニ於テモコレヲ投ズルヲ好メリ、其他牛乳ハコレヲ穀粉ト混ジテ粥狀トシテ用ヒ、以テ酸度ヲ低下セシムルノ用ニ供ス。

要スルニ吾人ハ食養療法ニ依リ過剩ナル酸度ヲ減少スルヲ以テ目的トシ、コレニヨリテ幾多ノ煩ハシキ病狀ヲ去ラシメント力ムルモノナリ、而シテ食品ノ酸ヲ中和スル程度ハ種類ニヨリテ大ニ異ナルモノナリ、故ニ今余ハ該中和力ノ如何ヲ左ニ示サントス、即チフライシェル氏ノ實驗(フロヽグルチン、「ワニリン」反應ニヨリテ試驗セルモノ)ヲ表トシテ示セバ次ノ如シ。

食品百瓦ヲ以テ中和シ得ベキ鹽酸量

食品名百瓦	調理法	純鹽酸	二五%鹽酸	一二・五%鹽酸
犢牛腦	煮	〇・六五	二・六	五・二
肝臟製腸詰	—	〇・八〇	三・二	六・四
豚肉	煮	一・六〇	六・四	一二・八
火腿	同	一・八〇	七・二	一四・四

同上	生	一・九〇	七・六	一五・二	
羊肉	煮	一・九〇	七・六	一五・二	
牛肉	煮	二・〇〇	八・〇	一六・〇	
犢牛肉	煮	二・二〇	八・八	一七・六	
ロイヒ、ローゼンタル氏肉溶液	—	〇・一〇	八・八	一七・六	
ビール	—	〇・三六	〇・四〇	〇・八〇	
牛乳	—	〇・三〇	一・四四	二・八八	
白麵包	—	〇・五〇	一・二〇	二・四〇	
黑麵包	—	一・三〇	二・〇	四・〇〇	
プリー產乾酪	—	二・六〇	五・二〇	一〇・四〇	
瑞西產乾酪	—	四・一〇	一〇・四〇	二〇・八〇	
柯々阿	—	五・〇〇	一六・四〇	三二・八〇	
純蛋白	—		二〇・〇〇	四〇・〇〇	

以上ノ表ニ明示スルガ如ク、蛋白質若クハ脂肪ハ最モヨク鹽酸量ヲ減却スルモノナルヲ以テ酸過多症ノ患者ニ對シテヨクコレヲ用フルモノナリ、元ヨリ肉食ハ絶對ニ良好ノ食品ト云フニアラズ、唯吾人ハ對症的食品トシテハ理想的ノモノナリト云フノミ、而シテ今日一部學者ノ說トシテ肉食ハ確カニ酸ヲ中和スル性質大ナリト雖モ、而カモ亦胃粘膜ヲ刺戟シ酸分泌ヲ來スコト大ナルヲ以テ、酸過多症ノ患者ニ對シテハ常ニ混食ヲ用フルヲ可トシ、更ニ尙ホ植物性食品ヲ賞用スベシト云フ者多キニ至レリ、然レドモ余ハ常ニ蛋白食餌ニ據リ初メテ効果ハ大ナルヲ思フ。

攝食ノ度數ハ一定ノ規則ナシト雖モ、患者モシ煩渴甚シキト同時ニ疼痛ヲ覺ユル如キ場合ハ三食以外ニ間食トシテ少量ノ牛乳、鷄卵等ヲ與フベシ。

二　神經性胃酸缺乏症

Neurōse Anacidität, Achylia gastricae (Einhorn), Apepsie (H. Strauss.)

胃內ノ化學的變化ニ注意シ、次ニ腸消化ニ適當ナル食品ヲ撰擇セザルベカラズ、何トナレバ腸消化ハ充分ナル場合ハ、胃消化ハ不完全ヲ代償シ、以テ全身榮養ノ漸衰ヲ防禦シ得ベケレバナリ。コノ目的ニ添ハンガタメ攝取スベキ食品ハコレヲ細剉シ、且ツヨク咀嚼シテ攝ラシムルヲ可トス、コレ胃內ノ蛋白消化ハ極メテ不良ニ趣クヲ以テ、腸內ニ於ケル蛋白消化ヲ完フセシメ

ンガタメニハ、勢ヒ微細ノ小片トセザルベカラザレバナリ、反之含水炭素含有食品、即チ植物性食品ハ比較的ヨク消化セラルヽモノナリ、コレ胃内ニ於テ酸類ノ缺乏スルニ歸因スルモノナリ。コノ際植物性食品ハ常ニ粥狀トシテ與フルヲ可トス。

胃酸缺乏ヲ來セシ時如何ナル食品ヲ以テセバ最ヨク消化セラレ且ツ充分ノ榮養ヲ補給シ得ルカト云フニ肉類ニアリテハ魚肉、鳥肉及ビ脂肪少ナキ牛肉類ヲ細剉シテ與フルカ、若シクハ脂肪少ナキ魚類及ビ生牡蠣ノ如キハ賞用スベキモノトス、其他肉粉等モヨク用ヒラル植物性食品中五穀類ノ粉末ハヨク消化セラレ、且ツ適切ナル調理ヲ施シ易キモノトス、例令麥粉、葛粉ノ如キハコレヲ練リテ粥狀トシ患者ニ投與シ、或ハ荳類ヲ脫皮シヨクコレヲ研磨シ粥狀トシテ與フルハ頗ル妙ナリ、邦人ニアリテハマタ粥及ビ重湯ニ加味シテ投與スルハ甚ダ策ヲ得タルモノトス、其他馬鈴薯ヲ煮、後コレヲ磨リタルモノ等モヨク賞翫スルニ足ルモノナリ、又鷄卵ノ如キモノモコレヲ半熟トシテ投與スルハ甚ダ良シトス、飲料トシテハ珈琲茶等ヲ用ヒ、酒類ハ唯時ニ其少量ヲ許スノミ、殊ニ葡萄酒等ヲ珍重ス、牛乳モ比較的ヨク消化セラルヽヲ以テ缺クベカラザル滋養品ナリトス、若シマタ食思ノ缺損アレバコレニ對シ肉「ソップ」「ソマトーゼ」等ヲ與フベシ

三　定期性胃液漏 Periodischer Magensaftfluss.

食養療法トシテ患者ニ與フル蛋白、若クハ脂肪類ハコレヲ少量宛幾回ニモ投與スベシ、發作ノ初メニ當リ症狀ノ甚シキ場合ニ於テハ、先ツ牛乳若クハ蛋白水ヲ一二時間每一二食匙宛投與スベシ、少シク緩解スルニ及ンデ、犢牛肉及ビ鳥肉類ヲ與フベク、漸々病勢減退スルニ及ンデ恰モ酸過多症ノ如キ食養法ニ移ルヲ可トス。

四　慢性持續性胃液漏

Chronisch-continuirlcher Magensaftfluss. Gastrosuccorrhoea continua chronica.

榮養價ノ多量ヲ含ムモノヲ與フルニアリ、且ツ胃ノ重荷トナルベキモノヲ避ケ、殊ニ多量ノ液體ヲ飲用セシメザルヲ必要トス、其他刺戟多キ香料、若ク

ハ酸味、苦味ノ強キモノハ全クコレヲ避ケ、酒精飲料モ亦全然コレヲ排斥セシメ、且ツ溫的刺戟トナル極熱、酷冷ノモノハ之ヲ與フルヲ禁ズ蛋白食品ハ割合ニ消化シ易キヲ以テ、細剉セル犢牛肉、鳥肉類ハコレヲ消化シ易キ形トシテ與フベシ、反之澱粉食餌即チ植物性食品ハ消化シ惡キヲ以テ、可成コレヲ制限シ且ツ一部糖化シタルモノヲ與フルヲ可トス、例令麵麭ヲ燒キテ與フルカ、若クハ初メヨリ「ヂアスターゼ」ノ如キモノヲ伍シテ投與スベシ、其他「ビスケット」ノ如キ若クハ半熟卵ノ如キモノヲ與フベシ。

丙　知覺神經性胃疾患 Sensible Magenneurose.

一　食思缺乏症 Anorexie.

食養療法ハ本症ニ於テハ重視スベキ治法ノ一ニシテ、殊ニ食養ニ際シ他ノ治法ヲ結合シツヽ實行スルヲ最良ノ策トス、故ニ本症患者ニ接スレバ力メテ精神ヲシテ靜養セシメ、食事ノ忽ニスベカラザルヲ諭告シ、且ツ攝食ノ勇ヲ鼓セシムルノ方針ヲ採ルベキモノトス、輕症ノ場合ニ於テハ食養上何等ノ注意スベキ點少ナク、唯出來得ル限リ食膳ニ上リシ食品ヲ多量ニ强ユルヲ可トス、且ツ食品ノ數ハ出來得ル限リ多數ノ品目ヲ以テシ、適宜患者ニ撰擇セシムベシ、加之コノ際香料其他ノ嗜好品ハ一定ノ度マデハコレヲ投與スルヲ可トス、而カモ亦輕症者ニアリテハ食養ヲ顧ミズシテ單ニ藥品療法ヲ以テノミ其回復ヲ見ルコトアリ、重症ノ場合ニ當リテハ到底自宅治療ハ其目的ヲ達スル能ハズ、然ル時ハ、シャルコー氏ノ所謂隔離法 Isolement ニ依リ全ク家族ト相隔離シテ病院ニ收容シ、然ル後充分ナル食養ヲ實行スルモノトス、然ル時ハ醫及ビ看護婦ノ力ニヨリ精神的、器械的、殊ニ食養療法ニ對シテ一定ノ注意ヲ以テ治法ヲ講ジ得ルヲ以テナリ、而シテ患者モシ食品ヲ拒絶スル場合ニ於テハ、己ムヲ得ズ消息、子榮養法 Sondenfütterung ニヨリテ强制、食餌ヲ執行スルニアリ、若クハ肛門食餌トシテ滋養灌腸ヲ行フコトアリ、然ル後漸々回復ノ運ニ向ヘバ少量宛液性滋養品ヨリ、粥狀ニ移リ續テ固形食餌ニ移行スルモノトス、更ニ進ンデハ肥胖療法ヲ施行スベシ、故ニ是等ノ患者ハ常ニ病院内ニ於テ施治スルヲ以テ最モ至當トス。

二　貪食不飽症 Acorie.

ボアス氏ハコノ患者ニ對シテ肥胖療法Mastkurヲ施シ好果ヲ收メタリト云フ、其他悠然タル咀嚼、規律アル攝食等ハ最モ必要ニシテ、ペンツォルト氏ハ醫師及ビ看護婦監督ノ下ニ病院療法ヲ實行スルヲ可トセリ、

三　善饑症 Bulimie

食養ハ可成コレヲ少量宛多數ノ度ニ於テ與フルヲ可トス、發作時ニ當リテハ「チョコレート」牛乳若シクハ少量ノ赤酒等ヲ與フルヲ可トス。

四　胃ノ知覺過敏症 Hyperaesthesie des Magens

本病ニ罹リタル際ニ當リ、殊ニ萎黃病等ノ存スル場合ハ、ローゼンタール氏ハ牛乳飲用ヲナサシメ、コレニ石灰水若クハ茶等ノ少量ヲ混和シタルモノヲ與ヒ、後卵黃ヲ投與スルヲ可トセリ、其他消化シ易キ肉類等ヲ與フベシ。

丁　神經性消化不良 Nervöse Dyspepsie

別名、胃性神經衰弱 Gastrische Neurasthenie.

食養療法ハ個人的性質ニ關シ、若クハ變遷常ナキ症狀ニ對シテ頗ル困難ヲ

覺ユルモノニシテ、醫ハ先ツ患者ニ對シテ一定ノ食饌ヲ供シ、コレヲ攝取シタル後ニ於テ現ハレ來ル患者ノ自覺ニ注意シ、然ル後コレヲ參酌シテ患者ニ適應セル食品ヲ供給スルニ力ムベキモノトス、要スルニ本症ニ於ケル食養ハ多量ノ榮養ヲ患者ニ供給スルヲ以テ主眼トス、然レドモ本症ニアリテハ醫自身ニ於テ往々食品撰擇ニ苦痛ヲ感ズルヲ以テ、一部ハコレヲ患者ノ撰擇ニ委スルヲ可トス、就中牛乳ノ如キハ頗ル賞用スベキ食品ニシテ、香料モ亦コレヲ適當ニ攝ラシムルヲ可トス、飲料トシテハ少量ノ赤酒、麥酒、珈琲等ハ食後ニコレヲ與フルモ妨ナシ、然レドモ決シテ其量ヲ過ゴスベカラズ、煙草ハ通常コレヲ嚴禁スルヲ至當トス、而シテ疾病進捗シタル場合、若クハ羸瘦セル患者ニ於テハ、初メハ牛乳ノ如キ柔和ナル食餌ヲ撰定シ、次テワイル、ミッチエル氏安靜肥胖療法ニヨリ、以テ全般ノ榮養ヲ充分ナラシムルニアリ、

第三章　腸疾患ノ食養療法

Diätbehandlung der Darmkrankheiten.

腸疾患ノ食養總論

Allgemeine Diätbehandlung der Darmkrankheiten.

腸疾患ニ對スル食養療法ハ胃障害ニ於ケル食養療法ト相類似スル點アリト雖、而カモ亦往々其趣ヲ異ニスルモノアリトス、コレ其生理的作用ニ於テ全ク相異ナルノ點アルヲ以テナリ例令胃ニ於ケル吸收作用ハ腸ニ於ケル吸收作用ニ比スレバ其意義極メテ僅少ナルガ如シ、故ニ胃ニアリテハ吸收機障害ニ對スル食養ノ如キハ敢テ重キヲナスモノニアラザルモ腸ニ於テハ却テ其意義大ナルモノトス、其他腸管障害ニ對スル食養療法ハ胃ニ於ケル食養療法ニ比シ全ク相異ナル途ニ出デザルベカラザルコト多ク。唯二三ノ疾患ニ對シテハ全然同一軌ニ出テ差支ナキコトアリ例令小腸ノ潰瘍若シクハ急性小腸炎ニ於テハ、恰モ胃潰瘍若シクハ急性胃炎ニ應用スベキ食養療法ヲ轉用シテ敢テ差支ナキガ如シ、然レドモ其他ノ疾患ニ於テハ必ズシモ胃障害ニ於ケルガ如クニシテ可ナルモノニアラズ。

吾人ハ已ニ食品ノ滋養價ヲ決定スルニ當リルブネル氏ノ吸收試驗ノ結果ヲ知ルヲ得タリ、然レドモコノ吸收力ハマタ各食品ノ調理法ヲ異ニスルニヨリテ大ニ差アルモノトス、故ニ腸管ノ吸收力ヲ盛ナラシメンガタメニハ常ニ食品ノ調理ニ關シテ注意セザルベカラズ。

ルブネル、ベック及ビブラウスニッツ氏等ノ研究ニヨルニ煮沸シテ膨脹セシメシ豌豆ノ蛋白ハ七二%吸收セラレ、同樣ノ調理ヲ經タル馬鈴薯ハ六八%吸收セラルヽモノナレドモ、コレヲヨク壓搾シ且ツ攪拌シテ粥泥狀トナス時ハ、前者ニ於テハ八二%、後者ニ於テハ八〇%吸收セラルヽト云フ、且ツマタコレニ香料ヲ加味スル時ハ其吸收一層大ナルガ如シ、然レドモ是等ノ事實ハ皆コレヲ健康者ニ施セル結果ニシテ病的腸管ニ對シテハ果シテ如何ナル結果ヲ生ズベキカハ殆ント不明ニ屬スト云フモ敢テ不可ナシトス、故ニ腸管ノ吸收力障害ハ頗ル重キヲナスニ拘ハラズ、今日充分ナル研鑽ヲ經タルモノナシ、從ツテ其詳細ノ食養モ亦一定ノ準繩ニ據ル能ハザルモノトス

ミュルレル氏ノ研究ニヨルニ一般ニ腸疾患ニアリテハ脂肪ノ消化先ツ速カニ阻害セラレ、次テ疾病ノ進捗ニ伴ヒ蛋白ノ不消化ヲ來シ、含水炭素ハ比

較的ヨク其消化ニ堪フルガ如シト云ヘリ、今コレヲ健康者ノ腸消化ニ就テ見ルモ消化難易ノ程度ハ恰モコレト一致スルモノトス。

食物ノ種類ニヨリ吸收ニ難易アルガ如ク、腸内ニ至リテ腐敗醗酵ヲ來スニモマタ難易ヲ生ズ、故ニ吾人ハ各食品ヲ選擇スルニ際シテハ、宜シク是等ノ點ヲ顧慮セザルベカラズ、然レドモ今日詳細ノ消息ヲ知ルニ苦シムコト多シトス。

其他個人ノ素質ニヨリ一定ノ食品ニ對シテ、下痢若シクハ便秘ヲ來スヲ例トスルモノアルヲ以テコレマタ醫ノ常ニ考ヘザルベカラザル事ニ屬ス。

腸管ノ障害ニ對スル食養要旨

要スルニ吾人ガ腸障害ニ應ズベキ食養ハ種々アリト雖モ其原則トスル所ハ次ノ如シ。

一　腸疾患ノ療法ハ胃ニ於ケルト同ジク他日治癒ノ曉ニ達シテ普通ノ食餌ヲ攝取スルモ自覺的若シクハ他覺的ニ何等ノ異狀ヲ來サヽルニ至ルヲ期スルニアリ、

二　腸疾患ニ於テハ尚ホ胃疾患ト同ジク敢テ普通ノ食品ヲ變換スルハ要ナク唯調理及ビ分量ニ注意セバ可ナリ、然レドモ尚時トシテ食品供給ハ却テ有害ナル場合アルヲ期スベシ

三　食養上腸管ヲシテ過勞ヲ避ケシムルハ最モ必要ナルヲ以テ必要以外ノ食餌ヲ與ヘザルコト。

四　胃消化ニ對シテ常ニ顧慮スルヲ要ス、加之口腔消化及ビ一般消化ニ對シ注意周到ナルヲ要ス

吾人ハ今腸管ノ食養療法總論ニ於テ大略左ノ五項ニ分チ一々コレヲ論ゼントス

甲　腸管ノ官能障害ニ對スル食餌。

一　蠕動機亢進ニ對スル食養。

二　蠕動機減少ニ對スル食養。

附、腸管「アトニー」及痙攣ニ對スル食養

三　腸管ノ分泌機能障害ニ對スル食養。

附、肝及ビ膵ノ分泌障害ニ對スル食養。

乙　腸粘膜障害ニ對スル食養。

丙　腸管ノ狹窄若シクハ閉塞ニ對スル食養。

T 腸神經症ニ對スル食養

戊 腸管ニ於ケル腐敗若シクハ醱酵ニ對スル食養

甲 官能障害ニ於ケル食養

腸管ノ官能障害中吾人ノ最モ數々遭遇スルモノハ實ニ運動機ノ障害ニシテ其亢進セル場合及ビ減退セル場合コレナリ即チ前者ニ於テハ下痢ヲ來シ後者ニ於テハ便秘ヲ釀スルニ至ル、故ニ吾人ハ食品ノ選擇ニヨリ運動機ヲシテ或ハコレヲ鎮靜ニ歸セシメ若シクハコレヲシテ增進セシムルニ力メザルベカラズ。

一、蠕動機亢進ニ對スル食養

元來運動ノ過速ハ蠕動不穩若シクハ下痢症狀ヲ來スヲ以テ吾人ノ目標トス、而シテ其原因タルヤ、或ハ一般不攝生ニ歸因シ、若シクハ攝取セル食品或ハ藥餌ニ依リ、若シクハ全ク純粹ノ神經性刺戟ニヨリ、又ハ急性慢性ノ炎症性疾患ノ續發症狀トシテ來ル等、原發性ノモノト續發性ノモノトアリ。要之原發性ト續發性トヲ問ハズ、コレガ鎮靜ヲ計ラント欲セバ腸管ノ蠕動機亢進ヲ支配スル神經ニ對シテ刺戟ヲ與フルヲ避クルヲ要ス、而シテコノ刺戟トナルベキモノハ食品其モノヽ物理的若シクハ化學的性質ニ關シ、或ハマタ其溫的刺戟ニ關係ヲ有スルモノナルヲ以テ、コレ等ノ點ニヨク留意シ、且ツ個人性ノコレニ加ハルアルヲ以テヨク注意スベシ、例令一杯ノ乳、一盞ノ麥酒ニシテ尙ホ且ツ蠕動ノ著シキ亢進ヲ來シ、若シクハ下痢ヲ來スニ至ルコト往々之レアリ、殊ニ吾人ハコノ亢進期ニ對シテハ患者ニ告グルニ許可スベキ食品ヲ誨ヘンヨリハ、寧ロ禁ズベキ食品ヲ指摘シコレヲ患者ニ示スヲ可トス。

此ノ如キ場合ニ際シテハ先ツ多量ノ液汁攝取ヲ慎ムヲ可トス、コレ腸管ノ分泌液ヲ稀薄ナラシメ其滲出物若シクハ分泌液ヲシテ益其量ヲ多量ニシテ容易ニ下痢ヲ起スヲ以テナリ、故ニ出來得ル限リコレ等ノモノヲシテ濃厚ナラシメ、以テ其量ヲ減少セシムルニ力ムベシ、其他香料ノ如キ殊ニ胡椒唐がらし及ビ酸味ノ强キ物ノ如キハ概ネ皆蠕動機亢進ヲ來スヲ以テ注意スルヲ要ス、其他珈琲、酒精、飲料若シクハマタ煙草ノ如キハ其量ヲ少許ニセバ可ナランモ、然ラザレバ蠕動機ニ對シテ尙ホ影響ヲ有スルモノナルヲ以テ注意スベシ、其他化學的刺戟トシテ一定ノ瓦斯ヲ生スルモノ例令炭酸及ビ多

綠色ヲ呈セル葉菜類ハ木纖維ニ富ムヲ以テ注意スベシ

クノ有機酸即チ林檎酸、枸櫞酸、乳酸、脂酸等ノ合水炭素ヨリ來レル酸、類、ハヨク腸管ヲ刺戟シ易シ、脂肪ノ如キハ容易ニ下痢ヲ來スニ至ルモノナリトス、故ニコレ等ノモノニ對シテハ充分ニ注意スルヲ要ス、且ツ一般ニ木纖維ノ多クヲ含ムモノハ器械的ニ腸管ヲ刺戟スルヲ以テ唯僅カニ一小部分ヲ限リテ與フルヲ可トス、故ニ菜若シクハ蕪ノ如キ或ハマタ根菜類ノ如キモノハ全然コレヲ避ケシムベシ、然レドモ疾患ノ度ニ應ジ豆類ノ如キハヨク之レヲ脫皮シ粥狀トシテ少量ヲ與フルカ若シクハ馬鈴薯ノ如キモノヲ單ニ副食物トシ粥泥狀トシテ與フルヲ適當トス、肉類ハ一般ニ其調理ニ注意セバ敢テ不可ナシトス、勿論新鮮ニシテ且ツ柔軟ナルモノヲ選ビヨク細剉シテ用フルモノトス唯コノ際之レニ用フル「ソース」ハ極メテ柔和ナルヲ要ス。

麵麭ノ如キモヨク焙燒シタルモノハコレヲ用ヒテ可ナリ、例令白麵麭「ビスケット」其他一旦竈中ニ於テ焙燒シタルモノハ一般ニ其少量ヲ與フルニ於テ敢テ不可ナシトス、其他穀粉ヲ以テ製セル食品等ニ砂糖ヲ加味スル場合ハ極メテコレヲ少量ニ加フルニ力ムベシ、コレ砂糖ノ種類ハ腸管ニ於テ分解シテ脂肪酸、乳酸、醋酸ヲ形成シ、同時ニマタ滲出物ノ多クヲ出サシメ腸管ノ水分ヲ多量ナラシムルヲ以テナリ、果實ノ如キハ有機酸ヲ有スルト木纖維ニ富ムノ故ヲ以テ生果ヲ與フルモ亦煮沸セルモノヲ與フルモ一般ニ不可ナリトス。

牛乳ハ絕對ニ禁止スベキニアラズ二三ノ場合ハ賞用セラル赤痢ノ如キコレナリ

飲料中「ビール」ノ如キハ元來酸酵菌ノ多クヲ含ミ、タメニ後發酸酵 Nachgährung ヲ來シ、且ツ冷カナルモノヲ飲用スルヲ例トスルガ故ニ、甚タシク腸管ヲ害スルヲ例トス、然レトモ溫暖ナル粘液樣「ソッブ」及ビ柯々阿等ハ適當ナル飲料トシテ用ヒテ可ナリ、牛乳ハ通常乳糖ノ含有スルアルヲ以テ蠕動機ヲ亢進スルヲ常トス、然レトモ尙ホ個人ノ特異質ニヨリテ大ニ異ナリ、飲用後却ツテ便秘ヲ來スノ傾アル者ニ對シテハヨク用ヒラル、唯吾人ハ其大多數ニ於テ下痢ヲ誘因スルコト多キヲ知ルガ故ニ先ツコレヲ禁ズルヲ例トス

食品ノ溫度

以上述ベタル如ク食品ノ撰擇ハ大ニ疾病ニ影響スルモノニシテ、且ツ其調理法ニ於テモ亦常ニ熟考スルヲ要ス、殊ニ過熱酷冷ノ調理品ヲ與フルハ斷ジテ不可ナリ、且ツ下痢患者ト雖モ尙充分ナル分量ヲ與フルコト勿論ナリ、

コレ腸粘膜ヨリ出ツル分泌物若シクハ滲出物ハ常態ニ於ケルヨリハ常ニ多量ナルヲ以テ體力ノ減衰ヲ來スコトモ亦甚ダ大ナルヲ以テナリ。

モシ亦コノ蠕動機亢進ニ加フルニ炎症症狀ヲ以テスル場合ニアリテハ必ズシモ食養ヲ以テノミ治療スル「難キモノトス、古來ヨリカヽル場合ニ於テハ食餌ニ伍スルニ收斂劑ヲ以テスル「通常ナリ例令米若シクハ他ノ穀粉ヲ煮テ粥泥狀トナシ、コレニ藥品ノ追加ヲ以テスルガ如キコレナリ、其他尙ホ人工調製品モ亦大ニ賞用セラルヽ者ナリ、殊ニ多少ノ衰弱ヲ來シ食思不振等ノ症狀ヲ有スル患者ニ於テ「ペプトーン」ノ調製品ヲ與フル時ハ其內ニ存スル鹽分ノ作用ニヨリ蠕動機ヲ鎭靜セシムルコトアリ兎ニ角カヽル際ニ於テ劑合ニ効ヲ奏スルモノハ蛋白調製品ナリトス牛乳ヲ與フルハ大腸ニ存在スル炎性潰瘍性ノ疾患ニ於テ例令赤痢ニ於ケルガ如キハ比較的多量ノ乳汁ヲ攝取スルモヨク其効ヲ告ゲ下痢ノ傾向ヲシテ挽回セシムルモノナリ、然レモ小腸ニ於ケル刺戟症狀甚シキ場合ニ於テハ却ツテ蠕動機ノ增進ヲ誘發スルヲ以テ與ヒザルヲ可トス、反之乳酒ノ如キハ之ヲ用フルコト三日乃至五日ニシテ却ツテ便ヲシテ秘結セシメントスルノ奇効ヲ奏

乳汁ノ適否

スルコトアリ、コレコノ內ニ於ケル砂糖ハ已ニ醱酵シ盡サル、ヲ以テナリ。

尙ホ體內ニ於テ一定ノ燃燒作用ヲ營マシメンガタメニ脂肪ノ少量ヲ與フルハ敢テ不可ナシトス、然レトモ膵臟、肝臟若シクハ腸結核等ノ患者ニ於テハ往々徒勞ニ屬スルモノタルヲ記憶スベシ、就中食鹽含有ノ少ナキ「バタ」ヲ與フルヲ可トシ、油劑ノ如キハ決シテ賞用スベキニアラズ、

食際ナ以テ腸壁ヲ刺戟スベシ

二 蠕動機減退ニ對スル食養。

蠕動機減退ノ來ルハ或ハ原發的ニ若シクハマタ續發的ニ來ルコト吾人ノ知悉スル所ニシテ輕度ノモノニアリテハ食養ヲ以テノミ治癒シ得ベキモ、少シク執拗ナルモノニ於テハ尙ホ其他ノ療法ト結合シテ治癒ノ法ヲ講ゼサルベカラザルナリ、要スルニ蠕動機減少シテ便秘ヲ來スニ至ルハ或ハ神經性トシテ現ハレ、若シクハマタ腸管蠕動ノ痙攣ニ因リ、或ハ腸管ノ新生物、他臟器ヨリノ壓迫、若シクハマタ轉位等ニヨリテ來ル者ニシテ蠕動運動ノ阻害ニ外ナラズ、故ニ吾人ハコレガ療法ヲ施スニ當リテ先ツ考フベキ「ハ蠕動機ヲ亢進セシメガタメ食糜ニ依リ腸管ノ刺戟ヲ增進セシムルニアリ然レモ新生物若シクハ壓迫等ニ因スルモノハ唯其一小部ノ奏効ヲ見ルニ止

マルモノニシテ常ニ全ク不結果ニ終ルモノ多シ、然レドモ炎癇ニ基因スルモノ、就中大腸ノ炎癇疾患ニ於ケルガ如キ、若シクハマタ腸管筋肉及腸壁ノ弛緩ニヨリ、所謂腸「アトニー」ヲ來ス塲合ニ於テハ、奏効ヲ見ルコト決シテ至難ノ事ニアラズトス、如此塲合ニ於テハ吾人ハヨク木纖維ニ富ミタル野菜、若シクハ果實、或ハ酸酵性冷飲料ヲ與フルヲ例トス、殊ニ腸「アトニー」ニ於テハ刺戟性食品ヲ選擇スベシ、故ニ便秘性ニ作用スル食品ハ可成之ヲ攝取セザルヲ可トス、例令柯々阿「チョコレート」、若シクハ赤酒或ハ濃厚ノ茶汁ノ如キコレナリ、然レモ穀粉食品ニ於テハ決シテ然ラズ、從ツテ米ノ如キハヨク腸管ノ刺戟トナル、且ツ便秘性食餌ト稱スルモノモ其溫度ヲ調節シ調理ノ法ヲ變ズルニ於テハ却ツテ有効ニ作用スルモノナリ、牛乳ノ如キモ人ニ依リ便秘ヲ來スコトアルモ、乳糖ヲ入レテコレヲ與フル時ハ却ツテ下痢性ニ働クコトアリ、殊ニ牛酪乳ニ於テ然リトス、又輕度ノ「アトニー」ニ於テハ已ニ一杯ノ冷水、若シクハ果汁ヲ空腹時ニ飲用セシメ、以テ充分ナル奏効ヲ見ルコトアリ、白麵麭ノ代用ニ黑麵麭ヲ用フルカ、若シクハマタ蜂蜜製ノ菓子ヲ與ヘ或ハ脂肪ヲ與フルモ亦可ナリ、殊ニ「バタ」ヲ多量ニ與フルハ往々奇効ヲ奏スルモノトス、一般ニ植物性ハ食品ヲ多量ニシ肉食ヲ制限セシムルハ便秘ハ食養上甚ダ有効ナルモノトス。故ニ野菜類ノ攝取ハ腸「アトニー」症ニ於テ必ズ缺クベカラザルモノニシテ新鮮ナル野菜ヲ「サラード」ノ狀態ニ於テ與フルカ、或ハ青々タル野菜ヲ與フルハ甚ダ妙ナリ、脂肪モ亦コレヲ種々ノ形態ニ於テ與フルヲ可トス、乾酪亦可ナリ、肉類ハ常ニ「ソース」ヲ加ヘテ食スルヲ可トス、又別ニ砂糖、水(殊ニ乳糖ノ一〇・〇―一五・〇ヲ早朝空腹時一盞ノ水若シクハ牛乳ニ混ジテ投與)ヲ與フルモ可ナリ、蜂蜜モ亦便ヲシテ緩下セシムルニ便ズ、其他强度ノ食鹽含有食品例令鯡鹽漬ノ魚類等ハ頗ル妙トス、尙ホ早朝空腹時ニ於テ煙草ヲ喫用スルモ往々利益アルコトアリ。

植物性食品ハ便秘患者ニ缺クベカラズ

モシ便秘ヲ來スト同時ニ腸瓦斯ノ發生甚シク放屁ノ盛ナルモノニ於テハ薄荷若シクハ茴香ノ如キ香料ヲ食品中ニ入ルヽヲ可トス、其他胡椒ノ如キモ亦大ニ利アリトス。

腸管ノ痙攣狀態ニ於ケル塲合ハ食養療法ニ於テ强度ノ刺戟性食餌ヲ與フルヲ不可トス、故ニコノ際ニ於テハ恰モ胃ニ於テ蠕動機ノ亢進狀態ニ於テ熱發セル塲合ニ投與セシ食養ノ如キモノヲ與フヘシ(後掲參照)コレ即チ腸

管ハ容易ニ全般ノ神經作用ニ影響シ直チニ其刺戟ニ應ジ易キヲ以テ珈琲、酒精ノ如キ興奮性食品ハ非常ニコレヲ制限スルカ、若シクハ全クコレヲ避クルヲ可トス、カヽル場合ニ於テハ吾人ノ指示スル食品ハ殆ント其効ナク却ツテ患者自身ノ撰擇其旨ニ添フコトアリ、コレ蓋シ神經性ニ來ルコト多キト且ツ其消化器官ノ個人的知覺ノ度ヲ異ニスルヲ以テナリ

腸管ニ於ケル分泌機能ノ障害ガ胃ニ於ケルガ如ク明瞭ナルモノニアラズ

三、分泌障害ニ對スル食養

腸管ニ於テモ尙ホ胃ニ於ケルガ如ク分泌機能ノ亢進及ビ減少若シクハ缺乏ヲ見ルモノナルベシト雖、詳細ノ確說ニ至リテハ、今日尙ホ僅カニ檢便ノ一部ニ就テ研究スルノ外他ニ良法ナキヲ以テ吾人ハ實ニ其診斷ニ苦ムモノナリ、且ツマタ肝臟及ビ膵臟ノ分泌增減ニ對シテ一々之ヲ斷定セント欲スルハ事實頗ル容易ノ業ニアラズ、唯吾人ハコレヲ排泄物ノ上ニ見ルニ留リ、其滲出物ノ外尙且ツ多量ノ腺分泌ヲ見ルハ往々高度ノ炎漸ヲ伴フ際若シクハ機質的ニ劇甚ナル疾病ヲ來ス際ニ於テ認ムル所トス、然レトモ是等分泌機能ノ增進ハ消化機能ニ對シ、果シテ幾何ノ障害ヲ與フルモノナルヤハ全ク不明ナルモ決シテ多大ノ影響ヲ與フルコトナキガ如シ故ニ唯運動機能障害ノ之ニ加ハル場合ニ於テノミ食養ヲ調節スルノ要アリトス、而シテ分泌機能ノ減少若シハ缺乏(?)ヲ來ス場合ニ於テハ吸收機能ノ障害モ亦同時ニ起ルモノナルベシトハ、腸液其モノヽ生理的性質ニ顧ミテ容易ニ推斷シ得ベキモノトス、然レトモ尙ホ運動機能ノ障害之ニ加フルアレバ縱令食品ヲ撰擇シテ吸收シ易キモノヲノミ投與スト雖モ、敢テ榮養ヲ充分ナラシムル能ハズ、故ニコレ等ノ障害ヲ來スニ於テハ縱令分泌機能ノ障害ヲ適切ニ定メ得ベシトスルモ、運動力ニ注意セズンバ到底食養ノ効ナキモノトス、況ンヤ吾人ハ單ニ檢便ニヨリテ僅カニ分泌障害ヲ定メント欲スルモノニシテ今日殆ンド其詳細ヲ知ルノ緒ニ就カザルニ於テオヤ。

肝及ビ膵ノ分泌障害ニ對スル食養

然レトモ膽汁若クハ膵液ノ分泌全ク止ムニ於テハ其消化機ニ影響スル所決シテ少ナシトセズ、故ニ膽汁ノハ腸管ニ流出スル分泌液全ク止ムト時ハ多クハ食品中殊ニ脂肪消化ハ最モ多ク阻害セラレ、次テ蛋白質終リニ含水炭素ハ消化障害ヲ來スニ至ルベシ、殊ニ脂肪ノ如キハ食品中ニ含マルヽ脂肪ノ七八・五％(健康人ニアリテハ僅カニ一〇％)ハ再ビ便中ニ現ハルヽニ至ルモノナリ、モシマタ膵液ノ缺乏ヲ來ス場合ハ澱粉及ビ蛋白ノ消化ハ不良ト

ナリ、脂肪ハ消化ハ最モ甚シク阻害セラル、コレフォン、メーリング、ミンコースキー氏等ノ親シク動物ニ就キテ實驗セル所ニシテミルレル氏ハ人ニ於テモ尙ホ膵臓疾患ニ於テハ脂肪分解ノ著シク減退セルノ例ヲ報告シ、コレヲ以テ膵疾患ノ一症候トナセリ、然レトモ腸管内ニ於ケル微菌中ニハ尙ホ往々脂肪ノ分解作用ヲ有スルモノアルヲ以テ必ズシモ然ラズト信ズ、尙ホ且ツ其他ノ消化液ノ存在ニ就テモ顧慮セザルヘカラズ、要スルニ此等ノ分泌障害ニ於テハ常ニ脂肪ヲ避ケ含水炭素ヲシテ同化作用ニ參與セシムルヲ可トス、故ニ砂糖ヲ與フルカ、若シクハ軟キ穀粉ヲ調理シテ投與シ、或ハマタ焙烘セル麵麭ヲ與フルハ蓋シ吾人ノ理想ニ近キモノトス。

急性腸加答兒ニ應ズル食養

乙、腸管ノ粘膜障害ニ對スル食養。

粘膜自身ノ障害ヲ來スニ至レバ、吾人ハ先ツ其器官ヲシテ須ラク安靜ノ位置ニアラシムルヲ可トス、然ラザレバ到底速カニ其効ヲ奏セシムルコト能ハズ、今吾人ガ粘膜疾患トシテ特ニ注目スベキモノ多々アリト雖、就中急性腸加答兒、急性胃腸加答兒、小腸潰瘍或ハ胃腸出血等コレナリ、

急性腸加答兒ニ於テハ多クハ食思缺損スルヲ以テ疾病器官ノ安靜ヲ計ランタメニハ豫定ノ療法ヲ施スニ容易ニシテ、殊ニ急性胃腸加答兒トシテ來ル場合ニ於テハ一定期間食品攝取ヲ禁ゼシム、唯コノ際多クハ堪ユヘカラザルノ煩渇アルヲ以テ少量ノ温茶、稀薄ノ赤酒若シクハ小麥ヨリ製セル粘液樣ソップ等ヲ用フベシ、炭酸水等ハ蠕動機ヲ亢進シ、同時ニ疾病ヲ增進セシムル等ノ不利アルヲ以テコレヲ避ケ、ムシロ煮沸セル水ヲ以テコレニ代ヘ、若シクハ之ニ和スルニ蒟蒻、赤酒若シクハ少量ノ砂糖等ヲ以テスベシ、殊ニヨク稀薄ノ茶ヲ取リ一ト四ノ割合ヲ以テ赤酒ヲ混ズルカ、或ハ蒟蒻ノ少量ヲ加入シテ與フルヲ可トス牛乳及ビ「ソップ」ノ如キハ其症狀ノ甚シキ場合ニ於テハムシロコレヲ禁ズルヲ可トス。

慢性腸加答兒ニ應ズル食養

慢性ノ腸加答兒ニ於テハ其局所ニ關シ、若シクハマタ其輕重ニ關シテ一定セズト雖、小腸加答兒ニ於テハ殊ニ食養療法ニ對シ周到ノ注意ヲ拂フヲ要ス、コノ際腸液ハ多クハ稀薄トナリ、胃液ヲ中性ナラシムルニ足ラザルカノ觀ヲ呈シ、且ツ往々膵液分泌ノ減少ヲ來シテ脂肪ノ分解不充分トナリ、從ツテ乳化作用モ亦遲鈍トナルナキニアラズ、膽汁機能モ亦小腸ニ於テ酸性ノ異常ヲ來スヲ以テ往々阻害セラルヽコトアリ、故ニ此等ノ點ニヨク注意ス

ルヲ要ス。

小腸加答兒ニシテ下痢ノ存在スル場合ニ於テ(殊ニ小腸加答兒ニハ下痢多キモノトス)ハ先ツ泥狀ノ粥ヲ與フルカ、若シクハ柯々阿、赤酒、茶等ノ流動性若シクハ半流動性食餌ヲ與フルヲ可トス、牛乳及ビ鷄卵ハ如キハ先ヅ其初メニ當リテハコレヲ愼ミ、多少回復スルニ及ンデ初メテ「ソップ」中ニ鷄卵ヲ入レテ試ムベク、其ヨクコレニ堪ユルニ及ンデ須ク持長スベキモノトス、牛乳ノ如キハ尙ホ且ツ回復ハ運ニ向ハズンバ到底コレヲ與フルハ餘地ナキモノト見ルヲ可トス、元ヨリ個人性ニヨリテ便秘ヲ來ス人ハ此限リニアラザルナリ、且ツ他ノ蠕動運動ノ亢進ヲ來スモノ例令果實、蜂蜜其他酸類ノ如キハ全然之レヲ避クルヲ可トス、一言ニシテコレヲ掩ヘバ下痢甚シキニ至ルニ從ヒ益嚴格ナル食品制限ヲナスヲ可トス。

大腸加答兒ニ於テハ排便ノ狀態常ニ一定セズ、或ハ便秘ヲ以テ來リ若シクハ便秘ニ次グニ下痢ヲ以テスル等交代性ニ來ルコトアリ、若シクハマタ全然下痢ヲ來スニ至ルガ如キコレナリ、下痢ヲ來スニ於テハ前章小腸加答兒ニ於テ略述セルト同樣ニシテ敢テ不可ナシトス、然レドモ其他ノ場合ニ於

腸出血ニ對スル食養

テハ然ラズシテ炎症狀ヲ呈セル粘膜ヲ愛惜シ、同時ニ排便ヲシテ尋常ナラシムルニ力メザルベカラズ、若シコノ際小腸ノ故障殆ントナキカ若シクハ極メテ輕度ナル場合ニ於テハ肉類若シクハ魚肉等ハ注意シテコレヲ與フルモ可ナリ、且ツ半熟ノ鷄卵等ヲ與ヘ大ニ有効ノ事アリ、或ハマタ馬鈴薯其他ノ穀粉ヲ粥泥狀ニ調理シテ與フルハ敢テ差支ナキモノトス、然レドモ「ソップ」ノ如キハ却ツテ蠕動機ノ不調ヲ來スノ患ナキニアラザルヲ以テ先ヅ與ヘズシテ可ナリ、然レドモ蜂蜜、乳糖、葡萄糖、少量ノ果汁等ハ却ツテ効アリトス、牛乳ノ如キハコノ際大ニ賞用スルハ價値アルモノナリ、然レドモ木纖維ノ多量ヲ含ム含水炭素食品ハ腸液ヲシテ其物質中ニ透竄スルヲ妨グルモノナルヲ以テ斷ジテコレヲ避クベキモノトス。

腸出血ハ往々赤痢、窒扶斯等ニ於テ見ルモノニシテ其最モ奏効スルノ一法ハ先ヅ患者ヲシテ何等ハ食品ヲモ取ラシメザルニアリトス、而シテ出血後ニ至リテ食品ヲ與フルノ時期ハ果シテ何レノ時ヲ可ナリトスルヤハ人ニヨリテ異ナレリト雖モ、要スルニ出血部ニ於テ全ク血栓ヲ生ジ出血ノ停止ヲ待チテ初メテコレヲ行フヲ可トス、ボアス氏ハ最後ノ出血ヲ見テヨリ二

十四時間乃至三十六時間ヲ經過セバ即チコノ狀態ニ達スルヲ以テ茲ニ初メテ口腔ヨリ食餌ヲ送ルベキモノナリト云ヘリ、然レドモモシ體力ノ沈衰甚シキニ於テハ直腸榮養ヲ以テスルコト必要ナリトセリ、而シテ已ニ口腔ヨリ食品ヲ送致シ得ルノ時期ニ到達セバ初メハ勿論液性食品ニノミニ限ルモノトス、其他ノ詳細ニ至リテハ各論ニ於テ別ニ論述スベシ。

腸管狹窄ニ對スル食養ハ須クタ先ツ其病源ト部位トニ留意スベシ

丙、慢性腸狹窄及ビ閉塞ニ對スル食養。

腸管狹窄ニシテ慢性ニ亘ルモノニアリテハ榮養保全ニ對シテ食養ニ注意スルコト必要ナリ、吾人ハ尙ホコレニ對シ其狹窄ノ原因(潰瘍瘢痕、腹膜炎ニ因スル癒着、腫瘍等)及ビ狹窄症狀ノ現ハルヽ位置トニ注意セザルベカラズ、且ツ小腸部ニ於テ狹窄ヲ生シタル場合ト大腸ニ於テ狹窄ヲ生シタル場合トニヨリテ療法上ノ難易ヲ生ズルヲ以テヨク其部位ヲ注意スベシ、殊ニ排便ノ形狀、鼓脹ノ有無、蠕動不穩等ニ注意シ具ニコレヲ決定スベシ、而シテ小腸ノ慢性狹窄ニ於テハ食品ハ多クハ其狹窄部ノ前方ニ於テ永時間腸內ニ停滯シテ容易ニ分解シ腐敗シ、爲メニ榮養障害ヲ來スヲ例トスルヲ以テコレニ與フル食品ハヨク之ヲ撰擇シ可成液性若シクハ泥狀ノ形ヲ以テ廻腸

小腸ノ慢性狹窄ニ應ズル食養

部ニ達スルヲ得セシメバ、狹窄部ヲ通過スルモ從ツテ比較的容易ナルベク、且ツ如此ニ至ラバ其分解作用モ亦僅少ナルベキハ論ヲ俟タズ、故ニ宜シク調理法ニ注意シ小腸部通過ニ當リテ液化スルカ、若シクハ半液化スベキノ狀態ニ調理シテ與フルヲ可トス、或ハマタ液汁食品ヲ撰定スルニ力ムベシ、從ツテ固形食餌ハコノ際コレヲ用フルハ斷ジテ不可ナリトス、且ツ酸酵成分ヲ含ムノ食品或ハ後發酸酵ヲ來スガ如キモノ、例令ビール等ノ如キモノハコレヲ與ヘザル樣ニスベシ

大腸ノ慢性狹窄ニ應ズル食養

大腸ノ慢性狹窄症ヲ有スル場合ハ小腸部ニ於ケルヨリハ一層其食品攝取ニ苦シムモノナリトス、コレコノ部ニ於テハ生理的ニ糞便ヲシテ硬固ナラシムルモノナルヲ以テ、モシコノ部ニ狹窄アレバ食品ハ永ク茲ニ停留スルヲ以テ益々其水分ヲ取リ去ラルヽニ至ルベク、且ツコレガタメニ異常ノ酸酵現象ヲ起スコトモ亦考フベキ事タリ、故ニ之ニ向ツテハ流動性ノモノノミヲ用フルカ、若シクハ固形食ヲノミ用フルカハ畢竟疑問タルヲ免レズ、液性食品ノミヲ用フル時ハ水分ハ多量ニ腸壁ヨリ吸收セラレ固形物ニ變ズルノ間永時間停留セザルベカラザルヲ以テ酸酵等ヲ來シ易キモノナリ、故

ニコノ疾患ニ用フルモノハ尙ホ固形成分ニシテ多少緩下ノ作用ヲ有シ過剩ノ醱酵ヲ起サヾルモノヲ撰擇スルヲ可トス、コレニ對シ有機脂肪酸若シクハ果汁ノ如キハ割合ニヨクコレニ堪ユルモ砂糖類ハ「サッカリン」ヲ除クノ外ハ尙且ツ狹窄部ノ上方ニ於テ醱酵ヲ起スヲ免レズトス、要之大腸狹窄症ニ向テハ尙ホ混成食餌ヲ與ヘ肉類、魚肉、野菜類ヲ共ニ粥狀トシテ與フルヲ可トス、殊ニ食鹽ノ多量ヲ用ヒシ肉類ノ如キハ尙ホ之ヲ應用シテ可ナリ、且ツ少量ノ脂肪モ亦敢テ咎ムル所ニアラズ、要ハタヽ多少腸蠕動ノ亢進ヲ促カスニ足ルノ食品ヲ與フルヲ適當トス、故ニコノ際阿片劑等ヲ投シテ蠕動ヲ沈靜セシムベカラズ、唯痙攣性强直性ニ腸管收縮ヲ來ス場合ニ於テノミコレヲ與フルモノトス、然ル時ハ一ハ之レヲ鎭靜シ、同時ニ下劑ノ効ヲ有スルニ至ルベキヲ以テナリ。

神經症ニ對スル食養ハ一定ノ準繩ヲ以テ律スベカラズ

丁、腸神經症ニ關スル食養。

腸管神經症ニ對スル食養ハ必ズシモ一定ノ方針ノ下ニ決定スル能ハズ、コレ畢竟神經症其モノノ診斷ニ於テ往々確固タル標準ヲ下シ得ザル場合ノ生ズルト、且ツ食品其物ガ果シテコレニ對シテ奏効シ得ルヤ否ヤノ疑問ヲ生ズレバナリ、且ツ又患者ノ所謂食品ニ對スル素質ノ如何ニヨリテ大ニ其趣ヲ異ニスレバナリ、要スルニ該神經疾患ノ二三ノ症狀ニ對シテノミ時ニ奏効シ得ル場合アリト云フノ外ナシ、故ニアル場合ハ食品ニ何等ノ制限ヲ與ヘズシテ食餌ヲ投與シ、其疼痛ヲ減弱シ、若シクハ膨滿ノ度ヲ去ルニ至ルガ如ク、或ハ神經性下痢症ニ向ヒ、患者ノ經驗ニ基キテ食餌ヲ取ラシメ、却ツテ吾人ノ意表ニ出ツルノ好果ヲ得ルコトアリ、タメニ此等ノ患者ニ於テハ往々生理的腸管ト病的腸管トノ間ニ著シキ矛盾ヲ來スコトアリ、故ニ生理的ニ下痢ヲ起シ易キ食品ヲ與ヘ、病的ニ却ツテ下痢ヲ止ムルガ如シ、是等ハ蓋シ患者自身ノ腸神經ニ對スル素質トモ云フヲ得ベキモノナリ、其他マタ放屁濫發ノ患者ニ於テ、果シテ食品ヨリ來ル瓦斯醱酵ノタメナリヤ否ヤヲ決定スルニ當リ、食品ニ注意シテ瓦斯ヲ生ゼシメザラント力ムルモ、尙ホヨクコレヲ生ズルニ至ルガ如ク、神經症ニ於ケル食養ハ殆ント一定ノ主療ヲ施スニ策ナキモノトス。

戊、腸管ノ醱酵若シクハ腐敗ニ對スル食養。

余ハ以上種々ノ疾患ニ於ケル食養療法ノ大略ヲ縷述シ、多クノ場合ニ於テ

種々ノ食品ヲ混用スベキヲ云ヘリ、然レドモ諸種ノ混成食品ハ異常ノ酸酵若シクハ腐敗ノ現象ヲ生ジ易キ者ナリ、故ニコレガ防止若シクハ制限ニ對スルノ策ハ常ニ吾人ノ念頭ヲ去ラシムベカラズ、元來吾人健康ノ胃ニ於テモ諸多ノ食品ヲ食スレバ尙ホ多少ノ酸酵作用ノ存在スルハ生理的ニシテ吾人ハ其食品ニ注意シ、之ヲヨク殺菌スト雖モ多少ノ酸酵現象ハ免レザル者ナリトス、故ニ縱令鹽酸ノ量其多キヲ算シ、以テ酸酵菌ニ抵抗スト雖モ、永キニ亘リテ停留スルニ當リテハ、尙ホ且ツ酸酵ノ已ムナキニ至ル、要スルニ胃腸器官ニ於テハ到底是等么微體ニ對シ、酸酵若シクハ腐敗ノ現象ハ免ルベカラザルノ運命ナリトス、故ニ唯吾人ハ食養ニ就キテ其異常ノ現象ヲ避ケンガタメニ食品ヲシテ出來得ル限リ吸收サレ易ク、且ツ速カニ腸管ヲ通過セシメテ榮養ノ目的ニ副ハシムルニ力メザルベカラズ、殊ニ腸管內ニ於ケル酸酵若クハ腐敗作用ハ其食品ノ停留永キニ亘ルト、腸管其モノヽ長キニ亘ルトニヨリテ到底免ルベカラザル現象ニシテ、而カモ容易ニコレニ陷リ易キノ傾アリトス、故ニ一旦疾患ノ胃ス所トナラバ、唯單ニ食品ノ撰擇ヲ充分ニセリトテ滿足スル能ハザルモノナリ、故ニ之レニ伍スルニ「ビスミット」「服里矢爾酸、沃度劑其他ノ酸酵制止若シクハ防腐劑ヲ適用スルニアリ、食品其モノモ亦胃ニ於テ最モ僅少ナル分解ヲ營ミ、且ツ最モ刺戟少ナク而カモ同化作用ノ著シキモノヲ與フルヲ可トス、故ニ植物性ノモノ、殊ニ澱粉含有食餌ヲ與フルハアル一定度ニ制限シ時ニ或ハコレヲ廢止スルヲ可トス、然レドモ植物食品中ニ於テ已ニ糖化ノ狀態ニ存スルモノ、若シクハ「デキストリン」化セル澱粉ヲ與フル場合ハ胃及小腸ニ於テ酸酵ヲ惹起スルコト至ツテ少量ニシテ且ツマタ時トシテハ全ク酸酵セズ、故ニ穀粉食餌、菓子其他蒸菓子ノ如キハ決シテ賞用スベキモノニアラズ、然レドモ食品ヲ砂糖ヲ以テ調理スルハ決シテ咎ムベキノ事ニアラズ、コレ胃若シクハ小腸部ニ於テ容易ニ溶解シ吸收シ得ラルヽヲ以テナリ。

元來澱粉ノ糖化現象ハ腸管內ニ於テハパウヒン氏瓣膜部ニ達スル迄行ハルヽヲ以テ其延長頗ル長キニ亘ルモノニシテ、從ツテ糖液極メテ稀薄トナリ、タメニ微菌ニ冒サルヽ機會ニ遭遇スルコト多シ、コレ糖液ハ濃厚ノ度ニ存スル時ハ却テ微菌ノ抵抗ヲ增加スルノ傾アルモノナレドモ、濃度ヲ減ズルニ從ヒテ其抵抗力ヲ減ズルヲ以テナリ。

蛋白ノ腐敗作用ヲ防遏シ、若シクハ減少セシガタメニハ吾人ハ先ツコレヲシテ溶解シ易キ形態ヲ保タシムルト同時ニ胃及ビ小腸ニ於テ同化作用ニ與ルベク速カナル徑路ヲ取ラシメ、大腸ニ達スルノ曉ニ當リテハ出來得ル限リ腐敗菌ニ對スル抵抗ヲ增大ナラシルニ力ムルヲ要ス、コノ點ニ關シテハ乳中ノ乾酪素及ヒ其製成品ハ最モ適當ノモノトス、コレ他ノ蛋白アルブーミン若シクハ纖維素ニ比スレバ二層抵抗力强大ナルヲ以テナリ、故ニ大人ト小兒ノ大便中ニ於ケル蛋白ノ腐敗作用ハ自ラコレヲ證シ得ベシ、前者ニアリテハ分解物ノ多量ヲ見、乳汁ヲノミ食用スル後者ニ於テハ其便臭已ニ大人ト異ナリ、便中ニ尙ホ凝固シテ未タ分解セラレザル形態ノ存スルヲ見ルニアラズヤ、然レドモ多クノ食品中、アルモノハアル黴菌ニ對シ抵抗强ク、アルモノハ却ツテコレニ弱キガ如ク、或ハマタ一方ニ於テ醱酵ヲ營ムモノト雖モ、一方ニ於テハ腐敗ヲ防グノ作用ヲ兼用スルモノアリ、例令含水炭素中乳糖ノ如キハ一方ニ於テ醱酵セラルヽモ、一方ニ於テハ蛋白分解ヲ制止スルガ如シ、且ツマタ含水炭素醱酵ハ蛋白食品ニヨリテ制止セラルヽコト、カノ小兒ノ腸疾患ニ於テ吾人ガヨク目擊スルヲ得ルノ事實トス、コノ點

ニ關シテ兩者ノ効ヲ兼テ且ツ滋養素ニ富ムモノハ實ニ牛乳ナリ、故ニコレヲ永ク用フル時ハアル一定ノ黴菌ハ或ハヨク發達スルモ而カモ其他ノ么黴體ニ對シテハコレヲ制止シ、若シクハ制限スルノ力ヲ有スルモノナリトス、故ニ乳兒ノ腸管ニ於テハ大人ノ腸管ニ於ケルヨリハ么體動物ノ數ニ於テ著シク減少スル所以ナリ、從テ吾人ハコレヲ大人ニ應用シ腸管ニ於ケル炎症性潰瘍性疾患殊ニ赤痢等ニ際シ純粹ノ牛乳應用ヲ以テ奏効スル所以ナリ、故ニ吾人ハ牛乳ヲ以テ其最良品トシ次ニ多少防腐作用ヲ有スル含水炭素中ノ乳糖ヲ賞用シ次テマタ蛋白質中乾酪素ヲ賞用スルモノナリ、然レドモ尙ホ吾人ハ腸管ノ器械的作用ニ留意シ、排便ヲシテ整然タラシメ、同時ニ其停滯ヲシテ永時ニ亘ラシメザル樣注意セザルベカラズ。

腸疾患ノ食養各論

Specielle Diätbehandlung der Darmkrankheiten

一、急性腸加答兒 Der acute Darmkatarrh

食養療法ハ疾病ノ輕重ニヨリ其趣ヲ異ニスレドモ通常急性腸加答兒ノ場合ニアリテハ病初ノ第一日ハ四六時中絶食狀態ニアラシムルヲ最モ上策トス、多數ノ場合ニ於テハ同時ニ胃炎ヲ併發スル者多ク、從テ食思ノ缺損ヲ來スコト多キガタメ絶食療法ハ比較的容易ナリトス、口渴ニ對シテハ少量ノ茶若シクハ沸騰セル餾水ヲ飲用セシム、然レドモ炭酸ヲ含有スル飲料ハ與フルヲ嚴禁ス、何トナレバコレニヨリテ蠕動機ヲ亢進シ、同時ニ疼痛ヲ增進セシムルヲ以テナリ、第二日ニ至リ急性ノ症狀漸ク減退シ排害治法ノ奏効セルヲ見ナバ追次少量ノ食品ヲ供給シテ可ナリ、コノ目的ヲシテ充分ナル効果ヲ得ンガタメニ、吾人ハ先ヅ食品ノ充分新鮮ナルモノヲ撰ビ、同時ニ胃腸ノ粘膜ニ對シテ刺戟ナキモノヲ與ヘザルベカラズ、且ツコノ際調理ニ注意シ、生品ヲ與フルヲ避クベキモノトス、就中吾人ノ賞用スルモノハ重湯、

葛湯、ソップ類ニシテ牛乳ハ疾病ノ盛ンナル際ニ當リテハ須ク之レヲ禁ズベキモノトス、コレ本病患者ハ往々コレガタメニ下痢ヲシテ一層頻回ナラシムルヲ以テナリ、唯大腸加答兒ニ於テハ往々其飲用ニ堪ユルヲ以テ、初メ之ヲ試用シ、其結果ノ如何ニヨリテ取捨スベキモノトス、若シ又嘔吐甚シキ場合ニ於テハ飲料ヲ冷却シテ投與スルカ、若シクハ氷片ヲ嚼マシメ、之レニヨリテ嘔吐ヲ鎭靜スルヲ得バ、次デ温液ヲ送致スルヲ可トス、コノ際柯々阿「チヨコレート」珈琲ノ如キモノヲ與フルハ敢テ咎ムベキニアラズ、此ノ如クニシテ二三日ヲ經過シ、病勢漸次其影ヲ收メ下痢全ク止ムニ當リテハ、初メ鷄卵ヲ半熟トシ、若シクハ「ソッップ」中ニ投ジテ與フルヲ可トス、次テ米粥、穀粉糊、泥等ヲ供給シ、追次犢牛腦、細割セル牛鳥肉及ビ刺身ノ少量ヲ與ヘ、尙ホ焙燒セル麵麭「ビスケット」ノ如キモ其少量ヲ與フルハ敢テ咎ムベキニアラズ、且ツ其經過ニヨリ馬鈴薯ヲ糊泥狀ニ煮タルモノ等ヲ與ヘテ可ナリ、然レドモ其他ノ野菜類及ビ果實ハ尙ホ暫ラク之ヲ與フルヲ許サズ

要スルニ急性腸加答兒ニ於テ嚴禁スベキ食品ハ脂肪多キモノ、及ビ酸味强キ食品、峻烈ナル香料、若シクハ膨滿ヲ來サシムルガ如キ不消化物、黑麵麭、葉

菜類ノ如キコレナリ、其他脂肪若シクハ醸母ヲ以テ製シタル食品ハ心ズコレヲ食餌ヨリ除外セザルベカラズ、例令未熟ノ酒類、麥酒、煮沸セザル牛乳若シクハ殺菌セザル飲料ノ如キ之ナリ、且ツ患者ハ常ニ一時ニ多量ヲ攝取スルヲ避ケ、少量宛數回ニ分食スルヲ可トス、何トナレバ一時ニ多量ヲ食スル時ハ罹病ノ腸管ヲシテ益〻重荷ヲ負ハシムル所以ナレバナリ、且ツ食事中ハ決シテ飲料ヲ攝取スベカラズ、之レ尚ホ腸管ノ勞ヲシテ益多カラシムルニ至ルガ故ナリ、殊ニ注意ヲ要スベキハ疾病回復ノ時期ニ於テハ患者往々著シキ食思ノ旺盛ヲ來シ、タメニ食養ヲ誤リ容易ニ再發ノ禍ヲ招ギ、慢性腸加答兒ニ移行スルノ不運ニ際會スルコト一再ニシテ止マラザルヲ以テ、極メテ嚴密ノ監督ヲ要ス。

尚ホ茲ニ注意スベキハ極メテ急性ノ塲合ニ於テ往々來リ得ベキ虛脱及ビ發熱ニ對スル處置ナリ殊ニ老人及ビ小兒ニ於テハ多量ノ水分亡失ニヨリ脱力ヲ來スニ至ルモノトス、故ニ衰脱セル病體ニ對シ口腔、直腸若シクハ皮下ヨリ水分供給ニ力メザルベカラズ、殊ニ吾人ハ生理的食鹽水六〇〇、〇乃至八〇〇、〇ヲ以テ灌腸ヲ施シ、小兒ニ於テハヰラトン氏「カテーテル」ヲ以テ多量ノ食鹽水注腸ヲ施スニアリ、然ル時ハ體内ニ食鹽水ヲ吸收スルノミナラズ、同時ニ下痢症狀ノ減退ヲ來スヲ得ベシ、殊ニ小兒ニ於テハ芥子浴若シクハホイブヲル氏ノ芥子纏絡ハ頗ル奏効ス、大人ニ於テハ酒精飲料ハ極メテ良好ノ結果ヲ收ムルコトアリ、故ニ赤酒、蒟蒻「シャンパン」ノ如キハ賞用スベキモノトス、加之酒精ハ一方ニ於テ發熱ニ對シ頗ル有効ノモノナリ、何トナレバ酒精ハ蛋白若シクハ脂肪ヲ節約スルノ作用ヲ有スルヲ以テ、熱ノタメニ消耗セラルヽ蛋白及ビ脂肪ノ量ヲ少ナカラシムルガ故ナリ、同時ニ亦酒精ノ飲用ハ實際ニ體溫低下ニ向ツテ多少ノ効アルモノトス。

二　慢性腸加答兒 Der chronische Darmkatarrh.

食養療法ヲ講ズルニ先立チ、患者ニ一般衛生的規律ヲ守ラシムルハ理ノ當然ニシテ、例令身心ノ安靜、新鮮ノ空氣、若シクハ寒暑ニ對スル防禦等、スベテ皆規則的、衛生的法規ヲ守ラシメザルベカラズ、然ル後初メテ本來ノ食養療法ニ移ルベキモノトス、而シテ此際ニ於ケル食養療法ハ次ノ如クニシテ實行スベキモノトス。

慢性腸加答兒ニ適應スベキ食養

一、容易ニ消化シ易キ食品ヲ撰擇スルコト。

二、同時ニ比較的榮養分ノ多量ヲ含有スル食品ヲ供給スルコト。

三、全ク有害物質ヲ撲滅シ去リタル食品ヲ與フルコト、換言スレバ出來得ル限リ熱ヲ加ヘテ調理シタル食品ヲ投與スルコト。

四、食品攝取ハ決シテ少數ノ度ニ於テセズ、却ツテ少量宛多數ノ度ニ於テ與フルコト。

五、常ニ胃ノ消化機能ニ顧慮シ、然ル後食品撰擇ヲ怠ルベカラザルコト。

大略上述ノ五項ニ基キ、以テ食品供給ノ資ニ充ツベシ、故ニ今吾人ガ食品ヲ撰ブニ當リテハ、次ノ如キモノハ出來得ル限リコレヲ避クベキモノトス。

慢性腸加答兒ニ禁ズベキ食品

イ　脂肪ハ多量ヲ含有スル物、酸味強キ物及ビ峻烈ナル香料等。

ロ　不消化食品即チ強靭ナル肉類及ビ木纖維ハ多量ヲ含有スル物例令葉菜類ノ如キコレナリ。

ハ　容易ニ醱酵シ易キ食品例令黑麵包、仁果類及ビ釀母菌ヲ以テ製造シタル食品等。

ニ　容易ニ腸管內ニ有機么微體ヲ伴ヒ易キ食品即チ生果、生菜、煮沸セザル牛乳、不良ナル飲料等。

ホ、其性質全然不良ナルモノハ即チ一般ニ腐敗ニ陷リタル食品。

大略以上ノ食品ヲ避クルヲ要ス、而シテ上述セシ許可スベク、與フベキ食品中ニモ便通ノ變常ニ應ジテマタ其撰擇ヲ異ニスルモノトス、然レドモ一般ニ左ノ食品ハ多クハ皆コレヲ許可シテ大誤ナキモノトス、元ヨリ時ニ臨ミテ一層ノ注意ヲ拂ハザルベカラザルヤ論ナシ。

許可スベキ食品中鷄卵半熟卵ヲ最良トシ次デ攪卵ヲ以テス、凝膠、牛腦、幼鷄肉、鳩肉、肉若シクハ脂肪少ナキ魚肉類及ビ牡蠣ノ如キモノハ最モ可ナリ、其他穀粉、糊、泥(例令小麥、西穀米ヲ以テ製セルモノ)及ビ重湯、粥等ニシテ尙ホ諸種ノ羹汁(例令鷄肉若シクハ犢牛肉ヨリ製出セルモノ等ヲ用フ)或ハコレ等ノ飲料ニ鷄卵ヲ伍シテ食スルヲ可トス、且ツ馬鈴薯ヲ粥狀ニ磨潰シタルモノ及ビ豆類ノ脫皮セルモノ等ハ少量ニ於テハ敢テ咎ムベキモノニアラズ

牛乳ハ多クノ疾病ニ於テ賞用スベキ食品ナレドモ、腸加答兒ニ對シテハ古來ヨリ種々ニ論議セラレ、スベテ下痢ヲ伴フ患者ニハ絕對ニ與フベカラズトシ、或ハ疾病占坐ノ部位ニ應ジテ之ヲ與フルハ敢テ不可ナシト云ヘリ、然

レドモ吾人ハ經驗上患者ニシテ牛乳攝取ニ堪エ得ル場合ハ、力メテコレヲ投與セシムルヲ可トス、殊ニ牛乳ハ脂肪ヲ體內ニ送致スルニ最モ適當ニシテ、且ツ蛋白其他ノ抱合極メテ理想的ナレバナリ、然レドモ小腸加答兒ニ下痢ヲ存スル場合殊ニ小腸ノ上部ニ疾病ノ占坐スル場合ニ於テハ、下痢ヲシテ益盛ンナラシムルモノハナルヲ以テ、吾人ハ常ニ小腸加答兒ニ於テハ先ヅコレヲ避ケ、大腸加答兒ニ於テモ、患者コレニ堪エザル場合ハ、疾病漸次回復ノ後ヲ待テ、初メテ之ヲ與フル、ヲ常トス。然レドモ牛乳ニ和スルニ石灰水ヲ以テスル時ハ比較的其飲用ニ堪ユルモノトス(通常牛乳一合五勺ニ石灰水二食匙ノ割合ヲ以テ混合スベシ)此ノ如クスルモ尙ホ下痢ヲ來スニ至ル時ハ全然其飲用ヲ禁ズベキモノトス。

飲料トシテ許可スベキモノハ煮沸シタル淨水、炭酸水(其儘ニテ與フル時ハ往々腸管ヲ刺戟シ、却テ下痢ヲ來スコト甚ダシキヲ以テ、加溫シタル後炭酸瓦斯ヲ驅逐シタルモノヲ投與スベシ、コノ際該飲料ハ常ニ溫カナルモノヲ與フベシ)茶(殊ニ晩茶)柯々阿、生葡萄酒及ビ菖蒲ノ少量ナリトス。

人工調製品ニ於テハ「サナトーゲン」「ヒギアマ」及ビ諸種ノ小兒粉等ヲ用フル

ヲ可トス、ソマトーゼ)ノ如キハ少シク多量ヲ用フル時ハ却ツテ下痢ヲ來スヲ以テ先ヅ與ヘザルヲ可トス。

以上ハ食養ノ大體ニ就テ論述シタル所ニシテ、症狀劇甚ニシテ下痢頻回ニ亘リ加フルニ劇痛等ノ存スル場合ニアリテハ、速カニ患者ヲシテ就褥セシメ食養ハ恰モ急性症ニ於ケルガ如クスベシ。

便秘ノ場合ニ際シテハ上述セル許可食品ハ、殆ンドスベテコレヲ供給スルモ敢テ不可ナキモノトス、殊ニ含水炭素含有食品、即チ植物性食品ハ出來得ル限リ柔和ノ調理ヲ施ス時ハ、却テ良好ノ食養タルヲ失ハズ、殊ニ梨子、林檎ノ如キ若シクハ其他ノ野菜類ノ如キハヨクコレヲ煮テ投與スルハ時ニ極メテ有効ノモノトス、其他良好ノ脂肪、牛酪若シクハ穀粉調製品ノ如キハ屢吾人ノ希望ヲシテ理想的結果ヲ得セシムルモノトス。

今マタ更ニ下痢ニ對スル治法ノ一般ヲ左ニ示サントス、下痢モシ頻回ニシテ而カモ慢性ニ亘ル時ハ、吾人ハ速カニ患者ヲシテ臥褥セシメ、腹部ニ溫巴布若シクハ懷爐ヲ抱カシメ、恰モ急性症ニ於ケルガ如クシ、先ツコレニ對シテ上述セル食品中、初メニ於テハ重湯、葛湯等ヲ與ヘ、次デ豆粉羹汁、若シクハ

「ソップ」中ニ鷄卵ヲ投ジテ與ヘ、症狀少シク回復スルニ從ツテ犢牛腦細剉セル鳥肉及ビ柔カナル良肉ヲ燒キテ「ビフステーキ」トナシタルモノヲ與フベシ、コノ際「ソマトーゼ」ノ如キハコレヲ避クルヲ可トス、然レドモ近來ヨク應用セラルヽ「ミルヒ、ソマトーゼ」ハ賞用シテ可ナリ、其他ノ食養ハ前述ノ部ニ就キ取捨參考スルヲ可トス、且ツ往々慢性腸加答兒ニ於ケル下痢症狀ハ胃障害ニ其源ヲ發スルコト少ナカラザルヲ以テ、胃疾患ノ有無ニ注意シ、然ル後食養ノ注意ヲ忘ルベカラズ、故ニモシ胃加答兒ノ存在スルアレバ、ヨロシク之ガ治法ヲ講ゼザルベカラズ、殊ニ往々吾人ノ遭遇スル胃液分泌過多症ノ存スルアレバ、コレニ投ズル食品ハ重ニ肉類及ビ脂肪ヨリ成ルモノヲ撰擇セバ、コレニヨリテ兩者共ニ其症狀輕快スルモノナリ、モシ亦胃液分泌缺乏症ニアリテハ恰モ之レト正反對ニ植物性食品ヲ攝ラシメ、以テ症狀回復ヲ來シ得ルガ如キコレナリ。

三、腸潰瘍 Darmgeschwüre. Ulcera intestinalia.

腸潰瘍ハ種々ノ病的變化ニヨリテ來リ、其種別モ亦從テ甚ダ多シ、就中十二指腸潰瘍ハ消化性潰瘍ニシテ、其食養ノ如キハ全然胃潰瘍ト同樣ニシテ可ナリ、其他ノ潰瘍中、慢性ニ亘リタルモノハ、出來得ル限リ腸粘膜面ニ刺戟少ナキ食養ヲ供給シ、同時ニ體力漸强ノ方法ヲ講ズルヲ以テ本旨トス、今左ニ潰瘍中必要ナルモノニ就キ食養ノ一般ヲ揭グベシ。

一　慢性赤痢性潰瘍 Die chronisch dysenterische Geschwüre.

本症ハ熱帶地方ニ於テ實驗セラルヽ多キモノトス、慢性ニ亘リ且ツ重症ナル場合ハ常ニ褥中ニ靜臥セシメ、化學的、器械的、溫的刺戟ヲ有スル食品ハ全クコレヲ避ケ、且ツ諸多ノ香料若シクハ炭酸瓦斯含有ノ飲料等ハ可成コレヲ與ヘザルヲ可トス、牛乳ハ初メコレヲ避クルヲ可トスル者アリ若シクハ力メテ牛乳食餌ニ依ラント欲スルモノアリ、吾人ハ慢性赤痢性潰瘍ノ患者ニ對シテハ、初メ少量ノ牛乳ヲ與ヒ、若シコレニ耐ヘ得ル時ハ好ンデ牛乳食養ニ依ラシムルヲ例トス、然レドモ一時ニ多量ヲ飲用セシメズ、却ツテ少量宛數回ニ分用スルノ利アルヲ知ル、其他鷄卵、重湯、葛湯、「ソップ」等ヲ與ヒ輕症ノモノニ於テハ粥若シクハ馬鈴薯等ノ糊泥狀ニセルモノ、若シクハ少量ノ脂肪少ナキ肉類、殊ニ幼鷄若シクハ犢牛肉等ヲ與フ、コレニヨリ榮養增進

ノ道ヲ明カニシ、患者ノ榮養ヲシテ益〻佳良ニ赴カシメザルベカラズ此ノ如クニシテ出來得ル限リ、消化シ易ク、且ツ柔軟ナルモノヲ用ヒ、常食ニ移行セシムルニハ出來得ル限リ愼重ノ策ヲ持シ、可成永時日ノ後ニ於テスルヲ可トス。

二、結核性腸潰瘍 Tuberculöse Darmgeschwüre.

他ノ潰瘍療法ニ於ケル食養ノ如ク、極メテ滋養ニ富ミ、且ツ極メテ刺戟ナキモノヲ與フルヲ可トス、然レドモ多量ノ食品ヲ一時ニ供給スルヲ避ケ、少量宛數回ニ分用セシムルヲ可トス、故ニ通常吾人ガ此目的ヲ遂行センガタメニハ、出來得ル限リ液性食品、若シクハ粥狀食品ニ依賴スルヲ可トス。

峻烈ナル香料、酸味强キ食品、容易ニ醱酵ヲ來シ、瓦斯發生ノ盛ンナルモノ等ハ全然食饌ヨリ除去スルヲ可トス、故ニ吾人ノ賞用スルモノハ牛乳ヲ煮沸殺菌シテ與ヘ、若シクハ「バタ」ノ少量、鷄卵(殊ニ半熟トシ或ハ「ソップ」中ニ投ズルヲ可トス)、肉羹汁、肉搾液、粘稠性穀粉「ソップ」、重湯、葛湯若クハ粥ノ類ヲ與ヘ、其他輕症ニアリテハ幼鷄ノ肉ヲ細剉シ、若シクハ牛腦等ヲ調理シ、或ハマタ魚肉類殊ニ脂肪ノ多カラザル魚肉ノ刺身等ヲ與フルヲ可トス、野菜類葉菜類等ハコレヲ避ケ唯僅カニ馬鈴薯ノ如キモノ少量ヲ給與ス、白「パン」ノ如キモ唯其少量ヲ許スノミ。

若シ亦羸瘦甚シキ患者ニシテ、攝食セル食物ノ吸收著シク侵害セラルヽ時ハ、極メテ消化シ易キ食品ヲ撰擇スルト同時ニ人工榮養品例令ネッスル製小兒粉、「リービッヒ氏液」、「ブーロー」、「ヒギアマ」等ヲ應用スベシ、然レドモ是等多數ノ人工榮養品ハ其効果何レモ皆疑ハシキモノトス。

四、腸管癌腫 Darmkrebs, Carcinoma intestinalis

身體榮養ノ保全ハ本症ニ於テ最モ研究セザルベカラザル問題ニシテ、疾病ノ經過ヲ伸縮セシムルノ動機ハ繫テ榮養ノ盛衰ニアリトス、即チ身體榮養ノ障害甚シケレバ疾病ノ增惡マタ從ツテ甚シク、手術ノ施行モ亦到底見ルベカラザルニ至ルヲ以テナリ、故ニ食養ノ道ハ造次モ忘ルベカラザルモノトス、此目的ニ向ツテ吾人ハ先ヅ患者ノ體力ヲ增スベキ食品、即チ消化シ易クシテ、而カモ滋養ニ富メルモノヲ供給スルヲ要ス、殊ニ吾人ハヨク牛乳ヲ賞用ス、且ツコレニ加フルニ人工榮養品例令「ソマトーゼ」ヲ以テスレバ腸管

蠕動機ヲ亢進シ、兼テ便通ヲ良好ナラシムルニ至ル、其他「ブーロー」「プラスモン」「ヌトローゼ」及ビ「ヒギアマ」ノ如キ何レモ皆賞用スルノ價値アリトス、尙ホ是等ノ榮養品以外重湯、葛湯、鷄卵「ソップ」ノ如キ、スベテ皆良好ノ食品ナリ、其他粥、穀粉糊泥、牛乳粥、細剉セル肉類殊ニ幼鷄及ビ其他ノ柔軟ナル肉類ヲ攝取セシムベシ、或ハマタ魚肉ノ淡泊ナルモノハコレヲ與フルヲ可トス

五、盲腸炎及蟲樣突起炎 Typhlitis u. Appendicitis.

一　盲腸炎 Blinddarmentzündung, Typhlitis.

炎衝症狀ノ存在スル間ハ、常ニ液性食品ヲノミ應用スベシ、故ニ葛湯、重湯、ソップ、牛乳若シクハ鷄卵ノ如キモノヲ投與シ、腫瘍ノ消退スルニ至ル迄コレヲ連用スルヲ可トス、然ル後漸次通常食ニ移リ、其間食養ニ注意シ、便秘ヲ除外シ常ニ正規ノ便通ヲ營マシムルヲ要ス、便秘ヲ除カンガタメニハ、先ヅ食養ニヨリテコレガ回復ニ力メ、次デ緩和ナル藥液ニ依賴スルカ、若シクハ灌腸ニヨリテ便通ヲ正常ナラシムベシ。

二　蟲樣突起炎 Entzündung des Wurmfortsatzes, Appendicitis

局所ノ安靜ヲ以テ治法ノ第一トス

絕食若シクハ節食療法ハ最モ必要ナリ

全身ノ安靜ハ須臾モ欠クベカラザルモノナレドモ、之ト同時ニ局所的靜養即チ腸管ノ安靜ハマタ最モ必要ナル條件トス、而シテ今此腸管ノ安靜ヲ企圖セントスル、ニ當リテハ、患者ヲシテ全ク絕食ノ狀態ニアラシムルヲ可トス、然レドモ實地臨床上是等ノ患者ニ對シテ何等ノ食品ヲ與ヘザルハ、患者及ビ傍人ノ忍ブハ能ザル所往々コレアリ、故ニ吾人ハ常ニ榮養價ニ富ミ而カモ粘膜ニ對シテ何等ノ刺戟ヲ與ヘザルモノヲ供給スルモノトス、然リト雖モ急性ニシテ少シク重症ノ傾アル際ニ當リテハ、二三日間ハ全ク絕食セシムベシ、口渴ニ對シテハ氷片ヲ嚼マシメ、若シクハ冷水ノ含嗽ヲ命ジ、或ハ冷水ヲ浸潤セシメシ布片ヲ以テ口中ヲ拂拭スル等ノ事ヲ實行シ、嘔氣若シクハ嘔吐ニ對シテハ、須ク先ヅ絕食セシメ、氷片ヲ嚼マシムル等ノ事ヲ實行スベシ。

輕症患者ニ食品ヲ投與セント欲スル時ハ、醫ハ常ニ一層ノ注意ヲ以テコレヲ許可スベキモノトス、何トナレバ攝取セル食品ニヨリ益〻病勢ヲ增惡セシメシノ例決シテ少ナカラザレバナリ、此際許可スベキ食品ハ腸管粘膜ニ對シテ全ク無刺戟ニシテ、而カモ榮養價ニ富メル液性食品ヲ以テス、且ツ一時

ニ、多量ヲ與フルナク常ニ少量宛分用セシムルヲ可トス、殊ニ牛乳重湯大麥煎汁、幼鷄肉羹汁(此内ニ卵黄ヲ攪拌シテ投ズルモ可ナリ)其他肉汁ノ如キハ敢テ差支ナキモノトス、然レドモ牛乳ノ如キハ少シク多量ニ過グレバ往々風氣ヲ續發シ局所ノ安靜ヲ破ルコトアルヲ以テ、極メテ少量宛適度ノ加溫ニ於テ與フベシ、發熱及ビ疼痛ノ消散スルニ及ンデハ半熟卵、刺身、牛肉、細割セル牛肉等ヲ與ヘ、少シク時日ヲ經テ粥及ビ麵包ノ少量、馬鈴薯糊泥等ヲ給與シ、漸次柔カナル野菜類ヲ與フルヲ可トス、故ニ茲ニ到達スル迄ハ不消化食品若シクハ刺戟多キ食品ハ嚴格ニ避ケザルベカラズ、

重症ニ陷リタル場合例令穿孔症狀ヲ來セルガ如キ)ニ於テハ食品ノ供給ハ全然之ヲ避ケザルベカラズ、且ツ榮養保全ノ道ヲ講ゼンガタメ往々應用セラル、直腸榮養ノ如キモ時トシテハ患者ノ體動(注腸ノ際若シクハ注腸液ノ排外セラル、際)ヲ來スノ恐アルヲ以テ、ムシロ之ヲ避ケ、唯時ニ生理的食鹽水、若シクハ糖液ノ皮下送致ヲナシ、榮養補給ノ途ニ充ツルコトアルノミ、

本症ハ一旦治癒ニ赴キシ後ト雖モ、往々再發ニ陷リ易キヲ以テ、炎症症狀ノ經過後ニ於テハ、常ニ充分ナル警戒ヲ加ヘザルベカラズ。

同復期ニ至レバ患者ヲシテ身體ヲ安靜ニシ、食養ニ注意セシメザルベカラズ、故ニ先ヅ液性食品若シクハ粥狀ノ食品ヲ以テシ、出來得ル限リ消化シ易ク且ツ刺戟ナキ食養ヲ主トシ、一時ニ多量ヲ與フルナク、少量宛數回ニ分食セシムベシ、故ニ野菜、果實ノ如キハ全然コレヲ廢シ、極メテ消化シ易キモノヽミヲ與フベシ、且ツ最モ注意ヲ要スベキモノハ、日常ノ便通ヲシテ正常ナラシムルニアリ、通常便通ノ正規ヲ計ランガタメニハ食養若シクハ物理的治療ヲ以テスルヲ最良トス。

六、腸管狹窄及腸閉塞 Darmstenose u. Darmverschluss

一腸管狹窄症(慢性腸閉塞症) Darmstenose

食養療法ニ於テ注意スベキ點ハ　一、其部位ニ應ジテ食養ヲ異ニセザルベカラザルコト　二、全身榮養ノ保全ニ對シテ充分ナル補給ヲ來シ得ベキコト　三、腸管自身ニ對シテ決シテ重荷ノ食品ヲ攝取セザルコト等ハ常ニ吾人ノ腦裡ニ措カザルベカラザル事トス。

小腸ノ狹窄ニアリテハ食品ノ多クハ狹窄部ノ前方(即チ口腔ニ近キ方)ニア

リテ永時間滞溜スルガタメニ、容易ニ分解シ、腐敗シタメニ榮養障害ヲ來スヲ例トスルガ故ニ、出來得ル限リ、速カニ狹窄部ヲ通過セシムルノ法ヲ講ゼザルベカラズ、此目的ニ副ハンガタメニハ、可成液性食品若シクハ泥狀食品ヲ撰擇スルヲ可トス、換言スレバ、是等ノ食品ハ、小腸ヲ通過スル間ハ、常ニ液性、若シクハ、半液化性ノ形態ヲ有スル樣、注意シテ調理セザルベカラズ、且ツ醱酵シ易キ食品ハ、斷ジテ之ヲ與フベカラズ、故ニ重湯、粥、牛乳、牛酪若シクハ牡蠣ノ如キハ、良好ノ食品ニシテ、野菜類、諸種ノ香料等ハ、ヨク膨滿ヲ來シ、若シクハ、粘膜ヲ刺戟スルヲ以テ、コレヲ禁ズベク、「ビール」ノ如キモ、亦ヨク醱酵ヲ起シ易キヲ以テ、嚴禁セザルベカラズ。

大腸ノ狹窄症ヲ有スル場合ニ於テハ、食養療法ハ、尙ホ一層困難ナリ、コレコノ部ニ於テハ、腸內容中ノ水分ヲ吸收シ、糞便ヲシテ自然ニ硬固ナラシムルノ作用ヲ有スルヲ以テナリ、故ニ食品ノ茲ニ到達スルヤ、食品ハ其狹窄部ニ於テ、永時間滯溜シ、從ツテ其症狀ノ輕減ヲ見ザルニ至ルベシ、故ニ吾人ハ、狹窄症狀ノ大腸ニ存スル場合ハ、果シテ流動食ノミヲ以テスベキカ、若シクハ固形食品ヲ以テノミスルカハ、畢竟疑問タルヲ免レズ、單ニ液性食品ヲ以テ

スルモ、元來永時間滯溜セザルベカラザル部ナルヲ以テ、狹窄ノ存スルニ當リテハ、尙ホ一層甚シキ分解作用ニ遭遇セザルベカラズ、故ニ液性食品ヲ以テノミ食養トスベカラズ、經驗上、大腸ノ狹窄患者ニ對シテハ、尙ホ普通固形食品ヲ以テシテ、敢テ差支ナキモノトス、唯此際注意セザルベカラザルハ、該食品ノ性質トシテ、多少緩下的作用ヲ帶ベルト、同時ニ過剩醱酵ヲ惹起セザルモノヲ撰擇スルニアリ、故ニ吾人ハ、常ニ混成食餌ヲ以テ之ニ充テ、種々ノ食品ヲ給與ス、例令、牛乳、牛酪、鷄卵、細剉セル肉類、犢牛腦、淡泊ナル穀粉製品、馬鈴薯及ビ、野菜ノ少量ヲ與フベシ、其他粥、柔カナル米飯、焙燒セル食麵麭等ヲ供給スルヲ可トス、殊ニ多量ノ食鹽ヲ用ヒテ調理シタル魚類ハ、比較的ヨク用ヒラル、脂肪ハ、マタ適度ノ量ニ於テ與ヘザルベカラズ、要ハ、尙ホ多少蠕動機ノ亢進ヲ促ガシ、以テ狹窄部ハ、通過ヲ易カラシムルガ如キ食品ヲ撰擇スベシ、此際疼痛ニ對シ、安リニ阿片劑ヲ投與シ、蠕動機ヲ妨グルガ如キハ、決シテ賞スベキノ處置ニアラズ、唯腸管ノ强直性收縮ヲ來セル場合ニ當リテノミ之ヲ與フルヲ許スノミ

上述セル兩者ノ場合ヲ一括スル時ハ、食品ハ、常ニ消化シ易キモノヲ撰擇シ

且ツ糞便形成ノ量ヲ少ナカラシメ、就中液性若シクハ粥狀ノモノヲ賞用シ、一回ニ多量ヲ用ヒズ却ツテ少量ヲ供給シ、而カモ之ヲ多數ノ度ニ於テ投與セシムルヲ以テ策ヲ得タリトス。(腸疾患食養總論參照)

二 腸閉塞症 Darmverschluss.

食養療法ハ殆ンド全ク施スニ策ナキモノトス、通常閉塞ニ陷ル患者ハ多クハ閉塞部ノ上位ニ當リ、內容ヲ以テ充サルルヲ例トスルヲ以テ、モシ吾人ガ口腔ヨリ飲食物ヲ供給スル時ハ、却ツテ其負擔ヲ重カラシメ、症狀ノ增惡ヲ來スニ至ルモノトス、故ニ發病ノ一兩日間ハ吾人ハ決シテ口腔ヨリ食品ヲ攝取セシメザルヲ例トス、從ツテ絕食療法ヲ實行スルノ已ムナキニ至ル、而カモ本症患者ハ多ク皆高度ノ惡心若シクハ嘔吐ヲ來シ、食品ニ對スル慾望ハ全ク缺如スルヲ以テ、該療法ヲ實行スルハ敢テ至難ノ事ニアラズ、然レドモ本症ノ經過數日ニ亘ル時ハ牛乳、鷄卵若シクハ「ペプトーン」溶液ノ滋養灌腸ヲ行ヒ或ハ食鹽水ノ皮下送致ヲ實行シ、體力漸衰ヲ防止セザルベカラズ、且ツ患者ノ多クハ口渴ノ甚ユベカラザルヲ訴フル者多シ、コレ閉塞患者ニ於テハ、腸管粘膜ノ吸收力全ク阻止セラルヽカ、若シクハ減退セラルヽガタメ、組織內ノ水分減少ヲ來シ、加之劇甚ナル嘔吐ニヨリ、水分缺乏ヲ增加セシムルニ歸因ス、故ニカヽル場合ニ遭遇スル時ハ、一方ニ於テ口渴ヲ醫スルト同時ニ他方ニ於テ體內ノ水分不足ヲ補給スルノ途ニ出デザルベカラズ、前者ノ目的ニ副ハンガタメニハ氷片ヲ口中ニ啣マシメ、之ヲ嚥下セシムルコトナク、口內ニ於テ溶解セシメタル後、其溶解液ヲ出サシムベシ、若シクハマタ氷水ヲ以テ口內ヲ潤フシ、或ハ氷水ヲ濕潤セル布片ヲ以テ口內ヲ拂拭スル等、出來得ル限リ口腔內ニ於テ醫渴ノ途ヲ講ズベシ、體內組織間ノ液質補給ニ對シテハ、生理的食鹽水ノ二〇〇乃至二五〇立方仙迷ヲ灌腸料トシ、若シクハ之ヲ以テ皮下送致ヲ實行ス。

七、腸「アトニー」症(腸弛緩症) Atonie des Darmes

腸「アトニー」ノ患者ニ對スル食養ハ便秘患者ニ於ケル食養ニ類似スルモノニシテ、混成食品ヲ與フルヲ主眼トス、故ニ肉類及ビ植物性食品若シクハ脂肪等ヲ適度ニ供給セザルベカラズ、殊ニ植物性食品ヲ適度ニ與フルハ必ラズ缺クベカラザル事トス、依テ以テ腸管粘膜ヲ刺戟シ、從ツテ腸管筋肉ノ作

用ヲ旺盛ナラシムルニ力メザルベカラズ、殊ニ肉類ノ調理ニ當リテハ食鹽ノ多クヲ用フルヲ可トス、其他鹽漬ノ魚類ヲ用ヒ、殊ニ比較的多量ノ植物性食品ヲ攝取セシムルヲ可トス、然レドモ甚シク多量ノ植物性食品ヲ攝取スル時ハ徒ラニ腸管ノ重荷ニ留リ、益〻筋肉ノ弛緩ヲ來サシメ、却ツテ便秘ヲ來スヲ以テ注意スベシ、其他脂肪モ一定度迄必要ナルモノニシテ、就中牛酪ヲ賞用ス、コレ腸内容ヲ滑澤ナラシムルノミナラズ、身體榮養ノ保全上缺クベカラザルヲ以テナリ、牛乳モ亦ヨク用ヒラル、殊ニ牛乳ハ乳糖ヲ有スルヲ以テ腸内容ニ對シ、制腐作用ヲ有スルト蛋白、脂肪及ビ含水炭素ノ配合宜シキヲ以テナリ、然レドモ患者各特異性アルヲ以テ、或患者ハ牛乳ニヨリ却ツテ秘結スルガ如キコトアリ、故ニ此點ニ關シテハ須ラク熟考スベキモノトス其他尚ホ生果若シクハ煮沸シタル果實等モ、食直後ニ於テコレヲ與フルヲ可トス。

八、便秘 Verstopfung, Obstipation

單ニ便秘ノ症狀ヲノミ除去セント欲スル場合ハ、其原因ニ鑑ミ食品ノ撰擇

ヲ怠ルベカラズ、殊ニ所謂常習便秘ニシテ腸管運動機ノ減退ニ因スル場合ニ於テハ、宜シク腸ノ蠕動機ヲ旺盛ナラシムベキ食品ヲ與フルヲ可トス、モシ亦食品ノ攝取少量ナルカ、或ハ無刺戟ナル食品ヲノミ攝取スルガタメ、排便ノ量比較的少ナキ場合ニ於テハ便量ヲ多量ニ形成シ得ベキ食品ヲ供給スルニアリ、故ニ黑麵包、馬鈴薯、葉菜類若シクハ果實等ノ比較的多量ヲ攝取セシムルヲ可トス、然レドモ是等ノ食品ヲ供給スルニ當リテハ、常ニ胃消化ニ顧慮セザルベカラズ、此ノ如キ食品ハ多クハ皆不消化性ナルヲ以テ、頗ル消化器官ノ勞力ヲ要スルモノナルガ故ニ、平常强壯ノ者ニ於テコレヲ實行シ得ルモ、虛弱ノ患者若シクハ纖弱ナル婦女子ニ對シテハ、屢〻熟考ヲ要スル點アルヲ以テ、取捨參酌其宜ニ適ハシムベシ。

便秘患者ニ於テハ、腸管機能ノ亢進ヲ促ガスト同時ニ、身體ノ榮養ニ關シテモ亦充分ナル顧慮ヲ要スベキモノナリ、是等ノ諸點ニ關シテハ一、食鹽ハ多量ヲ含有スル食品若シクハ香料ヲ加味セル調理品ハ攝取ヲ可トス、例令鹽漬ノ魚類腸詰「ハム」其他胡椒或ハ酸味ヲ附加シタル食料等ヲ用フ二、脂肪性食品殊ニ「バタ」ヲ以テ調理セルモノハ頗ル良好ナリ、故ニ麵麭ニ「バタ」ノ

多クヲ塗擦スルカ、若シクハ食品調理ニ比較的多量ノ牛酪(バタ)或ハ脂油ヲ以テスルヲ可トス、然ル時ハ脂肪ハ腸管壁ヲ滑澤ナラシメ、糞便ヲシテ器械的通過ヲ良好ナラシムルニ至ル、**三**、凝膠類、**四**、砂糖ヲ以テ調理セル食品、殊ニ砂糖若シクハ蜂蜜ヲ以テ製シタル穀粉食品及ビコレヲ以テ煮沸シタル果實等ハヨク其目的ニ適フ、**五**、冷水若シクハ炭酸、或ハ植物酸含有ノ飲料ヲ引用スルハ、又大ニ便秘ニ利アリ、殊ニ早朝空腹時ニ之ヲ飲用シ、往々偉効ヲ奏ス、然レドモ氷水ノ飲用ハ直接ニ下痢ヲ來スヲ以テ注意スベシ、其他果實ヨリ製セル飲料若シクハ「リモナーデ」ノ如キモ亦ヨク其効ヲ告グルモノトス。

牛乳ノ飲用ハ所謂個人ノ特異質ニ依リ、其作用ヲ異ニシ或者ハ之ニ依リテ却ツテ便秘スル者アリ、故ニ此點ニ關シテハ常ニ一定ノ個人性素質ヲ顧ミザルベカラズ、然レドモ大多數ニ於テハ多クハ下痢性ニ作用スルモノナリ。

要之本症患者ニアリテハ常ニ植物性食品ノ比較的多量ヲ攝取シ、且ツ上述セル如キ食品ヲ供給スベシ、然レドモ植物性食品ノ甚ダ多量ヲ攝取スル時ハ、徒ラニ腸ヲシテ重荷ヲ負擔セシメ、其結果却ツテ便秘ヲ來スコトアルヲ

以テ注意スベシ。

良好ノ茶、赤酒、柯々柯(チョコレート)ノ如キハ却テ便秘性ニ作用スルモノナルヲ以テ、是等ノ患者ニ對シテハ上述ノ諸品ハ之ヲ禁ズルヲ可トス。

九、下痢 Durchfall, Diarrhoe.

神經性下痢ニ於ケル食養ハ大ナル價値アルモノニアラザレドモ、其他ノ下痢症ニ於テハ食養法ハ甚ダ必要ナルモノトス、殊ニ腸內ニ於ケル醱酵、若シクハ腐敗產物甚シキ場合ニ於テハ、飲食物ヲ一定期間與ヒザルカ、若シクハ節食セシムルノ要アリ、何レニセヨ腸管ヲ刺戟スル食品ハ須ク之ヲ避クルヲ要ス、故ニ食鹽ノ多量ヲ有スル食品、若シクハ胡椒ヲ加味セルモノ、如キ或ハ酸味ノ强キ食品、若シクハ脂肪或ハ糖分多キモノハ之ヲ避ケザルベカラズ、酸乳モ亦之ヲ廢セザルベカラズ、其他未熟ノ酒及ビ麥酒ノ如キハ全然攝取セザルヲ可トス、牛乳ハ人ニヨリ大ニ其効果ヲ異ニシ、或者ハ之ニヨリテ便秘シ、或者ハ却ツテ下痢スルヲ以テ、前者ノ傾向ヲ有スル者ニハ之ヲ與ヒ、後者ノ場合ニアリテハ飲用セシメザルヲ可トス。

肉類ノ攝取モ時トシテ有害ナルコトアリ、故ニ往々肉食ヲ廢棄シテ後、疾病ノ快癒ヲ望ミ得ルコトナキニアラズ

一般ニ下痢患者ニ應用スベキ食品ハ榮養價ニ富ムト同時ニ多少制痢ノ作用ヲ有スルモノヲ以テスルニアリ殊ニヨク應用セラルヽモノハ、諸種ノ穀物類例令重湯、粥、大麥煎汁、小麥粉ヲ糊泥狀ニセルモノ等ハ普通ヨク其用ニ充ツルヲ得ベキモノトス、其他脂肪少ナキ魚肉ノ刺身、若シクハ挽肉ノ如キモ多クハ皆之ニ堪ユ、次デ應用シ得ベキモノハ茶、珈琲、柯々阿ノ如キ、或ハマタ赤酒、苺酒ノ如キハ何レモ多少鞣酸ヲ含有スルヲ以テ飲用ニ堪ユルモノトス、故ニ口渴等ノ存スル際ハ常ニ上記セル如キ飲料ヲ與ヘ、多量ノ水ハ決シテ與ヘザルヲ可トス、或ハ此等ノモノヲ重湯其他ノ穀粉汁ニ入レ溫カナル間ニ飲用セシムベシ、此ノ如クニシテ下痢症狀靜止スル場合ハ、直チニ之ヲシテ通常食ニ移行セシムベカラズ、宜シク漸ヲ以テ固形食ニ至ラシムル可トス、且ツ下痢已ニ止ミタル後ニ於テ、更ニマタ便秘ノ症狀ヲ呈スルガ如キ場合ニ於テハ、コレニ與フルニ下劑ヲ以テスルガ如キハ斷ジテ不可ナリ、故ニ二三日間便通ノ有無ヲ待チ、尙ホ便通ヲ見ザル時ハ、茲ニ初メテ食事ノ調節、電氣、按摩等ノ療法ヲ施シ殊ニ灌腸ニヨリテ排便スルヲ可トス、或ハマタ「グリセリン」坐藥ヲ以テ排泄セシムベシ。

十、直腸ノ疾患 Krankheiten des Mastdarmes

痔核 Haemorrhoid.

痔核ノ食養ハ甚ダ必要ナルモノニシテ、決シテ一時ニ多量ヲ食セズ、却ツテ少量宛數回ニ分用シ、而カモ常ニ滋養價ニ富メルモノヲ供給シ、決シテ多量ハ大便ヲ製出スルモノヲ食トスベカラズ、故ニ黑麵麭、馬鈴薯、葉菜類及ビ木纖維ニ富メル食品ノ如キハ唯其少量ヲ攝取シ、脂肪性若シクハ酸味ノ强キ食品及ビ香料ノ多クヲ含有セル食養ハ之ヲ避クルヲ可トス、酒精飲料ハ全然之ヲ廢シ、若シクハ極メテ少量ニ制限スベシ、珈琲及ビ茶ノ多量ヲ攝取スルモ亦甚ダ不可ナリ、唯脂肪少ナキ牛肉、魚肉若シクハ極メテヨク煮タル野菜ノ少量及ビ熟シタル果實ノ少量ヲ煮テ之ヲ與フルハ賞スベキコトヽス

直腸粘膜ノ炎癰ニ陷リタル場合ハ痔核ト類似セル食品ヲ供給スベシ、唯木纖維ヲ含ム食品、殊ニ核ヲ有スル食品ノ如キハ、ヨロシク制限セザルベカラ

ズ。

直腸狹窄ヲ來セシ場合ニ於テハ、糞便ノ硬度ハ可成泥狀ニ近キ樣ニスベシ、然レドモ直腸癌ノ切除ヲ施ス時ハ、往々肛門括約筋ヲ除去スルヲ以テ泥狀便ハ却テ保持シ難ク、從ツテ硬便ヲ排出セシムルノ策ヲ講ズベキモノトス。

十一、運動神經性腸疾患 Die motorischen Darmneurosen.

一 腸管蠕動不穩症 Die Peristaltische Unruhe des Darmes.

常ニ滋養價ニ富メル多量ノ食餌ヲ供給スルヲ要ス、然レドモ不消化物ノ多量ヲ與ヘ、腸管ヲシテ徒ラニ重荷ヲ負ハシムルコトハ斷ジテ不可ナリ。

二 腸管痙攣及ビ直腸痙攣 Enterospasmus et Proctospasmus.

腸疾患食養總論ニ於テ述ベシヲ以テ就テ見ルベシ。

三 鼓脹 Meteorismus

一般ニ瓦斯含有ノ飲料、若シクハ腸內ニ達シテ容易ニ膨滿ヲ來シ易キ食品ハ、須ラク排斥スベシ、故ニ炭酸水「ビール」「シャンパン」ノ如キ、若シクハ木纖維ノ多量ヲ有スル植物性食品或ハ砂糖及ビ脂肪ニ富ミタル食品ハ一々コレ

ヲ食饌ヨリ除去スベシ、其他新鮮ナル果實、葉菜類、馬鈴薯ノ多量、黑麵麭ノ如キハ、何レモ皆甚シキ膨滿若シクハ醱酵ヲ來スヲ以テ注意スベキ事トス。

十二 分泌神經性腸疾患 Die secretorische Darmneurose

膜樣腸炎（粘液痼痛）Colitis membranacea, Colica mucosa.

食養療法ハ甚ダ必要ナル治法ニシテ、ブォン、ノールデン氏ハ恰モ便秘患者ノ食養ニ於ケルガ如ク、木纖維ニ富ミタル食品ヲ撰定シ、腸管ノ運動機能ヲ亢進スルノ策ヲ取リ、以テ該患者ヲ治癒シ得ベシトシ、ボアス氏ハ全ク之ニ反シ、木纖維ノ少量ヲ有スル食品ノミヲ供給シ、以テ腸管ノ刺戟ヲ避クルニ力メタリ、アインホルン氏ハ初メハ硬固ナル食品ヲ與ヘズシテ、滋養價ニ富メル食品例令牛乳、肉類等ノ多量ヲ攝取セシメ、漸次固形食ニ移ラシムルヲ例トセリ。

十三 寄生蟲病 Die durch Darmparasiten hervorrufenden Krankheiten.

寄生蟲驅除法ヲ行フニ當リテハ、如何ナル食養ヲ以テスルヲ適當ナリヤト云フニ、寄生蟲ノ種類ニヨリ別ニ特殊ノ食養ヲ設クルノ要ナク何レモ同一範型ニヨリテ食養ヲ供シ得ベシ、通常吾人ハ條蟲驅除ニ於ケル食養ヲ基礎トシ、唯十二指腸蟲ノ如キハ更ラニ時日ノ永キヲ要シ多少嚴密ナル食養ヲ攝ラシムルノミ。

吾人ハ通常驅蟲法ヲ施スニ當リテ食養法ヲ三階級ニ分チテ論ズ、即チ前食養 Vordiät、驅蟲食養 Kurdiät 及ビ後食養 Nachdiät コレナリ。

前食養トハ驅蟲劑ヲ投ズル以前ニ攝取セシムベキ食養ニシテ、驅虫食養ハ驅蟲劑服用中及ビ蟲體全ク排出セラルヽニ至ル迄ノ期間ニ用ヒラレ後食養ハ排蟲後ニ應用スベキ食養ヲ云フ。

前食養ハ人ニヨリ其意見ヲ異ニシ、或ハ全ク不必要ナリトシ、或ハ又全然缺クベカラザルモノトス、然レドモ大多數ハ少ナクトモ驅蟲劑ヲ投ズル前日ニ於テ所謂前食養ヲ給スルヲ常トス。

前食養ハ驅蟲前一日乃至二日間全ク淡泊ナル食品ヲノミ供スルヲ例トシ少ナクトモ夕食ハ可成液性食品ニ依ルヲ可トス、吾人ハ少量ノ粥、牛乳、卵及ビ「パン」等ヲ與フ、即チ朝食トシテ牛乳一合、鷄卵一個及ビ「パン」二十匁トシ、晝食トシテ粥六十匁、田麩少量、鷄卵一個牛乳一合トシ、夕食亦之レニ同ジクス、コレ他ナシ可及的腸管ノ負擔ヲ輕カラシムルニカムルニアリ、然ラザレバ驅蟲上困難ヲ覺ユルコト往々コレアリ、驅蟲中ノ食養モ亦大凡コレニ準ズレバ誤ナシ、後食養ハ尙ホ急性若シクハ亞急性胃腸加答兒ニ於ケル食養ノ如クスレバ可ナリ、コレ他ナシ峻烈ナル驅蟲劑若シクハ下劑ニヨリ、多少胃腸粘膜ヲ刺戟シ、加答兒樣ニ傾クノ虞アルヲ以テナリ。

第四章　肝臟疾患ノ食養療法 Diättherapie bei Leberkrankheiten.

一　膽道ノ疾患 Eirkrankungen der Gallenwege.

膽道疾患ノ重ナルモノハ膽道ノ狹窄及ビ閉塞、加答兒性黃疸、胃、十二指腸黃疸、ウイル氏病、傳染性膽管炎、膽囊炎、膽石病等ニシテ何レノ場合ニ於テモ、多クハ皆黃疸症狀ヲ呈スルヲ以テ特殊トス。

膽道疾患ノ大多數ハ初期ニ於テ胃腸加答兒ノ症狀ヲ呈シテ來ルコト多シ、

然ル時ハ通常胃腸加答兒ノ食養ニ從フヲ可トス、然レドモ疾病漸ク進ミ黄疸症狀出現スルニ至レバ、茲ニ初メテ該疾患ニ對スル食養ノ必要ヲ見ルモノトス。

急性ノ胃症狀已ニ經過シタル時ハ、黄疸ニ對シテ最モ注意スベキハ、脂肪食ヲ節減シ、若シクハ禁止スルニアリ、從來膽汁ハ脂肪ノ乳化ニ向ツテ最モ必要ナルモノト信ゼラレタルモ、今日ニ於テハ乳化作用ノ外、別ニマタ吸收ニ參與スルモノナリトノ實驗ヲ得ルニ及ンデ、膽汁ノ生理的意義ハ益々擴大セラルヽニ至レリ、ネンッキー氏 Nencki ノ所說ニヨレバ膽汁ノ缺如セル場合ニ比スレバ、吸收力ハ約二倍乃至三倍ヲ算スト云ヘリ。

含水炭素ハ膽汁ノ存セザル場合ト雖モ殆ント全ク消化ヲ妨害セラルヽコトナク、唯僅カニ其吸收ヲ遲鈍ナラシムルニ留マルノミ、故ニ本病ニ於ケル食餌中最モ重用スベキ食品ナリトス、唯此場合ニ當リテ最モ注意スベキハ木纖維ノ少ナキモノヲ撰ビ、殊ニ腸管ノ刺戟ヲ少ナカラシムルモノヲ撰用スルニアリ、故ニ重湯、粥、焙燒セル白麵麭、ビスケット、煮タル後篩ヲ以テヨク濾シ糊泥狀トセル馬鈴薯、穀粉ヲ肉羹汁内ニ投ジテ調理セル物、アロイロナート（粉末、純粹ノ葡萄糖、乳糖（一食匙ヲ一盞ノ柯々阿湯ニ入ル）其他小兒粉（ギンデルメール）及ビ柔軟ナル野菜ハヨクコレヲ調理シテ與フルヲ可トス。

蛋白食品モ亦腸内ニ膽汁ノ存在ヲ認メザル場合ト雖モ尙ホ含水炭素食品ノ如ク消化ノ障害ヲ見ルコト少ナシ、然レドモコレト同時ニ膵液ノ存在ヲ認メザル場合ニ遭遇スル時ハ、著シク障碍セラルヽモノトス、故ニ黄疸症狀ヲ招來セル場合ニアリテハ、急性加答兒ノ時期ヲ經過シ、若シクハ胃腸加答兒ヲ伴ハザル膽道閉塞或ハ狹窄ノ存スル場合ニ於テハ、須ラク含水炭素トヽ共ニ蛋白食品ノ攝取ヲ奬勵スベキモノトス、故ニ柔軟ナル肉類殊ニ犢牛肉、鷄肉、鳩肉其他野禽等ハ最モ賞用スベキモノトス、然レドモ蛋白質ノ量多キニ過グル時ハ、往々腸管内ニ於ケル腐敗現象甚シキニ至リ、却テ身體榮養ノ上ニ關シ、害毒ヲ來スニ至ルコトアルヲ以テ注意セザルベカラズ。

元來、黄疸ニ陷レル患者ハ決シテ一樣ノ症狀ヲノミ呈スルコトナキヲ以テ、食養ノ撰定ハ決シテ一概ニ論ズル能ハズ、例令アル黄疸患者ハサシタル苦痛ヲ訴フルコトナクシテ經過スルモ、アル患者ハ著シク衰憊ノ狀ヲ呈シ、體量ノ減少甚シキヲ見ルニ至ルガ如キ、又アル場合ニ於テハ醫ノ言ニ從ハズ

シテ多量ノ食品ヲ攝リ、而カモ榮養狀態ノ佳良ヲ見、又アル場合ニ於テハ極ノテ攝食ヲ倦忌スルガ如キ、等シク黃疸ノ患者ト雖モ身體運用ノ點ニ於テ大ナル差等ヲ見ルニ至ルモノトス、コレ必竟患者ノ自覺的症狀、年齡、已往症、體格、消化器系統ノ狀態ニ關シ、且ツ最モ疾病局所ノ狀態ニ歸因スルモノナラント信ズ。

食養療法ヲ施スニ當リテハ、常ニ患者ノ排便ニ注意シ、且ツ其便色ニ向ツテ一層ノ注意ヲ拂ハシメザルベカラズ、通常膽道ノ輕度ノ侵害若シクハ狹窄狀態ノ存スル場合ハ比較的多量ノ膽汁ヲ含有ス、然レドモ亦黃疸甚シキニ拘ラズ多量ノ膽汁ヲ便中ニ混在セシムルコトアリ、重症ニ趣ク時ハ其色全ク灰白色陶土樣ナリトス。

注意。 近時盛ンニ唱導セラル、肝臟ノ溫損食養 Leberschonungsdiät ハ、何レモ皆肝臟ノ生理的事實ニ顧ミ、疾病ニ陷レル肝臟ヲシテ其官能ヲ成ルベク減弱セシメザルニ力ムルニアリ、理論上病的肝臟ノ勞ヲ少ナカラシメンガタメニハ、患者ヲシテ饑餓狀態ニアラシムルヲ最良トス、何トナレバ食品ノ供給不充分ナルニ從ヒ、膽汁若シクハ「グリコーゲン」形成及ビ尿素ノ生成ハ從

肝臟疾患ノ食養ハ腸管官能ヲ圓滑ナラシムル食養ニ負フ所多シ

ツテ減少シ、肝臟ノ勞スル所少ナキニ至レバナリ、然レドモ此ノ如キ饑餓狀態ニ近ツカシメント欲セバ、患者ノ全身榮養ヲ阻害セザレバ到底能ハザル事ニ屬ス、從テ節食若シクハ饑餓療法ヲ行ヒ得ルハ唯急性ノ少時期ニ限リ、黃疸若シ永續スルニ至ル時ハ、却ツテ有害ノ食養タルヲ免レズ、故ニ理論上饑餓療法ハ到底本來ノ目的ヲ達スルコト能ハザルモノナリ、タメニ吾人ハ該器官ノ官能ヲ害セザル範圍ニ於テ、必要ナル食品ヲ給與シ、過剩ノ勞力ヲ費サシメザルニ力ムルヲ上策トス、實際ニ於テハ肝臟疾患ニ對スル食養ハムシロ腸管ノ消化、若シクハ吸收ノ如何ニ關シテ顧慮セザルベカラザルコト最モ多キモノトス、故ニ直接ニ肝臟ヲ刺戟スル酒精其他ノ食料ヲ嚴禁スルト同時ニ適當ノ食品ヲ選定シ、腸管官能ヲ圓滿ナラシメ、從テ新陳代謝ノ妙機ヲ滑澤ニシ、肝臟ノ勞力ヲ少ナカラシムルヲ以テ食養ノ主眼トセザルベカラズ、要スルニ肝臟疾患中黃疸症狀ヲ呈セル急性胃加答兒ノ時期ヲ除ケバ、牛乳ハ最モ適應セル食品ナリトス、故ニ吾人ハ常ニコレヲ以テ肝臟疾患ニ於ケル食養ノ基礎トセザルベカラズ。

吾人健康者ガ一日ニ要スル溫量(食品ヨリ來ル)ハ日本人ニ於テハ平均二千

四百乃至二千五百「カロリー」ニシテ、平均二千四百五十「カロリー」ヲ算セバ充分ナリトス、且ツ之レニ對スル食品ノ割合ヲ示セバ

蛋白	脂肪	含水炭素	溫量（カロリー）
九六—一〇〇瓦	二〇瓦	四五〇瓦	二四二四—二四四五

ナリトス、故ニ今上述ノ二千四百五十「カロリー」ヲ生ゼシメンガタメ、全ク牛乳ニノミ據ラント欲セバ三「リーテル以上ヲ要スルモノトス、牛乳ノ平均成分ハ大略百瓦中ニ於テ、蛋白質三、五瓦、脂肪三、五瓦、含水炭素四、五瓦ヲ含有スルヲ以テ、今假リニ二「リーテル」(即チ約一升)ヲ攝取ストセバ脂肪及ビ蛋白質ハ各七〇瓦ニシテ、含水炭素ハ約九十瓦ヲ含有シ、全溫量千三百乃至千三百五十「カロリー」ヲ產スルニ至ルベル、此ノ如クンバ患者ノ榮養ハ決シテ充分ナリト云フヲ得ズ、タメニ日ニ羸瘦スルニ至ルベシ。且ツ本症ニ於テハ脂肪ノ吸收不充分ナルヲ以テ、約其二分ノ一乃至三分ノ二ヲ失フトセバ、溫量ニ於テ三百三十乃至四百五十「カロリー」ヲ減ズルノ理ナリ、故ニ其眞價ニ於テハ九百乃至千「カロリー」ヲ算スルニ過ギズ、從テ充分ナル溫量ヲ得ンガタメニハ約千五百「カロリー」ヲ追送スルニ力メザルベカラズ、而シテ此追送スベキ溫量ハ可成之ヲ脂肪少ナキ食量若シクハ脂肪ナキモノヨリスルヲ可トス、加之均シク牛乳ヲ與フルトスルモ、全乳ノ代リニ脂肪ヲ脫減セル牛乳ヲ與フルニ力ムルヲ可トス、然ル時ハ其含有成分ハ大約蛋白三、三脂肪一、含水炭素四「プロセント」トナリ二「リーテル」中ノ溫量ハ七百八十「カロリー」トナル故ニモシ二、五「リーテル」ヲ攝取スル時ハ、其溫量ハ約九百七十「カロリー」ヲ生ズルニ至ルベシ、從テ其他ノ榮養ハコレヲ蛋白若シクハ含水炭素食品中ヨリ仰グヲ可トス、今假ニコレニ加フルニ麵麭二百五十瓦乃至三百瓦ヲ與フル時ハ、六百四十乃至七百七十「カロリー」ヲ得ベク、同量ノ粥(但シ白米一合ニ水五合ヲ以テ製セシモノ)ヲ以テハ僅カニ百七十乃至二百「カロリー」ヲ得ベシ、米飯ヲ以テ之ニ代フル時ハ三百四十乃至四百二十「カロリー」ヲ得ベシ、故ニ前述ノ脫脂セル牛乳二「リーテル」ト麵麭二百五十瓦乃至三百瓦ヲ合算スル時ハ約千四百二十乃至千五百五十「カロリー」トナル、モシ又二「リーテル」半ノ牛乳ヲ以テセバ、千六百二十乃至千七百五十「カロリー」ヲ算スルニ至ルベシ、而カモ此場合ニ於テハ百瓦以上ノ蛋白質ヲ攝取セルモノナルガ故ニ、病者ノ溫量供給ヲ約二千「カロリー」(ダニレウスキー氏等ノ實驗ニ徵スレバ精神

的及ビ肉體的勞働ナク靜息セル人ニ於ケル生理的溫量ノ最低度ハ歐人ニ於テハ二千〇九十一「カロリー」ナリト云フニ準據ス)トスレバ尙ホ五百カロリー」內外ノ溫量必要ニシテ、而カモ尙ホコレヲ蛋白、脂肪ニ仰グヲ要セズ殆ント全部ヲ含水炭素食品ヨリ要求スルヲ可トス、コノ場合ニ於テ最モ恰當セルハ乳糖ナリ、今モシ乳糖ノ四十乃至五十瓦ヲ與フルトセバ約百六十乃至二百「カロリー」ヲ生ズルヲ得ベシ、而シテ乳糖ハ常ニコレヲ牛乳中ニ混ズル時ハ患者ハサシタル苦痛ヲ感ゼズシテ比較的容易ニ飲用シ得ルモノナリ、然レドモ乳糖ハ其價甚ダ廉ナラザルヲ以テ、コレニ代フルニ三乃至四食匙ノ麥芽越幾斯ヲ以テスルコトアリ、然ル時ハ尙ホ百五十「カロリー」ヲ生ズルヲ得ベシ、鷄卵モ亦時ニ本病患者ニ用クルヲ得ルモノニシテ一二個ハ之レヲ許可シテ可ナリ、然レドモ比較的多量ノ脂肪ヲ含ムヲ以テ甚ダ賞用スベキモノニアラズ、通常一個ノ卵ハ約七十「カロリー」ヲ生ズルヲ以テ、比較的榮養價ヲ有スルモノナリ、故ニ殘餘ノ食品ニシテ脂肪ノ量甚シカラザル場合ハ、コレヲ補足シテ與フルハ敢テ妨ナキモノトス

今左ニ之ガ食品表ヲ示ス

品名	分量	溫量
牛乳（脫脂）	二—二、五「リーテル」	六八〇—八七〇「カロリー」
白麵包（若クハ米飯）	二五〇—三〇〇瓦 二五〇—三〇〇瓦	五六〇—六七〇「カロリー」 三四〇—四二〇「カロリー」
乳糖	四〇瓦	一六〇同上
鷄卵	二個	一四〇同上
麥芽越幾斯	二—三食匙	一一〇同上
		一六三〇—一九五〇「カロリー」

白麵包若クハ牛乳ノ一部ニ代フルニ米飯ヲ以テシ、若シクハ粥ヲ以テシ、或ハ又穀粉等ヲ以テスルヲ得ベシ、例令馬鈴薯粉、麥粉、「タピオカ」粉、玉蜀黍粉等ヲ粥狀トシテ投與スルニアリ、又上述セル穀粉類ヲ牛乳ト合シテ粥狀トシ、若クハ「リービッヒ」氏肉越幾斯ト水トヲ以テ粥狀トシテ與フルモ亦可ナリ。其他脂肪少ナキ魚肉類ハ煮若シクハ燒キテ食養ニ供スルヲ得、然レドモ「ソースヲ用ヒズ肉羹汁ヲ以テ食スルヲ可トス、此等ノ肉類中賞用シテ可ナルモノハ牛肉、犢牛肉、鷄肉、鳩肉、鴫、鵝等ニシテ魚類ニ於テハ鱈、梭魚、比目魚、鱸等ナリ、然レドモ家鴨、鵞、豚肉、羊肉、腦、舌、腎臟、肝臟等ハヨロシカラズ、肉類ノ調

理ハ極メテ少量ノ脂肪若シクハ牛酪ヲ以テスルニアリ。

第二例

食品名	分量	温量
牛乳（脱脂）	一、五リーテル	五八八カロリー
米飯（二回分）	二五〇—三〇〇瓦	三六〇—四三〇同上
砂糖	四〇瓦	一六〇同上
鷄卵	二個	一五〇同上（脂肪ヨリ九〇カロリーヲ生ズ）
比目魚	一〇〇瓦	七四同上
鷄肉	一〇〇瓦	八五同上
馬鈴薯	五〇瓦	九四カロリー
白麵包（二回分）	一二〇瓦	二七〇同上
合計		一七八一—一八五一

以上二例ニ於テ示セルガ如ク、休息セル場合ハ健康者ト雖モ、約二千「カロリー」ヲ算スレバ可ナルガ故ニ本症患者ノ如キハ上述ノ表ニヨリ大略ノ食養ヲ決定シ得ベシ。

牛乳ハ比較的多量ニ算入セルモ、常ニ遠心器裝置ニヨリ脂肪ヲ去リ脱脂乳トシ、且ツ其量多キヲ以テ主食時ニ適當量ヲ與ヘ殘餘ノ量ハ間食トシテ與フルヲ可トス、故ニ一日數回ニ分用セシムルヲ可トス、又此等ノ患者ハ往々肉食ニ倦厭スルガ故ニ時々之ニ代フルニ牛乳、白麵麭、米飯若シクハ他ノ含水炭素食品ヲ以テスベシ、其他柔軟ナル野菜類ハ之ヲ與ヘテ不可ナキモノトス。

嗜好品ハ刺戟强キモノハ之ヲ避クルニ力メザルベカラズ、喫煙ハ少量ニ制限シ胡椒、唐辛、芥子、「ソース」ハ全ク禁ズルヲ要ス、殊ニ酒精飲料ハ最モ注意スベシ、果實ハ唯脱皮、脱核シテヨク煮沸シタルモノヲ用フルヲ可トス、林檎、苺、梨ノ如キハ何レモ一旦煮タルモノヲ與フベシ、珈琲、茶ノ如キモノモ亦許可シテ可ナリ。

膽石症 Gallensteinerkrankungen, Cholelithiasis,

近時ナウニーン氏膽石症ノ發生ニ就テ其二原因ヲ列擧シ

一、腸管ヨリ微菌ノ侵入スルト　二、同時ニ異常ノ膽汁鬱積ニヨリ膽囊及ビ

膽道ニ加答兒ヲ來シ以テ膽石ヲ形成スト云ヘリエレット及ビストルツ氏ノ廣汎ナル實驗モ亦此說ニ一致シ、今日大多數ノ學者ハナウニーン說ヲ信ズルモノナリ。

膽石ノ由來上述ノ如クナルヲ以テ、吾人ハ之ガ食養ヲ施スニ當リ、生理的觀察ト臨牀的實驗トニヨリ、左ノ法則ニヨリ攝食セシムルヲ可トス

一　膽囊及ビ膽道ノ加答兒ハ腸管ヨリ由來スルコト多キヲ以テ腸管ニ對シテ有害ナルモノヲ與ヘザルニ力ムベキモノトス。

二　食事ノ度數ハ少ナカラザルヲ要ス、可成頻回ニ投與シ以テ膽囊ノ排泄ヲ充分ナラシムルニ力ムベシ（フレリッヒス氏）コレ即チ攝食セル食品腸管ニ至レバファテル氏乳頭ヲ刺戟シ同時ニ膽囊驅逐力ノ刺戟トナルガ故ナリ、且ツ毎日就眠前及ビ毎早朝起床時直チニ茶、牛乳、礦水若シクハ「ビスケット」ハ如キモノヲ攝取スルヲ可トス。

三　液質ノ攝取ハ少量ニ制限スルヨリハ比較的多量ニ與フルモ妨ナシ、且ツコレニヨリテ膽汁ノ濃度ハ稀釋セラルルモノニアラズシテ而カモ排泄ヲシテ充分ナラシムルモノナリ（ストラウス氏）。

四、食品ハ尙ホ蛋白、脂肪及ビ含水炭素中ヨリ撰擇シ、個人ニ必要ナル分量ヲ攝取セシムルヲ可トス、然レドモ過食、過勞及ビ香料、酒精等ノ濫用ハ注意スベシ。

五、便通ノ正規ハ造次モ忘ルベカラズ、故ニ食養ト同時ニ藥品若シクハ礦泉利用ニヨリ一日一二回ノ便通ヲ期スベク、同時ニ入浴モ亦血液循環及ビ蠕動ニ影響スルヲ以テ許可シテ可ナリ。

本來ノ食養ニ關シテハ學者尙多端ノ說ヲ持シ、必ズシモ一定セズ例令ハルレー氏ハ脂肪及ビ含水炭素食品ヲ避クルヲ可トセリ、コレ畢竟膽汁內ノ「コレステリン」量ヲ增加スレバナリト、ヅチャルダン、ボーメッツ氏等ハ全ク之ニ反シ、植物性食品ヲ賞用シ、且ツ脂肪ハ膽汁分泌ヲ促ストシ、尙ホ其用フベキヲ唱導セリ、野獸、魚類、貝類等ハ容易ニ腐敗シ易ク、且ツ有毒物質ヲ生ジ、膽道ヲ刺戟ストシテコレヲ否定セリ、ホッフマン氏ハ實際ニ於テ牛乳療法ハ膽石症狀ヲ增シ、肉食ハコレヲ減少スル場合多シトシ、ブシャルダー氏ハ而カモ多量ノ牛乳飲用ヲ唱導セリ、故ニ其何レヲ是トシ、何レヲ非トスルカ殆ント決定スル所アラザルモノトス。

スターデルマン氏ハ左ノ食品ハ肝臓ノ官能ヲ障害シ膽石ヲ溶解スルノ力少ナキヲ以テ禁ズルヲ可トスト云ヘリ。

一、植物性油、鰻、豚脂、鮭、鯖、鮪、「サーデン」(鰯ノ一種)、にしん、乾酪、野猪、其他、脂肪ノ多クヲ夾雜スルモノ。

二、甚シク鹹味ヲ帶ビタル燻製品、腸詰、殊ニ肝臓腸詰、乾大口魚、及ビ香辛食物等。

三、甘味ハ甚ダシキモノ、糖菓、糖麵麭等。

四、淡泊ナラズ、且ツ膨滿ヲ來サシメ易キ野菜類、例令葉菜類、黄又ハ綠色蔬豆、隱元豆、玉葱、胡瓜等。

五、強烈ノ酒精飲料、例令「ウィスキー」、芭蕉「シナップス」等。

上述セル如クスターデルマン氏ハ脂肪ノ含量甚シキモノ、及ビ糖分ニ富ムモノ等ハ、可成コレヲ避ケ、スベテ淡泊ナル食品撰定ヲ主張セリ、且ツ氏ノ經驗ニヨレバ、食品ノ何タルヲ問ハン、ヨリハムシロ其量ノ多少ニヨリ疾病ニ增減ヲ來スト云ヘリ、加之患者自己ノ經驗ニ徵シ、取捨スベキヲ適當トストセリ。

膽石症ハ時ニ極メテ永時日ノ經過ヲ取ルコトアルヲ以テ發作少ナキ間ニ於テハ、充分ナル榮養ヲ攝リ、以テ身體衰憊ノ悲運ヲ避ケ、力メテ榮養增進ヲ計ラザルベカラズ、故ニ醫ハ常ニ充分ナル食養ヲ供給スルニ力メ白(少ナ蛋クモ九十瓦)、脂肪及ビ含水炭素食品ヲ適當ニ混成シテ與ヘザルベカラズ。

クラウス氏ハ左ノ如キ食養ヲ規定セリ、

朝食(一)　一盞ノ茶、若シクハ珈琲、少量ノ牛乳及ビ砂糖、「ビスケット」。

朝食(二)　一乃至二個ノ卵、若シクハ少量ノ冷肉。

晝食　鮭及ビ鰻ヲ除キタル魚、牛肉(「ソース」ヲ用ヒズ)、綠色ノ煮タル野菜類糊泥狀馬鈴薯、煮タル果實(砂糖ヲ加味セズ)、飲料トシテハ水、一二盞ノ赤酒、一杯ノ麥酒(炭酸含有ノ飲料ハ適應セザルコト多シ)

夕食　冷又ハ溫肉、茶、赤酒又ハ麥酒。

麵包ノ量ハ一日一五〇—二〇〇瓦ヲ限リトス、且ツ甚ダ衰弱セル患者ハ少量ノ牛酪、少量ノ肉類若シクハ之レニ代フルニ米飯等ヲ可トス。

要スルニ膽石症ニ於テハ、古來幾多ノ研究者其食養ニ心ヲ用ヒシト雖モ、今

日尚ホ明カナル規定ヲ設クル能ハザルモノナリ、故ニ吾人ハ前述セル如ク種々ノ法ヲ利用シ、以テ患者ニ接セザルベカラズ、且ツ腸管ニ於ケル消化作用ハ屢々膽石症ニ關係スルガ故ニ、腸内消化ヲ圓滿ナラシメ可成淡泊ナル食品ヲ給スルヲ可トス。

患者ニ亞爾加里含有ノ飲料ヲ與フルハ、臨床上好果多キモノナルヲ以テ賞用スルヲ可トス。

膽石症ハ其病型甚ダ複雜シテ現ハルヽヲ以テ、一樣ナル榮養方針ヲ指定スルコト難シ、モシ黄疸ノ症狀顯著ナレバ前述セル黄疸ノ食養ニ依賴シ、發熱甚シキカ若シクハ其他ノ症狀著シキ時ハ、何レモ皆臨機ノ處置ニ出テザルベカラズ、危險症狀ノ脅嚇スル時(例令肝臓膿瘍、穿孔其他)ハ全ク食養ニ顧ルノ暇ナク、外科的手術ノ必要ヲ見ルニ至ルガ如キコトアリ。

二、肝臓疾患 Krankheiten der Leber.

一、慢性肝臓間質炎 Hepatitis chronica interstitialis.

甲、肝臓硬變症 Lebercirrhose

肝臓硬變症ノ初期ニ於テハ全身榮養ハ比較的冒サレザルモ、疾病漸次增進スルニ從ヒ、多ク皆門脈系ノ鬱血ヲ招來シ、胃腸加答兒ヲ惹起シ、從テ諸官能ノ不平均ヲ來シ、食慾ハ全然減退シ、患者ハ日ニ僅少ノ榮養品ヲ仰グニ止マルヲ以テ、終ニ榮養不良ニ陷リ、而カモ比較的速カニ羸瘦ヲ呈スニ至ルモノトス、食品中蛋白質ハ多クハヨク吸收セラレ唯强度ノ下痢ヲ發スル時ニハ其一五—二〇「プロセント」ハ全ク吸收ヲ妨害セラルヽモノナリ、脂肪ハ黄疸症狀ノ存スルコトナク、膽汁ノ充分腸管内ニ流注セラルヽ際ニ於テハ其吸收良好ナリ、含水炭素食品ハ就中最良ノ吸收ニ與カルモノトス。

上述ノ理ニヨリ吾人ハ常ニ含水炭素食品ヲ與フルヲ以テ最良ノ策トシ、次テ蛋白及ビ脂肪ヲ供給スルヲ可トス、然レドモ茲ニ注意スベキハ、本症ノ原因最モ多ク飲酒ニ存スルコトナリ、故ニヨク酒客ニ來ル、從テ此ノ如キ患者ニ遭遇セバ、須ク先ヅ酒精飲料ヲ絶對ニ禁止セシムルヲ可トス、然レドモ酒客ニ對シ一時ニ之ヲ中絶セシムル時ハ、往々速カナル脱力ヲ來スノ虞アルヲ以テ、漸ヲ以テ之レガ廢棄ヲ計ラザルベカラズ。

肉類ヲ投與スルハ一ハ患者ノ意志ニヨリ、一ハ消化ノ如何ニ顧ミ、尚ホ且ツ

肉類ノ種類ニ注意スルヲ要ス、患者モシ肉類ヲ欲シ、コレガ攝取ニ堪ユル時ハ須ラクコレヲ供スベシ、然レドモ肉類ハ腸內消化ノ障害ヲ來セシ際、殊ニ膽汁ノ腸內ニ流注スルコトナキ時ハ速カニ腐敗ニ傾キ、從テ有毒素ヲ生成シ肝臓ニ吸收セラレ、茲ニ該器官ノ官能ヲ障害スルニ至ルヲ以テ、可成コレヲ制限スルヲ要ス、且ツ腸內ニ於ケル腐敗ノ程度ハ肉ノ種類ニヨリテ大ニ差アリ、而シテ此ノ如キ場合ニ於テ比較的賞用スベキモノハ犢牛肉、鷄肉等ニシテ、禁忌スベキモノハ魚肉、野獸、乾酪、軟體魚屬ノ肉ナリ、肉羹汁モ可成脂肪ヲ去リタルモノヲ飲用スベシ、肉汁ハ加里鹽類ヲ含有スルコト比較的多キガタメ肝臓ノ「グリコーゲン」形成ヲ妨グルノ虞アルヲ以テ與ヘザルヲ可トス、而シテ患者ノ多數ハ往々肉食ヲ嫌忌スルコトアリ、且ツ該患者ノ胃液ハ往々減酸性ニ傾キ、而カモ甚シキニ至リテハ全ク無酸ナルコトアリ(但シ之ト反對ニ過酸性ナルコトアルヲ記憶スベシ)。

佛國ニ於テハ肝臓硬變症ニ最モヨク含水炭素食品ヲ賞用ス

含水炭素食品ハ大多數ノ患者之ヲ好ミ、而カモ常ニ其淡泊ナルモノヲ得ント力ムル者多シ、殊ニ佛蘭西ニ於テハ、肝臓硬變症ニ於ケル食養療法中植物食品ハ最モ適應セルモノナリトシ、盛ンニ之ヲ賞用ス、コレ含水炭素食品ハ

肉類ヨリ生ズル有毒物質ヲ抑壓スルノ作用ヲ生ズルモノナリトノ思想ヲ有スルニ依ル、然レドモ植物性食品ヲ以テ身體榮養ヲ增進セシメント欲セバ、頗ル多クノ量ヲ以テセザルベカラザルヤ論ナシ、加之一旦疾病ニ陷リタル虛弱ノ胃及ビ腸ハ到底其任務ヲ完フスルコト難キニ至ルベシ、故ニ吾人ハソノ補助トシテ牛乳ヲ用フルヲ可トス、而カモ牛乳ハ植物食品ヲ攝取スルニ當リテ有力ノ補佐タルノミナラズ、而カモ亦有力ナル食養品ナリトス。

含水炭素中食養ニ適當ナルハ、其味淡泊ニシテ木纖維ニ乏シク、容易ニ消化シ易キモノヲ以テスルヲ可トス、就中馬鈴薯、白麵麭(必ズ燒キテ與フベシ)、乳糖(牛乳又ハ柯々阿中ニ入ル)、米飯、粥、穀粉糊泥、煮タル果實、天門冬、花椰菜、波蔭草等ノ如キ即チ之ナリ。

牛乳ハ胃腸器官ヲ刺戟スルコト少ナク、且ツ榮養分ノ抱合極メテ理想的ナルヲ以テ、最モ賞用ニ値スルモノナレドモ、單ニ牛乳ノミヲ以テ榮養保全ヲ全フスル能ハザルヲ以テ、吾人ハコレニ加伍スルニ含水炭素、肉類若シクハ鷄卵等ヲ以テスゼンモラ氏ハ一日二乃至四「リーテル」ノ牛乳ヲ以テ其絕對食養トシ、以テ治癒ヲ企テシト雖モ、患者ノ精神的倦忌ハ、到底コレガ飲料ニ

堪ユル能ハザルコト多シ、從テ牛乳ニ代フルニ牛酪乳ヲ以テスルコト往々之アリ。

脂肪ハ特別ニ之レヲ患者ニ與フルノ要ナク、唯食物調理ノ際ニ用フル量ト肉類其他ノ食料ヨリ來ルモノヲ以テ充分ナリトス。

肉類ヲ用フル代リニ膠質含有ノ食品ヲ與フルハ最モ適當ナル方法ニシテ犢牛脚、ちよう鮫ノ浮胞ヨリ製セルモノヲ用フ、且コレヲ以テ肉凝膠ヲ製シ若シクハ葡萄糖等ヲ入レテ食スルヲ可トス。

肝臓硬變症ニ禁ズベキ食品

肝臓硬變症ノ患者ニ禁ズベキ食品ハ、甚シク脂肪ニ富ミタル食品若シクハ甘味ノ著シキ物、及ビ香辛ハ甚シキモノ等トス、就中香料ノ多クヲ含有スル物ヲ常用スレバ、往々硬變症ノ原因ヲ醸スニ至ルベシトノ說アルニ於テハ、尙ホ一層注意スルヲ要ス、加之コレニヨリ病メル胃腸ノ粘膜ヲ刺戟シ、益々衰弱ニ陷ラシムルハ決シテ賞用スベキニアラザレバナリ。

乙、肥大性肝臓硬變症 Hypertrophische Lebercirrhose.

萎縮性硬變ト異ナリ、肝臓ハ死ニ至ルマデ增大スルヲ例トス、且ツ肝臓ノ脈

大ト共ニ黃疸症狀ヲ發スルモノナルヲ以テ、黃疸ト萎縮性硬變トノ食養ヲ併用スルヲ可トス、故ニ脂肪食ハ黃疸症ト同ジク常ニ排除スルヲ可トス、且ツ本病ハ前者ノ如ク榮養障害ヲ來スニ至ルノ經路殆ント同一ナルヲ以テ其食養ハ前者ニ則ルヲ可トス、此場合ニ於テモ亦牛乳ヲ以テ主要ナル食養品トス、唯黃疸ヲ伴フガ故ニ脫脂乳ヲ應用スベキモノトス。

丙、膽汁性肝硬變症 Biliäre Lebercirrhose.

本病ハ加答兒性黃疸、膽石症、腫瘍其他ノ疾患ニ因シ、膽汁ノ腸管ニ至ルヲ妨グラレ、膽道ニ鬱積ヲ來スモノニシテ、永續スル時ハ肝細胞ハ萎縮若シクハ死滅シ、結締織增殖ヲ來スニ至ル、故ニ續發性膽汁性硬變ト云フヲ至當トス。

原因ニ顧ミ黃疸ノ原因ヲ去ルニ力メ、食養トシテハ黃疸及ビ膽石症ニ於ケルガ如クスベシ。

二、急性黃色肝臓萎縮 Acute gelbe Leberatrophie.

(汎發性急性肝臓實質炎) Hepatitis parenchymatosa acuta diffusa.

本病ハ稀有ノ疾患ニ屬シ、肝細胞ノ全ク破壞セラルヽモノナリ、原因ハ今尚ホ不明ナレドモ、或ハ中毒ノ如ク、若シクハ一種ノ傳染病ノ如キ觀ヲ呈ス。

通常本病ノ初期ニ當リテハ胃腸ノ症狀ヲ來シ、食思缺乏、嘔吐等ヲ招來シ恰モ急性胃腸加答兒ノ症狀ヲ呈スルヲ以テ、食養モ亦初期ニ於テハ胃腸加答兒ニ於ケルガ如クスルヲ可トス(胃腸加答兒ノ食養參照)、然レドモ本症ハ續デ黄疸ヲ發スルヲ例トスルヲ以テ、常ニ脂肪食品ヲ禁ズベキハ當然ナリトス、且ツ第二期ニ至レバ諸症狀出現シ神經症狀著シク、肝臓縮小スルニ至ルモノトス、此時期ニ到達スレバ食養ハ常ニ液性食品ヲノミ撰擇シ、固形品ハ全ク之ヲ避クルヲ可トス、嘔氣ヲ催ス時ハ冷却セル茶、若シクハ炭酸水等ヲ與ヘ、或ハ冷カナル牛乳、又ハ氷水中ニ赤酒ヲ混和シテ與フ可シ、如此ニシテ幸ニ症狀少シク減退シ、黄疸モ亦多少褪色シテ、便中膽汁色ヲ有スルニ至レバ、少許ノ脂肪ヲ許可シ、おもゆ、葛湯、粥、麺麭若シクハ少許ノ「ビスケット」等ヲ許可シ、之レニ加フルニ牛乳及ビ肉羹汁ヲ以テスベシ。

三、肝臓微毒、脂肪肝、粉質肝、肝臓膿瘍及ビ肝臓包蟲腫 Lebersyphilis, Fettleber, Amyloidleber, Leberabscess und Leberechinococcus.

此等ノ諸疾患ニ於ケル食養療法ハ、敢テ大差ナキヲ以テ今之ヲ一括シテ述ベント欲ス。

元來臨牀上脂肪肝ヲ決定スルハ至難ノ事ニ屬シ、容易ニ決定シ難キコト多シ、肝臓微毒、肝臓膿瘍及ビ包蟲腫ノ如キハ診斷ヲ下シ得ルモ、食養トシテ特ニ大ナル注意ヲ拂フノ要ナク、唯臨牀上ノ症狀ニ省ミ前條諸疾患ニ應用シタルモノヲ適用スルニアリ。

脂肪肝ハ諸種ノ原因ニヨリテ來ル、殊ニ脂肪若シクハ澱粉ニ富メル食品ヲ多量ニ攝取シ、運動不足ナル者ニ多ク、其他又ヨク酒客若シクハ閉經後ノ婦人ニ來ルコト往々之アリ、而シテ本病ノ多クハ脂肪質ノ者ニノミ來ルニアラズ、時ニ比較的羸瘦セル貧血患者、白血病若シクハ惡性貧血ノ患者ニ來ルコトアリ、故ニ吾人ハ脂肪肝ノ食養ヲ論ズルニ當リテハ常ニ其原因ニ顧ミ

ザルベカラズ。

要スルニ酒客ニ對シテハ全ク飲酒ヲ禁ゼザルベカラズ、コレ酒精ヲ用フル時ハ體内ノ酸化作用減少シ、脂肪ノ燃燒ハ制限セラレ、從ツテ肝臓内ニ多量ノ脂肪蓄積ヲ見ルニ至ルヲ以テナリ、且ツ含水炭素ノ多量ヲ攝取スルモ亦脂肪ノ沈着ヲ來ス所以ナルヲ以テ、之レマタ制限スルノ要アリ、故ニ該患者ニ對シテハ常ニ蛋白ヲ多ク用ヒ、含水炭素ヲ少量ニシ、且ツ體操其他ノ運動ヲ充分ナラシムルヲ要ス、而カモ亦食量ハ甚ダ多量ヲ與ヘズ、一定度迄ニ止メ過剰ノ「カロリー」ヲ産出スベキ程度ニ與ヘザルヲ可トス、脂肪質ノ人ニ於テハヨロシク脱脂療法ヲ行フベキモノトス、其他礦泉療法モ亦補助療法トシテ奏効スルモノナレドモ、甚シク衰弱セル患者ニ於テハ全ク避クベキモノトス。

四、肝臓癌腫 Lebercarcinom (Carcinoma hepatis).

肝臓癌ニ於ケル食養ハ常ニ對症的ニ過ギス、故ニ例令黄疸ノ招來スルコトアレバ黄疸ニ於ケル食養ヲ施シ、食思不振ニ對シテハ之レヲ振作スベキ嗜好品、若シクハ香料ヲ投與スルニ力ムベシ、一般ニ肝臓癌腫ニ於ケル食養ハ牛乳ヲ以テ第一トシ、次テ淡泊ナル魚肉、若シクハ獸肉ヲ以テス、野菜類モ亦新鮮ナルモノヲ用フルヲ可トス、即チ馬鈴薯、花椰菜、蕪青、胡蘿蔔、菠薐草等ヲ用フ、且ツ食粉類ヲ粥狀又ハ羹汁トシテ與フルハ甚ダヨシトス、故ニ玉蜀黍、米、西穀米、「タピオカ」ヲ牛乳ト混ジ、又ハ粉製羹汁トシテ投與スルヲ可トス、然レドモ强烈ナル酒精、即チ「ブランデー」及ビ「ウイスキー」ノ如キハ絶對ニ與フルヲ禁ズ、唯少量ノ赤酒等ハコレヲ許可スルモ敢テ不可ナキモノトス。

五、肝臓充血 Leberhyperaemie

食養上注意スベキハ其原因ヲ探究スルニアリ、殊ニ本病ハ食品ニ由來スルコト多キヲ以テ食養ハ特ニ注意スルヲ要ス、即チ貪食者ニ多キト、辛辣ノ香料ヲ多量ニ攝取スルト、酒類ノ飲用トハヨク本病ヲ來スモノナルガ故ニ、先ツ其原因ニ溯リテ後食養療法ヲ講ズルヲ可トス。

患者ハ須ク先ツ酒精飲料ヲ廢シ、食品ヲ多食スルヲ禁ジ、且ツ香料ハ甚シク辛辣ナルモノヲ用ヒザルニ力メザルベカラズ、諸種ノ食品中先ツ制限ヲ要

スベキモノハ含水炭素食品ニシテ、殊ニ脂肪質ノ患者ニ於テ然リトス、故ニ淡泊ナル魚肉若シクハ牛乳ノ如キモノヲ推賞スベキモノトス、且ツ患者ヲシテ日常ノ便通ヲ正常ナラシメ、運動(散策、體操等)ヲ充分ニシ、新鮮ナル空氣ノ下ニ活動セシムルヲ上策トス、故ニ轉地療養ハ最モ奬勵スベキコトトス、且ツ又礦泉療法(亜爾加里泉ヲヨシトス)ハ大ニ奏効ス。

六、逍遙肝及ビ絞縊肝 Wanderleber und Schnürleber.

逍遙肝ニ於テハ食養上特殊ノ注意ヲ拂フコト能ハズ、唯此場合ニ於テハ肥胖療法 Mastkur ニヨリ、充分ナル榮養ヲ補給スルヲ以テ足レリトスルノミ、絞縊肝モ亦別ニ論ズキノ食養ナキモノトス。

第五章 膵臓疾患ノ食養療法 Diätbehandlung der Pankreaskrankheiten.

膵臓疾患ヲ論ズルニ當リテハ、先ツ膵臓官能ヲ知悉セザルベカラズ、元來膵臓ヨリ分泌スル消化液ハ三種ニシテ【膵臓(チアスターゼ(即チ膵臓糖化素)

二、「ステアプシン」(即チ脂肪分解素)(三、「トリプシン」(即チ蛋白消化素)コレナリ故ニ膵液ノ分泌セラレテ腸内ニ莅ムヤ、常ニ此三酵素ノ作用ニヨリ、含水炭素、脂肪及ビ蛋白ハ消化ノ運命ニ接スルモノトス。

フォン、メーリング、ミンコースキー氏等ノ試驗ニヨルニ、犬ノ膵臓ヲ除去スル時ハ、攝取シタル澱粉ノ多量ハ變化ナク便中ニ現ハルルモノトス、麵麭ヲ與フル時ハ其内ニ含有スル澱粉ノ三〇—四〇%ハ便中ニ現ハレ、一部ノ剔出ニ於テハ一五—二〇%ヲ出ス、人ニアリテモ亦此ノ如キ關係アルモノヽ如シ、蛋白質消化ハ膵臓ノ全剔出ニ於テハ攝取セシメシ肉類ノ約四〇%ヲ吸收シ、一部ノ剔出ニ於テハ約五四%ヲ吸收セリ、ザンドマイエル氏ハ其五分ノ四ヲ除去シタリシニ六〇—七〇%吸收セラルヽヲ見タリト云フ、故ニ腸内ニ來ル膵液ノ多少ニヨリ、其消化ニ增減ヲ來スハ明カナル理ニシテ、該動物ニ食品ト共ニ牛膵ヲ共食セシムル時ハ其吸收一層大ナルヲ以テ明カナリ、脂肪ノ消化モ亦膵臓ノ除去、若シクハ一部ノ切除ニヨリ、大ニ阻害セラルヽモノナリ、コレ一ハ其分解ニ異狀ヲ來シ、一ハ吸收ヲ阻害スルヲ以テナリ、膵臓ナキ犬ニ就テ試驗セル結果ニヨレバ、脂肪ノ分解ハ腸ノ深部ニ至ル

ニ從ヒ愈々多ク、分解セラルヽヲ見ルモノナリ、即チ空腸ノ上部ニ於テハ三二%、廻腸ニ於テハ五七%、結腸ニアリテハ七六%ヲ分解シ、脂肪酸トシテ存スルヲ見ル、コレ必竟腸管内ニ存スル細菌ノ作用ニヨルモノナラントハ多クノ學者ノ唱フル所ニシテ、脂肪分解力ハ單ニ膵液ニノミ存スルモノニアラザルベシト云フニ至レリ、且ツ其分解及ビ乳化作用ハ胆汁ノ存在ニヨリ影響セラルヽコト極メテ大ナルヲ以ヲ、胆汁ノ缺乏若シクハ減少ヲ來ス場合ノ如キハ、從ツテ其消化モ亦不充分ナリトス。

元來膵臓疾患ヲ臨床的ニ證明スルハ極メテ至難ニシテ、且ツ其治療法ノ如キモ、直接ニ内科的療法ヲ加ヘ得ルモノ少ナク、全ク對症的療法ニ過ギザルナリ、例令膵臓壞疽、膵萎縮、膵臓癌、慢性炎症ノ如キ何レモ皆對症療法ニシテ唯時ニ應ジ外科的治法ヲ見ルコトアルノミ、從ツテ食養療法モ各疾患ニ對シテ特殊ノ法アルニアラズ(唯糖尿病ニ關シテハ後章述ブル所アルヲ以テ今茲ニ贅セズ)。

要スルニ吾人ガ便檢査ヲ實行スルニ當リ、著シク蛋白ノ不消化(不消化性肉纖維)ヲ來シ、若シクハ脂肪ノ消化惡シキ時ハ、宜シク疑ヲ茲ニ存シ、以テ充分

牛豚ノ膵臓ハ膵患者ノ食養トシテ盛ニ用セラル

「パンクレオン」及ビ「パンクレアチン」

ナル食養ヲ講ゼザルベカラズ、元ヨリ脂肪便ノ如キハ肝臓疾患ニ際シ黄疸症狀ヲ來セル時ニ當リテモ往々見ル所ナレドモ、膵臓疾患ニ於テモ來リ得ルヲ以テ食養ハ肝疾患ノ黄疸患者ニ於ケルガ如キモノヲ以テスベシ、モシ蛋白消化著シク障碍セラレ、同時ニ脂肪便ヲ來スニ至レバ、コレニ投ズルニ一定ノ食品以外膵液ノ補助タルベキモノヲ與ヘザルベカラズ、故ニ先ツ一定ノ食品例令炙燒セル牛肉、麵麭、米飯又ハ牛乳ヲ與ヒ、然ル後膵液ノ補助タルベキモノヲ與フルヲ可トス、此場合ニ於テハ可成蛋白量ヲ多クシ、一日百瓦以上ヲ攝取スルニ力ムベシ、而シテ膵液補助トシテハ、牛若シクハ豚ノ膵臓ヲ取リ、ヨクコレヲ乳鉢ニテ擦リ、乳劑トシ又ハ極メテ微細ニ切截シ、胡椒食鹽等ヲ加味シテコレヲ攝取セシムルニアリ、然レドモ患者往々嫌忌ノ念ヲ發スル者アルヲ以テ細剉セル牛肉ト共ニコレヲ麵麭ニ塗リテ食セシムルヲ可トス、通常コレニ要スル膵臓ハ一日牛又ハ豚膵ノ四分ノ一乃至二分ノ一タルベシ。

其他尚ホ膵液消化ノ代用ヲナスベキモノアリ、即チ「パンクレオン」及ビ「パンクレアチン」ニシテ粉末及ビ錠劑トシテ市場ニ販賣セラル、通常亞爾加里ト

伍シテ與フル時ハ最モヨク奏効ス、ボアス氏ハ炭酸曹達及ビ「バンクレアチン」ノ各〇、五ヲ一包トシ、食後十五分ノ後其二包乃至四包ヲ與フルヲ例トセリ、ライヒマン氏ハ牛膵ヲ取リ一二乃至一五%ノ酒精五〇〇、〇中ニ冷浸シ、二三日冷處ニ放置シタル後濾過シテ飲用セシメタリ、其量一乃至二酒盞ニシテ食後ニ與フルヲ例トセリ。

第六章　腹膜疾患ノ食養療法 Diätbehandlung der Erkrankungen des Bauchfells.

一　急性廣汎性腹膜炎 Acute diffuse Peritonitis

絶食ノ價値

急性廣汎性腹膜炎ニ於テハ、身體ノ絶對的安靜ヲ要スルハミナラズ、精神上ハ安靜モ亦甚ダ必要ナリ、加之胃腸器官ヲシテ決シテ勞セシムベカラズ、故ニ疾病ノ初期ニ於テハ全ク絶食セシメ、病勢ノ如何ニヨリ內科的療法ニ依ルカ、若シクハ手術セザルベカラザルカヲ決定シ得ル迄ハ絶食療法ヲ持續スベシ、要スルニ絶食セシムル所以ハ腸管ノ蠕動機ヲ沈靜ナラシメ、鼓腸ヲ減少シ、就中嘔吐ヲ阻碍スルハ良法タルヲ以テナリ、此際嘔吐沈靜ノ目的ヲ以テ或ハ氷塊ヲ嚥下セシメ、若シクハ炭酸含有ノ飲料ヲ攝取セシムルガ如キハ斷ジテ不可ナリ、唯口渴甚シキニ當リコレヲ醫セシメンガタメニ氷塊ヲ口中ニ入レ全ク溶解スルノ後再ビ口外ニ吐出セシガ如キハ即チ可ナリ、然レドモ決シテ嚥下スルヲ許サヾルモノトス。

病勢ノ危險ナ經過シタル後初メテ食養ノ要アルモノトス

疾病漸々減退ノ傾キヲ呈スル時ハ二—四日目ニ至リ、初メテ少量ノ液性食品ヲ許可ス、該食品ハ常ニ冷却シテ飲用スルモノトス、此ノ如クニシテ敢テ嘔吐、吃逆、疼痛若シクハ鼓腸ノ增進ヲ見ザル時ハ即チコレヲ持續シテ可ナリ、然レドモ炭酸水等ハ尙ホ嚴禁スルヲヨシトス。

要スルニ該疾患ニ對シテ食養ノ必要ヲ感ズルハ、病勢ノ趨向ヲ知リタル後ニアリトス、故ニ忽然トシテ現ハレタル生命ノ危險ガ、或ハ幸運ナル經過ヲ取ルカ、若シクハ手術ニヨリテ全ク消散シタル後ニ於テスルモノニシテ、其何レカヽ決定セラレザル間ハ多少ノ時日ヲ空過スト雖モ患者ヲシテ絶食セシムルヲ可トスルモノナリ、且ツ又幸運ナル經過ヲ取リシ後ト雖モ、食養ノ法ハ常ニ嚴密ナルヲ要シ、細心留慮病勢ノ如何ニ準據シ、決シテ忽ニスベカラザルモノナリ、故ニ豫ジメ一定ノ食養ヲ明示スル能ハザルモノトス、然

レドモ體力甚シク衰弱スルニ至レバ決シテ袖手傍觀スルノ秋ニアラザルヲ以テ、直チニ直腸榮養法ヲ應用シ、經過ノ如何ニ顧ミ、恰モ窒扶斯患者ニ於ケルガ如キ食養ヲ講ズル時ハ蓋シ大誤ナキモノトス。

二、急性限局性腹膜炎 Acute circumscripte Peritonitis

廣汎性腹膜炎ノ初メニ現ハルヽコトアルモ、而カモ初メヨリ終ニ至ルマデ一局部ニ限局スルコトアリ、而シテ胃サレタル部分ニヨリ肝包膜炎、脾包膜炎、盲腸周圍炎、子宮外膜炎等ノ名稱アリ、今余ハ此等ノ諸種ヲ一括シテ其食養ヲ論ゼントス。

本病ニ冒サレタル時ハ身體ヲシテ絶對的安靜ナラシムルハ最モ必要ナル條件ニシテ、殊ニ腸ニ於テ然リトス、故ニ食養ハ專ラ嚴密ナルヲ要ス、ザーリー氏ハ食養ニ最モ重キヲ措キ、穿孔ヲ來サヾル場合ト雖モ、急性ノ際ニ於テハ口腔ヨリ食品ヲ供給スルハ全ク禁ズベキモノトセリ、故ニ固形品ハ元ヨリ液性食品ト雖モコレヲ與フルハナク、全ク滋養灌腸若シクハ少量ノ水液注腸ヲ許可スルハミ、然レドモ其症狀著シカラザル時ハ場合ニヨリ單ニ水ヲ

許スコトアリ、カヽル場合ニ於テハ常ニ氷水ナラザル通常ノ井水ヲ以テスルヲ可トス、コレ水ノ少量ハ容易ニ小腸ニ於テ吸收セラルヽヲ以テナリ、此ノ如クニシテ疾病ノ經過幸運ニ趨ク時ハ、初メテ口腔ヨリ液性食品ヲ與フルモノトス、殊ニ肉羹汁ノ如キモノ即チコレナリ、肉羹汁中ニハ可成他ノ食品ヲ加伍セザルヲ可トス、且ツ日ヲ經ルニ從ヒ漸次穀粉、鷄卵、及ビ牛乳ノ如キモノヲ與フ、然レドモ常ニ細心食養ニ注意シ腸管內ニ瓦斯ヲ形成スルモノ、及ビ蠕動機ヲ亢進セシムルガ如キモノハ決シテ用フベカラズ。

三、慢性腹膜炎 Chronische Peritonitis

慢性腹膜炎ハ通常分チテ三種トス、一、慢性滲出性腹膜炎、二、慢性癒着性腹膜炎及ビ三、結核性腹膜炎コレナリ、何レノ場合ニ於テモ身體ノ安靜ハ最モ必要ニシテ、次デ新鮮ナル空氣ヲ呼吸シ、力メテ衞生ノ定規ニ從フベキモノトス、食養トシテハ敢テ特殊ノ食養法ナルモノヲ設クルノ要ナク、唯常ニ注意スベキハ腸管ノ勞力ヲシテ可成少ナカラシメ、食思ヲシテ常ニ圓滑ナラシムルニ力メ、身體ノ榮養ヲシテ充分ナラシムベク、極メテ消化シ易ク、且ツ容

易ニ吸收シ易キ滋養品ノ多クヲ供給スルニ力ムベキモノトス。

其他腹膜ノ疾患ニ屬スベキ腹膜ノ腫瘍及ビ腹膜水腫ノ如キハ食養學上別ニ大ナル注意ヲ要スベキモノナキヲ以テ玆ニ省略ス。

第二篇　呼吸器疾患

Erkrankungen des Respirationsapparates.

肺結核食養療法

Diätbehandlung bei Lungentuberculose.

多數ノ結核療法中食養法ハ頗ル重要ナル治法ニシテ、榮養ノ佳良、體重ノ增加ハ一ニ食養ノ良否ニ關シ、從テ疾病自己ノ回復ニ向ツテ大ナル影響ヲ與フルモノナリ、況シヤ本症ニ於テハ病初ヨリ體重ノ減少、榮養ノ不良ヲ來ス者多キニ座スルニ於テオヤ、故ニ吾人ハ該患者ニ接スル毎ニ榮養ノ佳良ヲ計リ、以テ血液成分ヲ良好ニシ從ツテ心力ヲ增進セシメ、病軀ノ組織ヲ强健ニシ微菌ニ對スル抵抗ヲ大ナラシムルニ力メザルベカラズ。

消化器官ハ肺臟ノ疾患ニ對スル保護者タルト同時ニ肺疾患治療ニ對スル唯一ノ幫助者タルハ人皆一致スル所ナリ、故ニ消化器官ノ健全ナルヲ企圖スルハ肺臟疾患ノ回復ヲ計ルニ必要ナル條件ナリ。

要スルニ肺臟組織ニ於テハ尙ホ他ノ組織ニ於テ見ルガ如ク、身體榮養ノ佳

良ニヨリ漸次病的組織ノ改新ヲ見ルニ至ルモノナリ、故ニ身體榮養ノ漸進ヲ計ルハ肺結核治療ノ最大要旨ニシテ所謂肺癆 Schwinden der Lungen ヲ防グハ體癆 Schwinden des Körpers ヲ防グニ過ギザルナリ、故ニ吾人ハ結核患者ノ豫後ヲトスルニ當リテモ、體重ノ增加(浮腫ニ歸因スル體重增加ハ素ヨリ之ノ限リニアラズ)ヲ以テ多少回復ノ運ニ向フモノト見テ差支ナキモノトス素ヨリ確固タル標準ヲ定メント欲セバ、諸他ノ症狀ヲ顧ミザルベカラザルヤ論ナシ、例令發熱患者ニ於テモ病初ニ於テ充分ナル食養ヲ攝ラシムル時ハ、往々體重增加ヲ來スコトアリ、然レドモ之レ全ク一時的ニシテ後ニ至リ漸次疾病ノ增惡ヲ伴ヒ體重減少シ、豫後不良ニ陷ルコト一再ニシテ止マザルモノナリ、故ニ體重增加ハ豫后ヲトスルニ於テ絕對ノ價値ヲ有スルニアラザレドモ、而カモ其大多數ニ於テ良好ノ結果ヲ見ルモノトス。

結核患者ノ食養ヲ論ズルニ當リ一般ニ注意スベキ點ハ次ノ如シ。

一　結核患者ニ對シテ一定ノ標準食餌 Kostmass ヲ數字的ニ決定スルハ至難ノ事ニ屬シ、疾病ノ輕重、發熱ノ有無、若シクハ他ノ合併症ニ注意セザレバ到底決行シ難キモノナレドモ、平均大人一日體重一基瓦ニ對シテ三十乃至

三十五「カロリー」ヲ算出スベキ食養ヲ攝取セシメザルベカラズ。

二　食品ノ撰擇ハ極メテ必要ナル條件ナレドモ、結核菌ノ蔓延ヲ妨害シ、若シクハ毒力ヲ減殺スルニ特殊ナル食品ハ今日發見スルヲ得ザルモノナリ

ドローヅァ Drodza 氏ハ近來食鹽ヲ以テ疾病治療ニ必要ナル食品ト稱スレドモ、毫モ確固タル立脚點ヲ有スルモノニアラズ、唯古來ヨリ世人間ニ信用セラル、食品ハ、蛋白質ニ富メル動物性食品ヲ以テスルニアリ、今日多クノ學者マタ此說ヲ主張シ、主トシテ蛋白質ニ富メル肉類若シクハ其調製品ヲ賞用ス。

三　上述セル如ク患者ハ一般ニ蛋白質ニ富メル動物性食品ヲ賞用スルモ、而カモ疾病ノ狀況ニヨリ、若シクハ身體榮養ノ如何ニヨリ、食品ノ撰擇モ亦大ニ異ナルモノナリ、例令或患者ニ於テ身體ノ脂肪著シク減少スルコトアレバ、主トシテ脂肪食品(例之牛乳、乳脂、牛酪及ビ肝油ノ如キ)若シクハ穀粉食品ヲ應用スルヲ可トシ、マタ或患者ハ結核ノ比較的進捗セルニ關ハラズ、脂肪ノ消失着目ニ價セザルコトアリ(殊ニ婦人ニヨク此例ヲ見ル)然ル時ハ含水炭素及ビ脂肪食品ニ重キヲ措カズ、却テ蛋白若シクハ野菜ニ重キヲ措ク

ガ如シ、

四　食品撰擇ニ就キ更ニ注意スベキハ、食品消化ノ難易ヲ決定スルニアリ、然レドモ疾病ノ初期ニアリテハ大多數ノ患者ハ其必要ヲ認メザルコト多ク、唯容易ニ消化シ易ク、且ツ柔軟ナルモノヲ撰擇スレバ足ル、且ツ食品ハ常ニ偏食スルヲ避ケ、諸種ノ食品ヲ混成シ、決シテ千篇一律ナラザルニ力ムベシ、加之消化器官ノ健全ヲ保持セシムルハ、常ニ念頭ヲ放レシムベカラズ。

ペンツォルト氏ハ胃及ビ腸ニ於テ食品ノ消化セラルヽ難易ヲ研究シ、コレヲ吾人ニ指示セリ、今其大要ヲ摘錄スレバ次ノ如シ。

肉類中最モ消化シ易キモノハ犢牛腦、犢牛胸腺ナリ、鯉、鮭、梭魚及ビ大口魚ハ之ニ亞グ、今左ニ消化シ易キモノヨリ漸次難キニ及ブノ序ヲ述ブレバ犢牛肉、牛肉、羊肉、豚肉及ビ兎肉ナリ、鳥類ニアリテハ鷄肉、鳩肉、鷗、鵠次デ鴨及ビ家鴨ナリ、牡蠣及ビ鹹魚鰯ハ中等度ノ消化ヲ營ムモノナリ。

以上述ベタル肉類消化ノ難易ハ諸種ノ條件ニヨリテ大ニ其度ヲ異ニスルモノナリ、例之筋靭、腱、脂肪及ビ軟骨等ノ除去、若シクハ動物ノ年齡等ニヨリ消化ノ度ニ大ナル影響ヲ與フルモノナリ、一般ニ幼稚ナル動物ノ肉ハ高年

ノモノヨリ消化シ易ク、屠殺後甚ダ新鮮ナルモノハ、少シク時ヲ經タルモノニ比スレバ、消化シ難シ、且ツ肉片ヲ叩打、細剉若シクハ挽肉トナスニヨリ消化シ易キニ至ル、生肉ハ煮タル肉ニ比スレバ一層容易ニ消化セラレ、普通用フル肉羹汁モ骨質ト共ニ製出スル時ハ、滋養價ニ於テモ一層著シク且ツ消化シ易シ、肉類ヲ煮ルニ當リテハ初メヨリ煮沸セル熱湯ニ入ル、時ハ、肉ノ上表ニ存スル蛋白質ハ直チニ凝固スルヲ以テ、內部ヨリ浸出スルヲ妨グルニ至ルヲ以テ、常ニ熱湯中ニ投ズルヲ可トス、強烈ノ火上ニ焙燒シツヽ肉汁ヲ數々注加スレバ獅皮ヲ形成スルヲ以テ、內部ヨリ滋養液ノ浸出ヲ妨害スルヲ以テ一層滋養ニ富ム、燻蒸セル肉ハ煮沸及ビ焙燒セルモノニ比スレバ、恰モ其中間ニ於ケル消化ヲ營ム。

溫肉及ビ冷肉ノ關係ニ就テハ、兩者共ニ消化ニ輕重ナキガ如シ、多量ノ脂肪ヲ夾雜スル肉ハ比較的消化シ難シ。

鷄卵ハ半熟ヲ以テ最モ消化シ易シトシ、次テ生卵、攪卵、凝固卵（煎卵）「オムレツト」ノ順序ヲ以テ消化ス。

牛乳、牛酪及ビ脂肪ハ總論ニ於テ詳述シタレバ略ス。

植物性食品トシテハ木纖維ノ多量ヲ含有シ、少量ノ水分ヲ有スルモノハ最モ消化シ難シ、然レドモ粉碎、細剉若シクハ挽製ニヨリ、或ハ木纖維ヲ除去スル時ハ、比較的消化シ易キニ至ル。

綠色野菜類ニ就キ比較的消化シ易キモノヨリ列記スレバ次ノ如シ。

天門冬(煮タルモノ)、天門冬(サラード)、胡蘿蔔、菠薐草ノ順序ナリ。

煮タル果實ハ生果ヨリモ消化シ易ク、麵麭類ニ於テハ「ケーク」、「ツキーバック」白麵麭次デ黑麵麭ノ順序ヲ以テ消化セラル。

以上ハ重ニ胃消化ヲ基礎トシテ論ジタルモノニシテ腸消化ヲ顧ミル時ハ多クハ其吸收ニ重キヲ措キテ論ゼザルベカラズ、今ルブネル氏ノ試驗ニヨリ消化シ易キモノヨリ漸次列記スレバ次ノ如シ。

肉類、鷄卵、マカロニー、白麵麭、牛乳、米飯、玉蜀黍、綠色蕪菁、甘藍、馬鈴薯及ビ黑麵麭ナリ。

脂肪ノ吸收ハ腸內ニ於テ比較的良好ナルハ人ノ知ル所ナリ。

五 調理ノ法ハ常ニ充分ナル注意ヲ以テシ、其味ヲ良好ニシ、同時ニ香料ノ撰擇ニ意ヲ用ヒザルベカラズ、然ラザレバ食思ノ不振ヲ回復シ、若シクハ食思ヲ增進セシムルニ不利少ナカラザレバナリ、實ニ一品ノ調理ト雖モ、其味ヒ粗惡ナル時ハ全部ノ食品ヲ嫌忌スルニ至ラシムレバナリ。

六 食膳ニ上ラシムル食品ハ其種類ヲ多クシ、力メテ多量ノ榮養品ヲ攝取セシムベシ、且ツ食前患者ニ對シテ食箋ヲ知ラシムベカラズ、加之一定時日ニ於テ一定ノ食品ヲ供給スルガ如キハヨロシカラズ。

食思ノ欠損ヲ來セル患者ハ、往々溫カナル食品ヨリハ冷カナル食品(燒肉、腸詰ノ如キ)ヲ欲スルコトアリ、且ツ木纖維ノ少ナキ野菜及ビ煮タル果實ノ如キハ投與シテ差支ナキモノトス。

七 食卓ニ對シテ少量ノ葡萄酒等ヲ飲用スルハ食品攝取ヲ亢進セシムルニ利アリ、殊ニ甚シキ食思不振ノ患者ニ對シテ良果ヲ收ムルコト少ナカラズ。

八 食事ハ一日二乃至三回ト決定セズ、數次ニ攝取セシムルヲ可トス、例令主食ヲ二乃至三回トシ、間食ヲ二乃至三回トスルガ如シ。

九 液質攝取ハアル程度迄制限セザレバ、徒ラニ胃液ヲ稀釋シ消化ノ進行ヲ妨グルニ至ルモノナリ、故ニ液質ハ可成少量ヲ攝取セシムベシ。

十　發熱患者ニ對スル食養ハ甚ダ困難ナリ、何トナレバ發熱患者ノ多クハ食思ノ欠損ヲ來スヲ常トスレバナリ、然レドモ數日ヲ經過スレバ醫及ビ看護婦ノ力ニヨリ、多クハ適當ノ食品攝取ヲ來シ得ルモノトス、慢性ニ亘リテ發熱スル時ハ、往々榮養ノ道ヲ疎外シ、タメニ不測ノ不幸ヲ見ルニ至ルコトアルヲ以テ最モ注意セザルベカラズ。

發熱患者ノ食養ハ消化器官ノ狀態、患者ノ素質及ビ願望ニ顧ミ適當ノ所置ニ出デザルベカラズ、元來發熱ニヨリ腸管ノ吸收作用ニ影響ヲ及ボスコト極メテ少ナキモノナレドモ、而カモ胃消化ニ至リテハ多クハ一定ノ障礙ヲ來スモノトス、コレ必竟唾液分泌ノ減少(故ニ液性食品ヲ欲スル者多シ)ニ歸因スルモノナリ、然レドモ鹽酸分泌ハ大ナル影響ナシ、故ニ食品中ニ適當量ノ香料ヲ加伍スルニヨリ、却テ其分泌ヲ正常ナラシムルヲ得ルモノナリコレイムメルマン、ヒルデブラント及ビクレムペレル氏等ノ唱フル所トス、胃ニ於ケル他ノ官能障害、例令吸收、運動力ノ如キハ腸管官能ニヨリ容易ニ代償シ得ルモノナリ。

要スルニ發熱セル場合ニ於テハ、食品ノ量ヲ少量宛二三時間ニ攝取セシムルヲ可トス、且ツ時々食品調理ノ法ヲ變換シ、若シクハ其種類ヲ換フルニ力メ、加之充分柔軟ナルモノヲノミ撰擇シ、木纖維ニ富メル食品ハ可成之ヲ避クルニ力ムベシ、故ニ吾人ハ先ツ蛋白食品ヲ賞用シ、牛肉、鳥肉及ビ大麥其他ノ穀粉羹汁ニ鷄卵、肉越幾斯等ヲ混合シテ供用ス、且ツ牛乳ノ多量ヲ與ヘ、加之人工蛋白調製品ヲ以テスルハ頗ル妙ナリ、要スルニ何レノ場合ニ於テモ刺戟少ナキ食品ヲノミ撰定スベシ、コレ即チノールデン氏ノ「化學的構成ニノミ懸念センヨリハムシロ器械的刺戟ヲ恐ルヽニアリ」ト云フニ一致ス。

粥狀食品モ亦往々應用セラルヽモノニシテ牛乳粥、牛乳、タピオカ粥、大麥粥小麥糊泥等ハ牛酪ト共ニシ最モ賞用セラル、其他無數ノ「プッデング」、穀粉調製品等ハヨク其用ニ供セラレ「クリーム」食品、葡萄酒及ビ肉凝膠其他ノ膠質含有食品モ亦廣ク食用トナスニ足ル、脂肪ヲ充分ニ供給スルハ少シク困難ヲ感ズルモノナリ、然レドモ吾人ハ牛乳ノ多量ヲ以テ其代償ヲナサシムルヲ得ベシ(後掲參照)。

其他結核患者ニ對スル食養ノ常規ハ胃及ビ腸ニ於ケル食養總論ニ就テ參考スルヲ要ス。

食思缺損及ビ消化不良ニ對スル食養療領

藥品ヲ以テ食思亢進ノ補助トナスベシ

結核患者ニ對スル食養ノ大略ハ前述セル如クナルモ吾人ガ該食養法ヲ實行スルニ際シ、最モ困難ヲ覺ユルモノハ實ニ食思ノ缺損及ビ消化不良ノ症狀ナリ、故ニ榮養法ヲ講ズルニ當リテハ須ラク是等ノ困難ヲ打破セザルベカラズ。

食思缺損ハ往々結核患者ニ現ハレ、榮養增進ノ途ヲ妨グルモノナリ、而シテ其原因タルヤ、或ハ發熱ノタメニ來リ或ハ烈シキ咳嗽ニヨリ食品攝取ヲ不可能ナラシメ、若シクハ喉頭結核ノ存在ニヨリ、疼痛ヲ感ズルニヨリ攝食ヲ欲セザルニヨル、然レドモ食思ノ缺損ハ敢テ重症患者ニノミ來ルニアラズシテ、輕症患者ニ於テモ亦往々現ハル、症狀ナルヲ以テ、必ズシモ一定ノ原因ヲ擧グル能ハザルモノトス、且ツ食品ノ種類、調理ノ方法及ビ習慣ニヨリ、食思ノ缺損ヲ來スコトアリ、加之精神感動ニヨリテモ亦多少食思ニ影響スルモノナリ。

患者モシ食思ノ缺損ヲ來スニ當リ、其原因トモ見做スベキモノヲ發見スルヲ得バ、須ラク之ヲ除去シ、然ル後食養ヲ講ゼザルベカラズ、例令高熱アレバ下熱藥ヲ投ジ、咳嗽及ビ喉頭ノ疼痛著シキ時ハ、食前鹽酸莫兒比涅ノ皮下注

射ヲ施スガ如シ、全身ノ諸官能衰頽ノ結果、食思不振ニ陷ル場合ニ於テハ患者ヲシテ新鮮ナル空氣ヲ呼吸セシメ、健胃劑例令番木鼈劑、結列阿曹篤「オレキシン」ノ如キモノヲ投與シ、以テ食思ノ亢進ヲ促ガサヾルベカラズ。

患者自己ノ居宅ニアリテハ周圍ノ關係上、到底食思ノ不振ヲ回復スル能ハザル時ハ須ク病院治療ニヨルヲ可トス、然ル時ハ醫師及ビ看護婦ノ力ニヨリ、日常生活ヲ整然タラシメ、衛生ノ常規ヲ守ラシムルヲ得、同時ニ食養ノ法モ亦自ラ疾病ニ適應セシムルヲ得ルヲ以テナリ。

消化不良ノ症狀ハ結核患者ニ往々現ハル、ヲ以テ須ラク其匡濟ニ力メザルベカラズ。例令上腹部ニ於ケル壓重、膨滿、嗳氣、惡心若シクハ食後胃部ニ於ケル不快感ノ如キハ最モ多クノ患者ニ見ル所ナリ、コレ必竟身體漸衰ノ致ス所ニシテ胃ニ於ケル消化力ノ如キハ敢テ大ナル影響ヲ受クルモノニアラズ、イムメルマン氏ノ研究ニ徵スレバ、消化不良ノ症狀ヲ呈スル際ト雖モ胃液ノ性狀及ビ運動力ニハ殆ンド變化ヲ認メザルコト多シト云フ、デッドワイレル氏モ亦結核患者ノ九四・四「プロセント」ハ官能障害ヲ見ザルコト多シト云ヘリ、クレムペレル及ビヒルデブランド氏ハ發熱患者ニ於ケル胃液ノ

分泌ハ大ナル影響ヲ受クルコト殆ンドナシト云ヘリ。

實地臨床上胃ニ於テ多少ノ障害ヲ覺ユルハ加答兒、酸欠乏若シクハ筋肉衰弱等ノ現存スル場合ニシテ、所謂合併症ノ存立ヲ來ス際ニアリトス、故ニ胃官能ノ障害ヲ來スヿナクシテ消化不良ノ症狀ヲ呈スルニ至ルハ、必竟假性消化不良 Pseudodyspepsie ト見テ差支ナシ、然レドモ結核ノ末期ニ及ビ腸結核ヲ來スニ至レル場合ノ如キハ、胃モ亦同時ニ冒サルヽコトアリ、カヽル場合ニ於テハ全身ノ榮養モ漸ク阻害セラレ、所謂純粹ノ消化不良ニ陷ルモノトス。

胃消息子ニヨリ胃內ノ官能障碍ヲ探究シ、他覺上敢テ變化ヲ認メザル時ハ所謂結核患者ニ於ケル假性消化不良ニシテ、尙ホ未ダ輕症ノ間ハ持長シ來レル牛乳食養ノ如キハ一時之ヲ中止シ、三回ノ主食ヲ數回ニ分用セシメ、且ツ轉地、水治法ノ如キモノヲ應用スベシ、然レドモ少シク執拗ノ場合ニ於テハ到底其目的ヲ達スル能ハザルコトアリ、此ノ如キ場合ニ於テハ時トシテ胃洗滌ヲ施シ、精神的、器械的ニ症狀回復ヲ促ガサヾルベカラズ。

嘈囃モ亦多食スル場合ニ往々出現スル症狀ニシテ、牛乳或ハ他ノ食品ニヨリテ來リ、若シクハ脂肪含有食品ヲ攝取スルニヨリテ來ルコトアリ、此場合ニ於テモ胃洗滌ハ屢々奏効スルコトアリ。

便秘症狀ヲ呈スル時ハ先ヅ食養ニヨリテコレヲ除去スベシ、故ニ煮タル果實、黑麵麭及ビ野菜類ノ少量ヲ與ヘテ矯正ニ力メ、且ツ下腹部ノ按摩ヲ施シ尙ホ奏効セザル場合ニ於テハ、灌腸ニヨリ、若シクハ緩和ナル下劑(例令「カスカラサクラダ」流動越幾斯ノ如キ)ニヨリテ排便セシムルニ注意スベシ。

結核患者ノ乳汁食養

結核患者ニ牛乳ヲ應用スルハ頗ル賞用スベキ食養ナリトス、コレ滋養素ノ總テ(脂肪、蛋白及ビ含水炭素)ヲ含有スルト、胃腸ノ粘膜ヲ刺戟スルコト極メテ少ナキト、食思不振ノ患者ニ於テモ比較的ヨク受容シ得ルトニヨリ、普ク賞用ニ値スルモノナリ、就中吾人ノ常用スルハ牛乳ニシテ次テ驢馬乳及ビ山羊乳モ亦屢々其用ヲ見ルモノトス、而シテ牛乳ヲ飲用スルニ當リテハ常ニ煮沸シ滅菌スベキモノタルヤ論ナシ。

牛乳ハ人ニヨリ嫌忌スルコトアルモ、多クハ曾テコレヲ試用セザリシニヨルカ、若シクハ永時日飲用セザリシニ歸因スルコト多シ、故ニ此ノ如キ場合

ニ遭遇セバ醫師ハヨク有用ノ榮養品タルヲ諭告シ、疾病治療ニ缺クベカラザルヲ說明スル時ハ比較的飲用ニ堪ニ得ルモノナリ、モシ亦其味ヒ良好ナラザルヨリ飲用ヲ欲セザル時ハ、珈琲、茶、柯々阿ヲ注加シ、殊ニ男子ニ於テハ菖蒲若シクハ「ウイスキー」等(約二五〇・〇ノ牛乳ニ菖蒲又ハ「ウイスキー」ノ半乃至一茶匙ヲ入ル)ヲ加伍シテ飲用セシム、且ツコノ酒精飲料ヲ注加スル間ハ力メテヨク牛乳ヲ攪伴スベシ、然ラザレバ酒精ニヨリ「カゼーン」ノ凝固ヲ來スヲ以テナリ。

牛乳飲用後消化障害ヲ來スコト往々コレアリ、例令膨滿、腹鳴、嘔氣、嘈囃、下痢或ハ便秘ノ如キコレナリ、膨滿感ノ如キハ一部患者ノ精神的嫌忌ニヨルコトアルヲ以テ、是等ハ醫ノ諭示ニヨリ容易ニ消滅セシムルヲ得ベシ、然レドモ亦全ク不良ノ乳汁ニヨリ胃腸ノ障害ヲ來スコトアルヲ以テ注意スベシ下痢ヲ來ス時ハ須ク先ツ牛乳ノ性狀ヲ檢査シ、然ル後一定ノ防遏策ヲ講ズベシ、故ニ少量ノ菖蒲若シクハ二十瓦乃至三十瓦ノ石灰水ヲ牛乳二〇〇・〇ニ加伍シ、制痢ノ効ヲ奏スルコトアリ、此ノ如クニスルモ尙ホ下痢已マザル時ハ、已ムナク一時牛乳食養ヲ中止シ、症狀全ク回復スルニ及ンデ、再ビ徐々

乳汁食養ニ於ケル一日ノ分量

ニ乳汁食養ヲ試ムベシ、之レニ反シ便秘ヲ來スニ至レバ牛乳中ニ重曹若シクハ炭酸水等ヲ注加シテ飲用セシムベシ、或ハマタ酸乳、牛酪乳ノ如キモノト交代ニ投與スルカ、若シクハ牛乳中ニ乳脂ヲ加ヘテ飲用セシムルヲ可トス。

患者已ニ牛乳食養ニ堪ユル時ハ一日三〇合乃至六〇合ト定メ、三主食毎ニ一合宛ヲ給與シ、且ツ間食トシテ五勺乃至一合宛攝取セシムベシ。

如何ナル方法ニヨルモ牛乳攝取ヲ欲セザル時ハ、吾人ハ其代用品ヲ他ニ求メザルベカラズ、通常最モヨク用ヒラルヽモノハ穀粉羹汁ニシテ豆粉、大麥粉、小麥粉、澱粉等ヲ以テシ、或ハ粥及ビ肉「プレー」肉液等ヲ賞用ス、歐人ニ於テハヨク乳酒ヲ推賞スルヲ見ル、乳酒ハ一日四回一回量一猪口ヨリ初メ、漸次增量一日二〇〇・〇—三〇〇・〇ニ至ルモノナリ、脂肪ハ一定度迄牛乳ノ代償ヲ來シ得ベキヲ以テ普ク世ニ行ハル、就中肝油、胡麻油、牛酪及ビ「リバニン」等ナリ、肝油ハ昔ヨリ食養上必要ナルモノトシテ、世ノ賞讃ヲ博シタリシモ、其味ノ良好ナラザルト、往々消化障害ヲ來スヲ以テ、今日顧ミル者少ナシ、胡麻油ハスチューベ及ビフォン、ノールデン氏ニヨルニ比較的多量ノ滋養價(一〇〇・〇

ノ胡麻油ハ九三〇(カロリー)ヲ含有スルヲ以テ屢々用ヒラルヽモ、コレ亦容易ニ嫌忌ノ念ヲ起シ易ク、且ツ往々消化障害ヲ起スヲ以テ、今日廣ク行ハレズ、通常一日一食匙乃至三食匙ヲ用フ(「リパニン」ハ脂酸ノ多量ヲ含有スルモ結核患者ニ應用セラルルコト少ナシ、

牛酪ハ食品調理ノ際、若シクハ食用脂肪トシテ最モ多ク用ヒラルヽモノニシテ、其味ノ不良ナラザルト、比較的容易ニ溶解シ易キト、滋養價ノ多量(百瓦ノ牛酪ハ約七九〇(カロリー)ヲ含有ス)ヲ含有スルヲ以テ、コレヲ麵麭ニ塗リ、又ハ他ノ食品調理ニ用ヒ、若シクハ單獨ニ食用ニ供セラル、乾酪モ亦脂肪ノ多量ヲ含ムヲ以ヲ賞用セラル。

酒精飲料

酒精ハ結核患者ニ對シテ數々應用セラレ、且ツ時ニ極メテ有效ノモノトス、輕症ノ結核患者ニ於テハ應用セラルヽコト少ナキモ、急性、慢性ヲ問ハズ發熱セル結核患者ニ對シテハ必要ナルモノトス、何トナレバ酒精ハ比較的饒多ノ潛熱力(酒精百瓦ハ七百(カロリー)ヲ產出ス)ヲ有スルニヨリ、滋養品トシテ脂肪ノ蓄積ヲ容易ナラシメ、蛋白質消耗ヲ節約セシム(一一九頁—一二九

頁參照)。

酒精飲用ノ効用ニ就キテハ總論ニ於テ述ベタルヲ以テ敢テ茲ニ贅セズ、唯結核患者ニ用フル一二ノ注意ヲ云ハン、患者虛脫ノ狀態ニ陷ル時ハ、酒精ヲ飲用セシムル時ハ、心臟ノ衰弱ヲ回復シ、全身ノ氣力ヲ旺盛ナラシムルニ最モ有効ノモノナリ、且ツ結核患者ニ屢々出現スル盜汗モ亦酒精飲用ニヨリ、多少回復ノ運ニ至ラシムルヲ得ルコト、吾人ノ日常經驗スル所ニシテ、寢前少量ノ苞蒟若シクハ葡萄酒等ヲ用フル時ハ極メテ良果ヲ收ムルコトアリ、其他食思ノ缺損ヲ來セル場合ニ於テ食前若シクハ食事中少量ノ酒精飲料ヲ用フレバ大ニ食思亢進ヲ來スニ至ルコトアリ、且ツ不眠モ亦之ニヨリテ回復スルヲ得ベシ。

貧血甚シク容易ニ惡寒ヲ來ス患者ニ對シテ酒精飲料ヲ用フルハ頗ル良果ヲ得ルモノナリデットワイレル氏ハ一日數回其飲用ヲ試ミシメ數週間持長セシメシニ頭重、眩暈、惡寒ヲ除キ身體溫暖ノ感ヲ呈スルニ至リ身心甚ダ爽快ヲ覺ユルヲ得セシムト云フ、氏ハ食事ニ際シテ白葡萄酒ヲ用フルハ赤葡萄酒ヲ用フルニ勝レリトセリ(赤葡萄酒ハ容易ニ膨滿ノ感ヲ與ヘ、且ツ食思

ヲ充進スル「白葡萄酒ヨリ少ナシ」且ツ發熱患者ニ對シテハ時々酒精飲料ノ種類ヲ變換シテ供給スルヲ可トス、麥酒ハ何レノ場合ニ於テモ胃ヲ膨滿セシメ、胃ノ筋肉弛緩ヲ來スヲ以テ用ヒザルヲ可トス。酒精飲用ヲ禁ゼザルベカラザル場合ハ喀血、咳嗽ノ增進、疼痛ノ劇シキ場合(喉頭結核)及ビ酒精飲用ニヨリ胃炎若シクハ他ノ胃官能障害ヲ來セシ際ニアリトス。

結核患者ノ二大打擊

要スルニ結核患者ニ對スル大敵ハ發熱及ビ消化ノ障害ニアリ、故ニ吾人ハ常ニ此二大敵ニ對シテ充分ナル警戒ヲ要スルト同時ニ消化不良ノ患者ニ對シ、滿足ナル食養ヲ攝ラシメザルベカラズ、エーワルド氏ハ「人ハ働カシムル胃ヲ持ツモノナリ」Der Mensch hat den Magen, den er verdient" ト云ヘリシガ如ク、患者ヲシテ力メテ食品攝取ノ利ヲ知ラシメザルベカラズ、然レドモ眞ニ胃內ノ神經障害ニヨルカ、若シクハ胃液ノ酸異常ヲ呈スル場合ニ於テハ適當ナル食品ノ外峻烈ノ香料ヲ加伍シ、若シクハ食前苦味藥ヲ投與シ、又ハ酒精飲用ヲ攝ラシムル等ニ注意スベシ。

醫及ビ患者ノ時ニ苦惱ヲ覺ユルハ頻繁ニ來ル嘔吐ニシテ多クハ食後ニ來ルヲ常トス、コレ必竟胃ニ一定ノ障害ヲ來スカ、或ハ胃ノ重荷ニヨリ、若シク

喀血ニ於ケル食養

ハ胃粘膜ノ神經過敏ニ因シ、又ハ反射的作用ニ基ク、其他尙ホ强度ノ咳嗽刺戟ニ歸因スルコト頗ル多シ、故ニ此等ノ動機ニ注意シ、器械的藥品的療法ニ依リテ其障害ヲ除去シ、然ル後安靜食養ヲ攝ラシメザルベカラズ。

喀血ヲ來ス場合ニ應用スベキ食養ハ決シテ單簡ナルモノニアラズ、通常喀血ヲ招來セシ場合ハ、身心ノ安靜ヲ主療トシ、次デ合理的冷治法(冷水ノ胸部繃絡、氷囊貼付ノ如キ)ニヨリ、固形品ヲ避ケ、液性食品ヲ主養トスルヲ可トス、出血鎭靜ノ後ニ至レバ微溫ノ食品、若シクハ少量ノ葡萄酒等ヲ與フルモ大誤ナキモノトス、此際咳嗽發作ハ極メテ忌ムベキモノナルヲ以テ患者ヲシテ咳嗽ヲ出サシメザル樣注意セザルベカラズ、要スルニ出血狀態ニアル場合ハ、食品ノスベテハ之ヲ冷却シテ投與スルヲ至當トス、殊ニヨク用ヒラルトモノハ牛乳、穀粉糊泥及ビ淡泊ナル滋養品ニシテ生果及ビ煮タル果實モ敢テ差支ナシ、殊ニ出血ノ多キニ從ヒ、食品ノ撰良及ビ身心ノ安靜ハ最モ注意ヲ要スベキモノトス。

倘ホ諸學者ノ結核患者ニ對スル食養ノ二三ヲ示セバ次ノ如シ。

デットワイレル食餌表